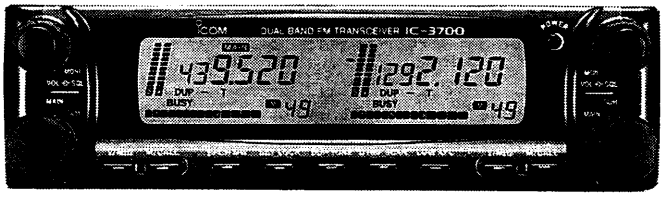
ICOM

取扱説明書

430MHz/1200MHz
DUAL BAND
FM TRANSCEIVER

IC-3700
IC-3700M
IC-3700D



この無線機を使用するには、郵政省のアマチュア無線局の免許が必要です。また、アマチュア無線以外の通信には使用できません。

Icom Inc.

はじめに

このたびは、IC-3700/M/Dをお買い上げいただきまして、まことにありがとうございます。

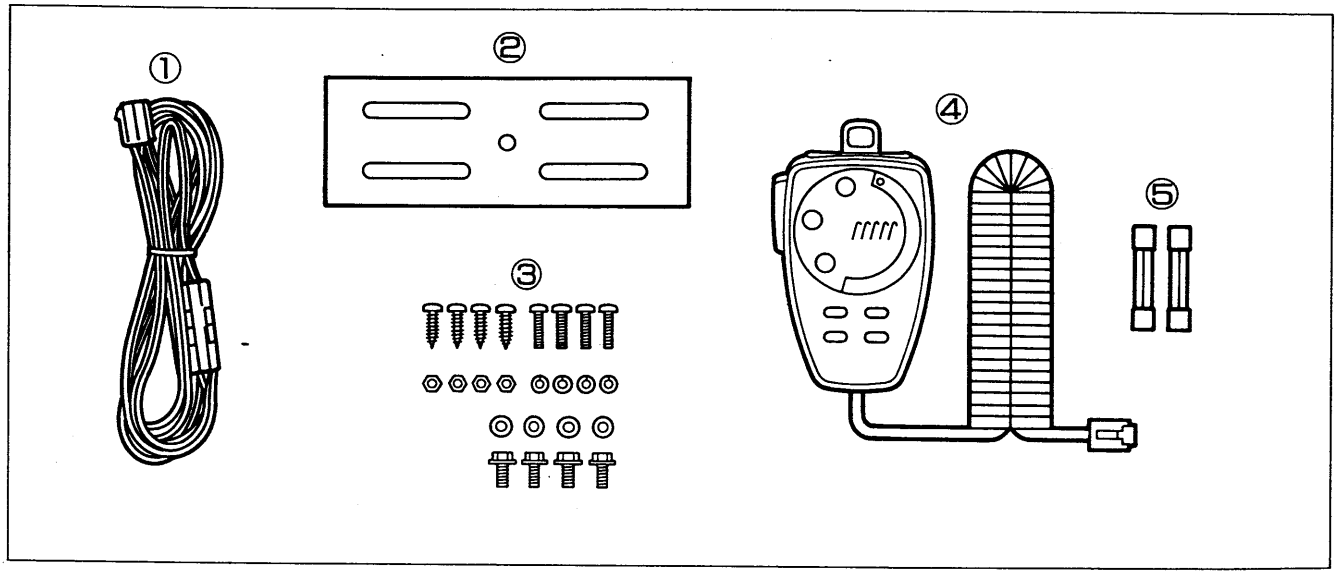
本機は、430MHz帯と1200MHz帯の2バンドを搭載した、デュアルバンドFMトランシーバーです。

430MHz帯の同時受信は元より、各バンド独立した操作部による簡単操作を実現しています。

また、赤外線ワイヤレスリモコンを標準装備することにより、手元からあらゆる操作が可能となりました。

ご使用の際は、この取扱説明書をよくお読みいただき、本機の性能を十分に発揮していただくと共に、末長くご愛用くださいますようお願い申し上げます。

付 属 品



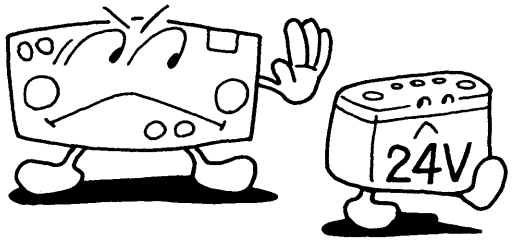
①DC電源コード ……1
(IC-3700 ：OPC-344)
(IC-3700M：OPC-345)
(IC-3700D：OPC-346)
②車載ブラケット ……1
③車載ブラケット用ビス一式 ……1
④ワイヤレスマイクロホン（HM-90） ……1
⑤予備ヒューズ ……2
(IC-3700 ：10A)
(IC-3700M：15A)
(IC-3700D：20A)
●取扱説明書
●愛用者カード
●保証書

目　次

1.ご使用の前に ―― 1
2.各部の名称と機能 ―― 3
　2－1　前面パネル …… 3
　2－2　マイクロホン(HM－90) …… 6
　2－3　ディスプレイ …… 12
　2－4　後面パネル …… 14
3.設置と接続 ―― 15
　3－1　車載時の取り付け場所 …… 15
　3－2　取り付けかた …… 15
　3－3　セパレートによる取り付けかた …… 16
　3－4　電源の接続 …… 19
　3－5　アンテナの接続 …… 20
4.基本操作のしかた ―― 21
　4－1　ワイヤレスマイクロホンの使いかた …… 21
　4－2　バンド[MAIN/SUB]の設定 …… 24
　4－3　操作モード[VFO/MEMO/CALL-CH]の設定 …… 26
5.送受信のしかた ―― 27
　5－1　受信のしかた …… 27
　5－2　送信のしかた …… 34
6.メモリー/コールチャンネルについて ―― 36
　6－1　メモリーチャンネルの使いかた …… 36
　6－2　コールチャンネルの使いかた …… 40
　6－3　LOG(ログ)メモリー機能の使いかた …… 41
7.レピータの運用 ―― 43
　7－1　レピータについて …… 43
　7－2　レピータの使いかた …… 43
8.スキャンのしかた ―― 46
　8－1　スキャンの機能と動作 …… 46
　8－2　スキャン操作をする前に …… 46
　8－3　プログラムスキャンのしかた …… 47
　8－4　メモリー(スキップ)スキャンのしかた …… 52
　8－5　プライオリティスキャンのしかた …… 56
9.SETモードについて ―― 59
　9－1　SETモードの設定項目 …… 59
　9－2　SETモードの操作のしかた …… 60
　9－3　SETモードの項目別詳細 …… 61

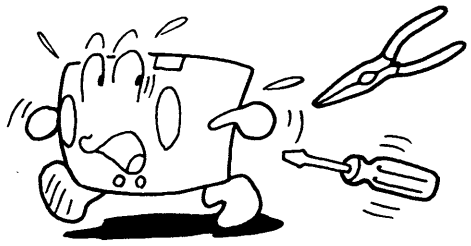
10.イニシャルセットモード 67
10−1 イニシャルセットモードの設定項目 67
10−2 イニシャルセットモードの操作のしかた 67
10−3 イニシャルセットモードの項目別詳細 69
11.その他の機能 73
11−1 同一バンド同時受信機能について 73
11−2 144MHz帯の受信について 75
11−3 シングルバンドで運用するには 76
11−4 DUPLEX運用のしかた 77
11−5 DTMFメモリー機能の使いかた 79
11−6 ページャー/コードスケルチ機能について 85
11−7 オートパワーオフ機能について 96
11−8 ロック機能について 97
11−9 30秒タイマー機能について 98
11−10 ビープ音(操作音)について 98
11−11 外部スピーカー出力について 98
11−12 AFC機能について 99
12.オプション機能について 101
12−1 オプションユニットの取り付けかた 101
12−2 トーンスケルチ/ポケットビープ機能について 103
12−3 ユーザーファンクション機能について 106
12−4 マイクリモート機能について 107
13.保守について 110
13−1 リセットのしかた 110
13−2 ヒューズの交換 112
13−3 故障のときは 112
14.トラブルシューティング 113
15.免許の申請について 115
■ IC-3700/M/D 送信機系統図 116
16.定 格 118

本機はDC13.8V仕様です。



24V系バッテリーの車、およびAC100Vには直接接続しないでください。

内部のコアーやトリマーをさわらないでください。

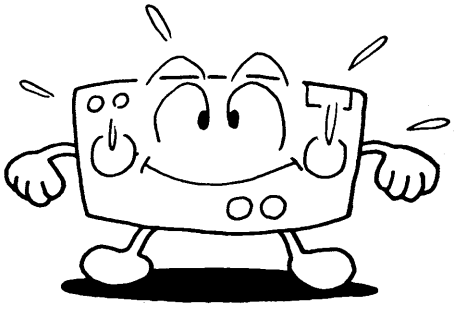


完全調整していますので、本書で指定のないところをさわると故障の原因になります。

シンナーやベンジンは絶対に使わないでください。

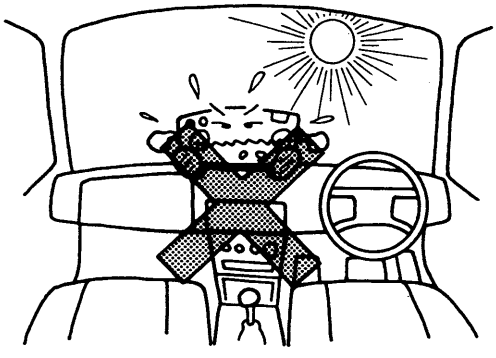
通常は乾いた布で、汚れのひどいときは水で薄めた中性洗剤をひたして拭いてください。

長時間送信すると熱くなりますが、異常ではありません。



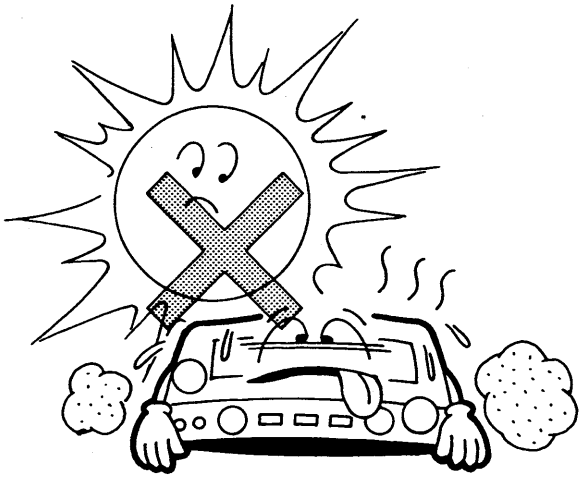
できるだけ風通しのよい、放熱の妨げにならない場所を選び、特に子供や周囲の人が放熱部を触れないようにご注意ください。

直射日光のあたるところに長時間放置しないでください。



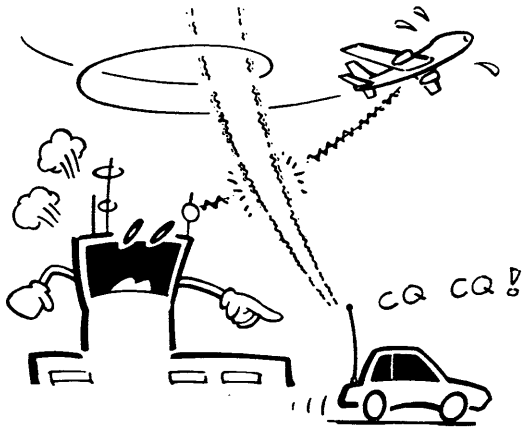
炎天下では車内の温度が極端に上昇し、本機に悪影響を与えます。また、真冬は車内の温度を上げてからご使用ください。

高温、多湿やホコリの多いところでの使用はさけてください。



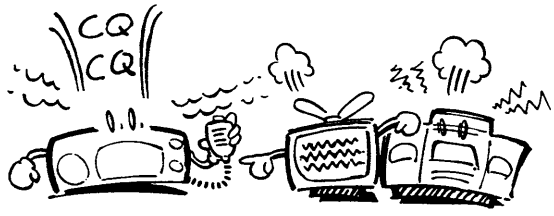
電波を発射する前に

ハムバンドの近くには、多くの業務用無線局の周波数があり、運用されています。
これらの無線局の至近距離で電波を発射すると、アマチュア局が電波法令を満足していても、不測の電波障害が発生することもありますので、十分ご注意ください。
特に次の場所での運用は原則として行わず、必要な場合は管理者の承認を得てください。民間航空機内、空港敷地内、新幹線車両内、業務用無線局および中継局周辺など。



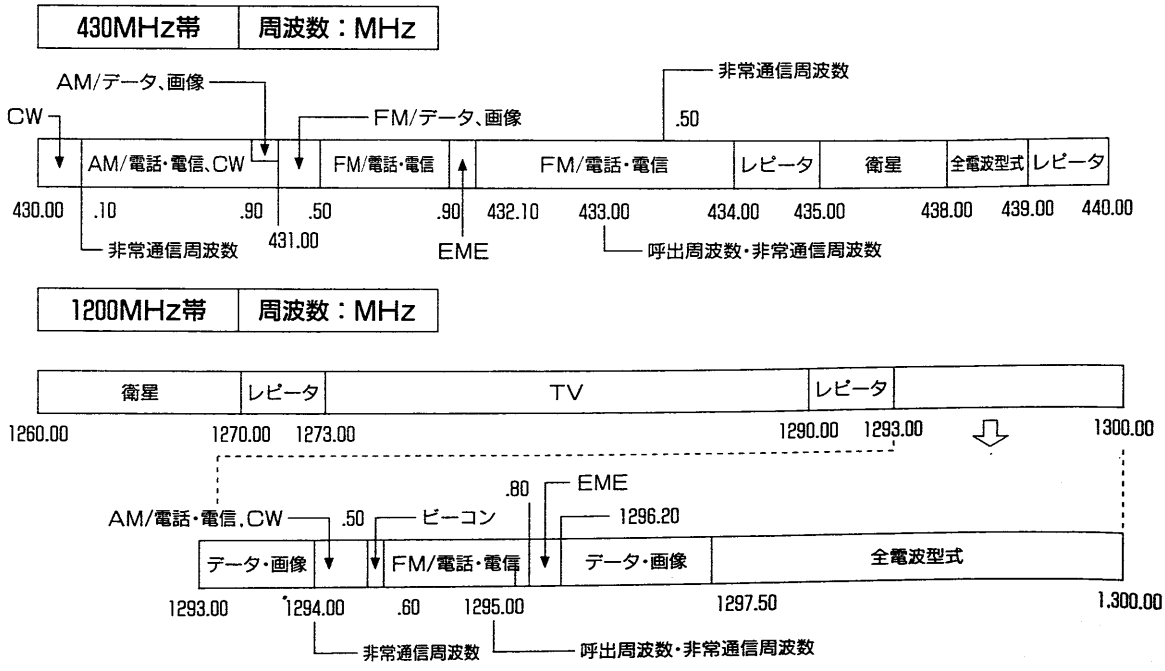
電波障害について

運用中電波障害が発生したときは、ただちに運用を中止して、自局の電波が原因であるのか、また、障害を受けている機器側にあるのかを、よく確かめたうえで適切な対策を講じてください。
JARL（日本アマチュア無線連盟）では、アマチュア局の申し出により、その対策と障害防止の相談を受けておりますので、JARLの監査指導員またはJARL事務局に申し出られるとよい結果が得られると思います。
また、JARLではアマチュア局の電波障害対策の手引きとして「TVI・ステレオI対策ノート」を有料配布していますので、JARL事務局へお問い合わせください。

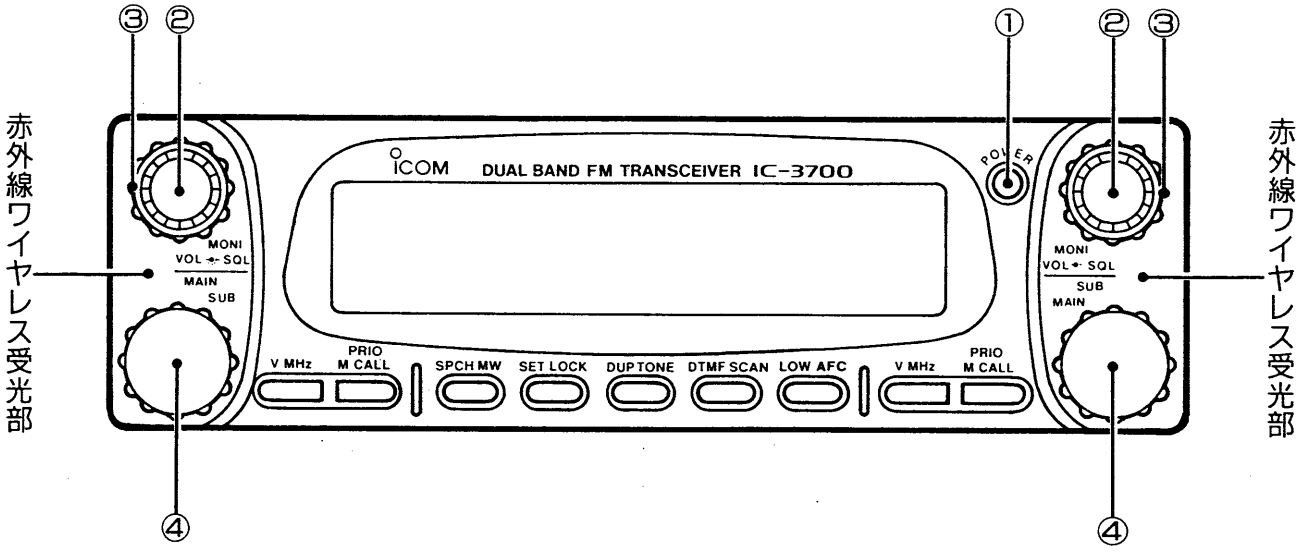


アマチュアバンド使用区分

●使用区分にそって運用してください。



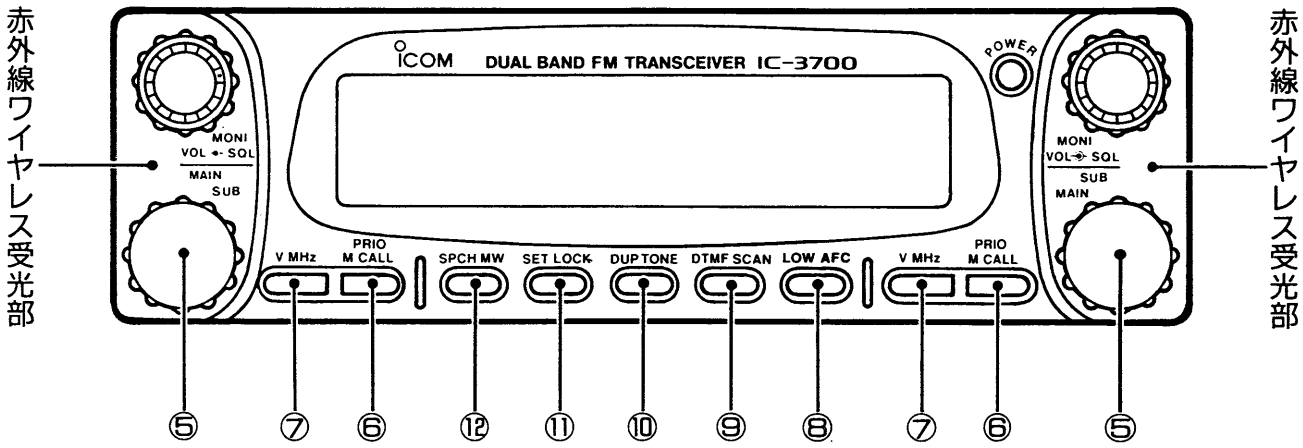
2−1 前面パネル



本機のスイッチは短く押すとき（白色表示の機能）と、長く押すとき（青色表示の機能）で機能がちがいます。

No.	名　　称	ワンプッシュ(短く1回押す) 操作したときのはたらき	1sec（約1秒ほど押す） 操作したときのはたらき
①	POWER (電源) スイッチ	本機の電源を“ON/OFF”するスイッチです。(☞P27) POWERスイッチを少し長く押すと、電源が“ON”し、約1秒後にディスプレイが点灯します。	
②	VOL(音量) ツマミ 【MONI (モニター)】 スイッチ	430/1200MHz帯を個別に、受信音の音量が調整できます。(☞P29) ●聞きやすい音量に調整します。 VOLツマミを押すと、スケルチで消された弱い信号を、聞こえやすくするモニター機能が動作します。(☞P30,45) ●モニターしたい間だけ押し続けてください。	
③	SQL（スケルチ）ツマミ	430/1200MHz帯を個別に、スケルチレベルが調整できます。(☞P29) ●通常はノイズの消える位置にセットします。	
④	BAND (バンド) 【SUB(サブ)】 スイッチ [メインダイヤルと兼用]	送受信操作を行うバンドを“MAIN”(メイン）バンドとし、430MHz帯または1200MHz帯のいずれを“MAIN”バンドにするかを選択します。 (☞P25)	受信するだけのバンドを“SUB”(サブ)バンドとし、送信以外の操作を可能にします。(☞P25) (SUBバンドアクセス機能) “MAIN”バンド表示中は、周波数帯を切り換えます。(☞P73) ●430MHz帯(430MHz←→144MHz) ●1200MHz帯(1200MHz←→430MHz)

2 各部の名称と機能



No.	名　　称	ワンプッシュ(短く1回押す) 操作したときのはたらき	1sec (約1秒ほど押す) 操作したときのはたらき
⑤	メインダイヤル	本機の使用状態に応じて、各バンドごとに周波数の設定やM-CH(メモリーチャンネル)の切り換えを行います。 ●VFOモードでは、周波数の設定ができます。(☞P28) ●MEMOモードでは、M-CHの切り換えができます。(☞P37) ●SETモードでは、運用条件の設定ができます。(☞P59) ●スキャン中では、スキャン方向の切り換えができます。(☞P46)	
⑥	M(メモリー)/CALL(コールチャンネル)【PRIO(プライオリティ)】スイッチ	430/1200MHz帯を個別に、VFOモードからMEMO(メモリー)モードまたはCALL-CHモードにします。以後、押すたびにMEMOモードとCALL-CHモードを切り換えます。(☞P26,36,40) PRIO(プライオリティ)スキャンを解除します。(☞P58)	430/1200MHz帯を個別に、PRIO(プライオリティ)スキャンをスタートします。(☞P57)
⑦	V/MHzスイッチ	430/1200MHz帯を個別に、周波数を可変(設定)するためのVFOモードにします。(☞P26,28) VFOモード時は、1MHzステップの周波数可変操作になります。(☞P33)	

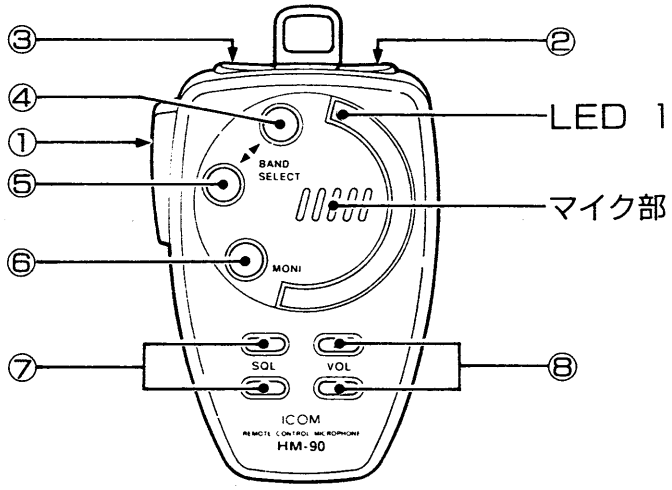
下記のスイッチ（⑧〜⑫）操作は、通常“MAIN”バンドに対して有効で、SUBバンドアクセス機能動作時は、“SUB”バンドに対して有効となりますのでご注意ください。

No.	名　　称	ワンプッシュ（短く1回押す）操作したときのはたらき	1sec（約1秒ほど押す）操作したときのはたらき
⑧	LOW（送信出力）/【AFC（自動周波数制御）】スイッチ	送信出力を“HIGH/LOW-1/LOW-2”に切り換えます。	AFC機能を“ON/OFF”します。（☞P99）（1200MHz帯のみ動作します。）
⑨	DTMF（ページャー/コードスケルチ/DTMFメモリー/マイクリモート）【SCAN（スキャン）】スイッチ	ページャー（☞P85）/コードスケルチ（☞P85）/DTMFメモリー（☞P79）/マイクリモート（☞P107）運用モードにします。	430/1200MHz帯を個別に、プログラムスキャン（☞P51）、メモリースキャン（☞P55）をスタートします。
⑩	DUP（デュプレックス）【TONE（トーン）】スイッチ	DUPLEX運用モードにします。（☞P77）	トーンエンコーダーまたはトーンスケルチを“ON/OFF”します。（☞P104）運用にはオプションのUT-84（トーンスケルチユニット）が必要です。
⑪	SET（セット）【LOCK（ロック）】スイッチ	スキャンやレピータ運用時の各種運用条件を設定するSET（セット）モードになります。（☞P59）	メインダイヤルや各スイッチ機能を無効にして、周波数をロック（固定）します。（☞P97）
⑫	SPCH（スピーチ）【MW（メモリーライト）】スイッチ	表示周波数を音声で知らせます。オプションのUT-66（音声合成ユニット）が必要です。	表示周波数をメモリーさせたり（☞P39）、メモリー周波数をVFOに転送（☞P40）します。●ビープ音が“ピッピピ”と鳴るまで押してください。

2−2 マイクロホン（HM-90）

付属のWIRELESS MICROPHONE(ワイヤレス　マイクロホン)は、本機前面パネルのスイッチ機能をすべて手元で操作できる多機能マイクロホンです。

■前面パネル

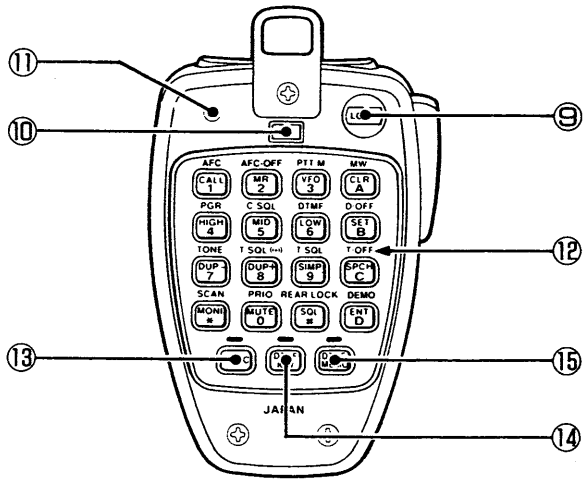


No.	名　　称	は　た　ら　き
①	PTT(プッシュ・トゥ・トーク)スイッチ	送信と受信を切り換えます。(☞P35) スイッチを押しながら、マイクに向かって話しかけてください。 スイッチを離すと受信状態に戻ります。 PTTスイッチはワンタッチPTT機能(☞P35)、タイムアウトタイマー機能（☞P69）に切り換えて使用できます。
② ③	UP(アップ)/ DN(ダウン)スイッチ	●VFOモード時は、周波数の設定ができます。(☞P28) ●MEMOモード時は、メモリーチャンネルの切り換えができます。(☞P37) ●0.5秒以上押すと、スキャン動作になります。(☞P51,55) スキャン動作中は、スキャンを解除します。 ●SETモード時は、各種設定値の切り換えができます。
④	BAND SELECT(▲)スイッチ	1200MHz帯を“MAIN”バンドに指定します。(☞P25) “MAIN”バンド表示中は、周波数帯を切り換えます。(☞P73)
	FUNCキー + BAND SELECT(▲)スイッチ	1200MHz帯を“SUB”バンドに指定します。(☞P25) (SUBバンドアクセス機能)
⑤	BAND SELECT(▼)スイッチ	430MHz帯を“MAIN”バンドに指定します。(☞P25) “MAIN”バンド表示中は、周波数帯を切り換えます。(☞P75)
	FUNCキー + BAND SELECT(▼)スイッチ	430MHz帯を“SUB”バンドに指定します。(☞P25) (SUBバンドアクセス機能)
⑥ ※	MONI(モニター)スイッチ	モニター機能を動作させるスイッチです。 スイッチを押している間だけモニター機能が動作し、離すとモニター機能が“OFF”になります。(☞P30,45)

⑦ ※	SQL（スケルチ）スイッチ	“MAIN” バンドのスケルチレベルを（▲）アップまたは（▼）ダウンします。（☞P29）
⑧ ※	VOL（音量）スイッチ	“MAIN” バンドの音量を（▲）アップまたは（▼）ダウンします。（☞P29）

※印のスイッチ操作は、通常“MAIN”バンドに対して有効で、SUBバンドアクセス機能動作時は、“SUB”バンドに対して有効となります。

■後面パネル



No.	名　　称	は　た　ら　き
⑨	LOCK(ロック)キー	PTTスイッチ以外のすべてのスイッチ操作を無効にします。（☞P97）
⑩	アドレススイッチ	マイクの“アドレス”および“ワイヤレス”のON/OFFを設定します。（☞P22）
⑪	LED 2	FUNC、DTMF KEY、DTMF MEMOキーの動作状態を3色で表示します。
⑫	16キー	本機の前面操作部を操作しないで、諸機能の設定やDTMFコードの設定、送出などに使用します。
⑬	FUNC（ファンクション）キー	FUNCキーを押し（LED 2が赤色に点灯）、次に16キーを押すと、各キーの上部（赤色）に表示された機能が動作します。（☞P9）
⑭	DTMF KEY	DTMF KEYを押し（LED 2が緑色に点灯）、次に16キーを押すと、本機の“MAIN”バンドが送信状態になり、各キー（緑色）に表示されたDTMFコードを送出します。（☞P10,84） ●DTMF KEYスイッチ操作は、一度押すとON状態を保持し、再び押すまで解除されません。
⑮	DTMF MEMOキー	DTMF MEMOキーを押し（LED 2がオレンジ色に点灯）、次に16キーを押すと、本機の“MAIN”バンドを送信状態にし、DTMF MEMO（メモリー）に書き込まれた、DTMFコードを送出します。（☞P11,84）

■ダイレクト操作

16キーの動作は、通常“MAIN”に対して有効で、SUBバンドアクセス機能動作時は、“SUB”バンドに対して有効となります。

名　　称	ダイレクト操作時のはたらき
CALL 1	CALL-CH（コールチャンネル）モードにします。（☞P26,40）
MR 2	MEMO（メモリー）モードにします。（☞P26,36）
VFO 3	VFOモードにします。（☞P26,28）
HIGH 4	送信出力をHIGHパワーにします。（☞P34）
MID 5	送信出力をLOW-2パワーにします。（☞P34）
LOW 6	送信出力をLOW-1パワーにします。（☞P34）
DUP- 7	DUPLEX運用モードにします。（マイナスシフト）（☞P77）
DUP+ 8	DUPLEX運用モードにします。（プラスシフト）（☞P77）
SIMP 9	シンプレックス（通常）運用モードにします。
MUTE 0	すべてのバンドの受信音をミュートします。
CLR A	置数入力中（周波数、メモリーチャンネルなど）をクリアし、入力の前の表示に戻します。 SET（セット）モード時は、SETモードを解除します。（☞P61）
SET B	SET（セット）モードにします。（☞P59）
SPCH C	表示周波数を音声で知らせます。（☞P72） （UT-66装着時）
ENT D	周波数、M-CH（メモリーチャンネル）などの置数入力状態になります。（☞P28,37）
MONI *	モニター機能をON/OFFします。（☞P30,45）
SQL #	スケルチレベルを4段階に切り換えて調整します。（☞P29）

■FUNC（ファンクション）操作

FUNCキーを押し（LED 2赤色に点灯）、次に16キーを押すと下記のような機能が動作します。

名　称	FUNC（ファンクション）操作時のはたらき（LED 2赤色に点灯）
FUNC + CALL 1	1200MHz帯のAFC機能をONにします。（☞P99）
FUNC + MR 2	上記AFC機能をOFFにします。
FUNC + VFO 3	通常PTT動作とワンタッチPTT機能を切り換えます。（☞P35）
FUNC + HIGH 4	ページャー機能をONにします。（☞P85）
FUNC + MID 5	コードスケルチ機能をONにします。（☞P85）
FUNC + LOW 6	DTMFメモリー送出機能をONにします。（☞P79）
FUNC + DUP- 7	トーンエンコーダーをONにします。（☞P104）
FUNC + DUP+ 8	ポケットビープ機能をONにします。（☞P104）
FUNC + SIMP 9	トーンスケルチ機能をONにします。（☞P104）
FUNC + MUTE 0	プライオリティスキャンがスタートします。（☞P57）
FUNC + CLR A	メモリーチャンネルへ書き込み（☞P39）またはVFOモードへの転送動作を行います。
FUNC + SET B	ページャー、コードスケルチ、DTMFメモリー送出の各機能をOFFにします。
FUNC + SPCH C	トーンエンコーダー、ポケットビープ、トーンスケルチの各機能をOFFにします。
FUNC + ENT D	ディスプレイによるデモンストレーション機能を“ON/OFF”します。
FUNC + MONI *	プログラムスキャン、メモリースキャンがスタートします。（☞P51,55）
FUNC + SQL #	後面パネルのキー操作を無効にします。（☞P97） （FUNCキーは有効です。）

■DTMF KEY操作

DTMF KEYを押し(LED 2緑色に点灯)、次に16キーを押すと下記のような機能が動作します。(☞P84)

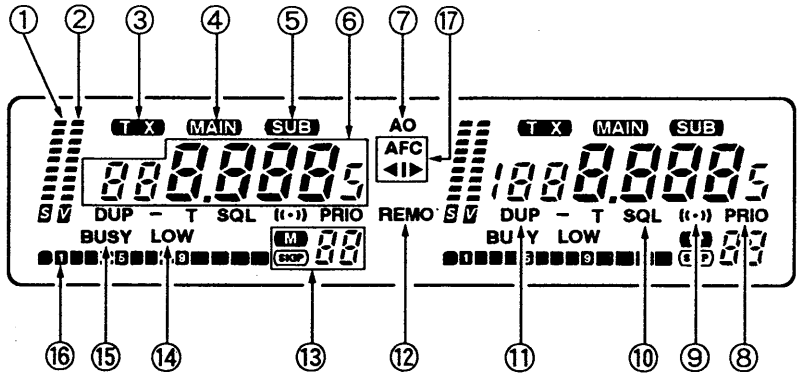
名　　称	DTMF KEY操作時のはたらき (LED 2緑色に点灯)
DTMF KEY + CALL 1	"MAIN"バンドを送信状態にし、DTMFコード(1)を送出します。
DTMF KEY + MR 2	"MAIN"バンドを送信状態にし、DTMFコード(2)を送出します。
DTMF KEY + VFO 3	"MAIN"バンドを送信状態にし、DTMFコード(3)を送出します。
DTMF KEY + HIGH 4	"MAIN"バンドを送信状態にし、DTMFコード(4)を送出します。
DTMF KEY + MID 5	"MAIN"バンドを送信状態にし、DTMFコード(5)を送出します。
DTMF KEY + LOW 6	"MAIN"バンドを送信状態にし、DTMFコード(6)を送出します。
DTMF KEY + DUP- 7	"MAIN"バンドを送信状態にし、DTMFコード(7)を送出します。
DTMF KEY + DUP+ 8	"MAIN"バンドを送信状態にし、DTMFコード(8)を送出します。
DTMF KEY + SIMP 9	"MAIN"バンドを送信状態にし、DTMFコード(9)を送出します。
DTMF KEY + MUTE 0	"MAIN"バンドを送信状態にし、DTMFコード(0)を送出します。
DTMF KEY + CLR A	"MAIN"バンドを送信状態にし、DTMFコード(A)を送出します。
DTMF KEY + SET B	"MAIN"バンドを送信状態にし、DTMFコード(B)を送出します。
DTMF KEY + SPCH C	"MAIN"バンドを送信状態にし、DTMFコード(C)を送出します。
DTMF KEY + ENT D	"MAIN"バンドを送信状態にし、DTMFコード(D)を送出します。
DTMF KEY + MONI *	"MAIN"バンドを送信状態にし、DTMFコード(E)を送出します。
DTMF KEY + SQL #	"MAIN"バンドを送信状態にし、DTMFコード(F)を送出します。

■DTMF MEMO操作

DTMF MEMOキーを押し（LED 2オレンジ色に点灯）、次に16キーを押すと下記のような機能が動作します。（☞P84）

名　　称	DTMF MEMO操作時のはたらき（LED 2オレンジ色に点灯）
DTMF MEMO ＋ CALL 1	“MAIN”バンドを送信状態にし、DTMFメモリーチャンネル（d1）に書き込まれているDTMFコードを送出します。
DTMF MEMO ＋ MR 2	“MAIN”バンドを送信状態にし、DTMFメモリーチャンネル（d2）に書き込まれているDTMFコードを送出します。
DTMF MEMO ＋ VFO 3	“MAIN”バンドを送信状態にし、DTMFメモリーチャンネル（d3）に書き込まれているDTMFコードを送出します。
DTMF MEMO ＋ HIGH 4	“MAIN”バンドを送信状態にし、DTMFメモリーチャンネル（d4）に書き込まれているDTMFコードを送出します。
DTMF MEMO ＋ MID 5	“MAIN”バンドを送信状態にし、DTMFメモリーチャンネル（d5）に書き込まれているDTMFコードを送出します。
DTMF MEMO ＋ LOW 6	“MAIN”バンドを送信状態にし、DTMFメモリーチャンネル（d6）に書き込まれているDTMFコードを送出します。
DTMF MEMO ＋ DUP- 7	“MAIN”バンドを送信状態にし、DTMFメモリーチャンネル（d7）に書き込まれているDTMFコードを送出します。
DTMF MEMO ＋ DUP+ 8	“MAIN”バンドを送信状態にし、DTMFメモリーチャンネル（d8）に書き込まれているDTMFコードを送出します。
DTMF MEMO ＋ SIMP 9	“MAIN”バンドを送信状態にし、DTMFメモリーチャンネル（d9）に書き込まれているDTMFコードを送出します。
DTMF MEMO ＋ MUTE 0	“MAIN”バンドを送信状態にし、DTMFメモリーチャンネル（d0）に書き込まれているDTMFコードを送出します。
DTMF MEMO ＋ CLR A	“MAIN”バンドを送信状態にし、DTMFメモリーチャンネル（dA）に書き込まれているDTMFコードを送出します。
DTMF MEMO ＋ SET B	“MAIN”バンドを送信状態にし、DTMFメモリーチャンネル（dB）に書き込まれているDTMFコードを送出します。
DTMF MEMO ＋ SPCH C	“MAIN”バンドを送信状態にし、DTMFメモリーチャンネル（dC）に書き込まれているDTMFコードを送出します。
DTMF MEMO ＋ ENT D	“MAIN”バンドを送信状態にし、DTMFメモリーチャンネル（dD）に書き込まれているDTMFコードを送出します。
DTMF MEMO ＋ MONI *	“MAIN”バンドを送信状態にし、1750Hzのトーン信号を約500mS間、送出します。
DTMF MEMO ＋ SQL #	“MAIN”バンドを送信状態にし、1750Hzのトーン信号を送出します。

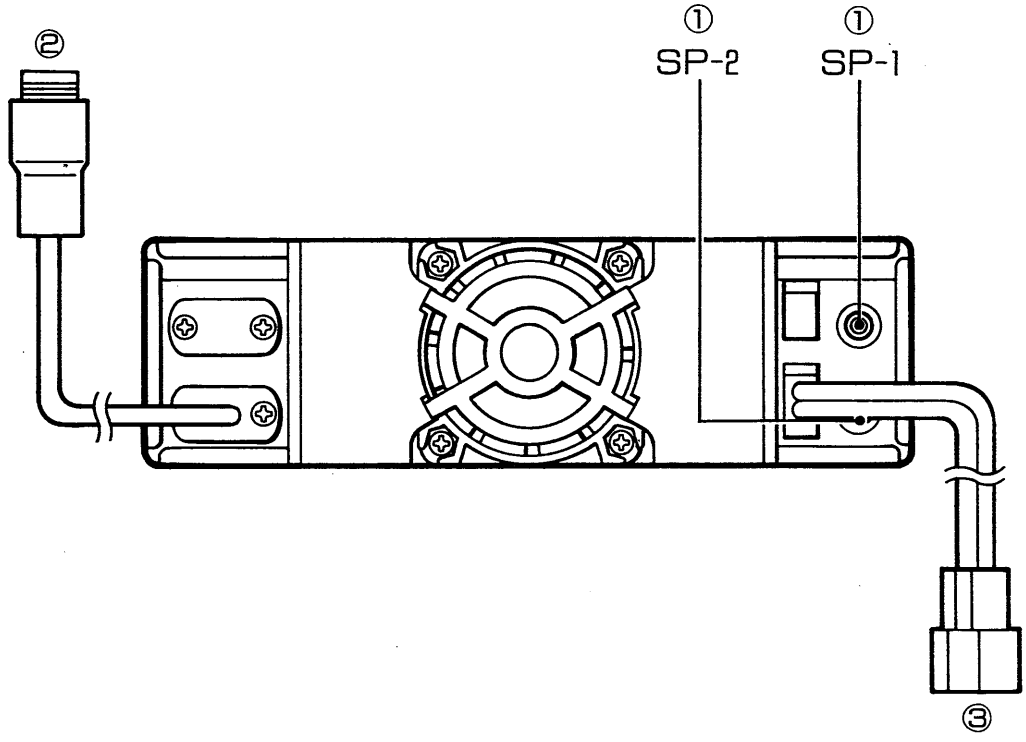
2-3 ディスプレイ（表示）



No.	表　示	表 示 の 内 容
①	S	スケルチレベルを表示します。
②	V	音量レベルを表示します。 点滅時は受信ミュート回路が“ON”であることを表示します。
③	T X	送信中を表示します。
④	MAIN	“MAIN”バンド（送受信操作）が可能であることを表示します。
⑤	SUB	SUBバンドアクセス機能が動作中であることを表示します。
⑥	88.888	●通常は、運用周波数を表示します。 ●ページャー、コードスケルチ、DTMFメモリー運用が可能であることを表示します。 ●SETモード時は、セット項目を表示します。 ●スキャン中は、デシマルポイントが点滅します。
⑦	AO	オートパワーオフ機能が動作中であることを表示します。
⑧	PRIO	プライオリティスキャンが動作中であることを表示します。

No.	表　示	表示の内容
⑨	T SQL (•)	ポケットビープ機能が運用可能、またはポケットビープで呼び出しを受けたことを表示します。
⑩	T SQL	トーンエンコーダー(T表示のみ点灯)、またはトーンスケルチ運用が可能であることを表示します。(オプション機能)
⑪	DUP − T	レピータ運用が可能であることを表示します。 また、DUPLEX運用とシフトの方向を表示します。
⑫	REMO	マイクリモート機能の運用が可能であることを表示します。 (HM-77のオプションマイク使用時)
⑬	M SKIP 88	●MEMO(メモリー)モード、およびメモリーチャンネル番号を表示します。 ●CALL-CH(コールチャンネル)モード時は、[M]表示が消灯し、メモリーチャンネル表示部に“C”を表示します。 ●[SKIP]表示は、メモリースキャン時にスキップさせるチャンネルを表示します。 ●メモリースキャン時は、[M]表示が点滅します。
⑭	LOW	送信出力がLOW-1またはLOW-2であることを表示します。 HIGHパワー時は、何も表示しません。
⑮	BUSY	●受信状態でスケルチが開いていることを表示します。 ●モニター機能動作中は点灯します。
⑯	1 5 9	●受信時は、受信信号の強さを示すSメーターとして表示します。 ●送信時は、送信出力を示すインジケーターとして表示します。
⑰	AFC ◀I▶	1200MHz帯のAFC機能が動作中であることを表示します。

2-4 後面パネル

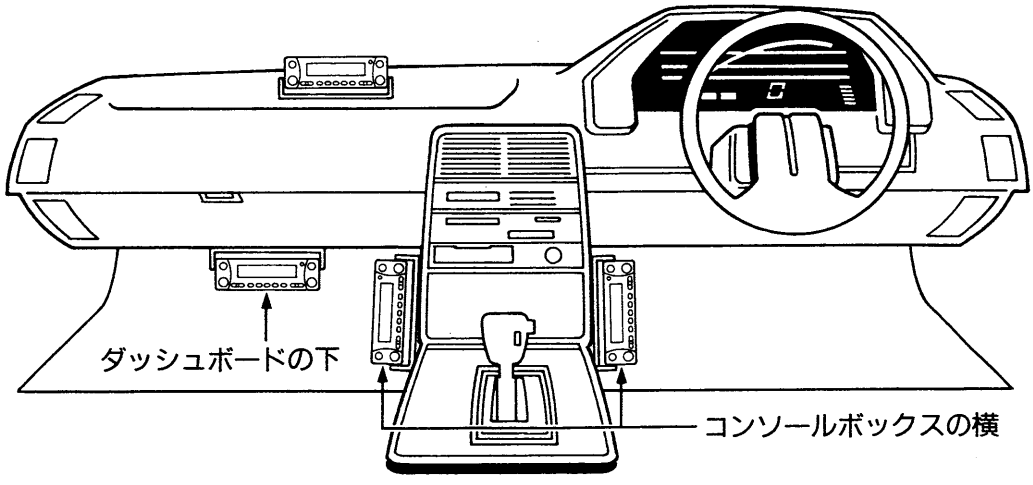


No.	名　　称	は　た　ら　き
①	外部スピーカージャック SP-1/SP-2 (430MHz帯/1200MHz帯)	外部スピーカーを接続するジャックです。 インピーダンスは8Ωです。 ●外部スピーカーをSP-1とSP-2に接続したとき、SP-1から430MHz帯、SP-2から1200MHz帯の音声が出力されます。 ●外部スピーカーをSP-2だけに接続したときは、SP-2から1200MHz帯、内部スピーカーから430MHz帯の音声が出力されます。 なお、SETモード(☞P59)でSP-1(内部スピーカー)とSP-2の出力を反転することができます。 ●外部スピーカーをSP-1だけに接続したときは、SP-1から両バンドの音声が出力され、内部スピーカーからは聞こえません。
②	アンテナコネクター (430MHz帯/1200MHz帯)	アンテナを接続するコネクターです。 インピーダンス50Ωのアンテナを、N型コネクターで接続します。 ●本機はトリプレクサーを内蔵していますので、市販のトリプルバンドアンテナ(144/430/1200MHz帯)またはデュアルバンドアンテナ(430/1200MHz帯)を接続することができます。　※144MHz帯は受信のみ
③	電源コネクター (DC13.8V)	DC13.8Vの電源を接続するコネクターです。 付属のDC電源コードを使用して、車載時はカーバッテリーに、屋内運用時はDC13.8Vの外部電源装置に接続してください。

3−1 車載時の取り付け場所

車への取り付けは、下図のような位置をおすすめします。
安全運転に支障のない場所を選んでください。

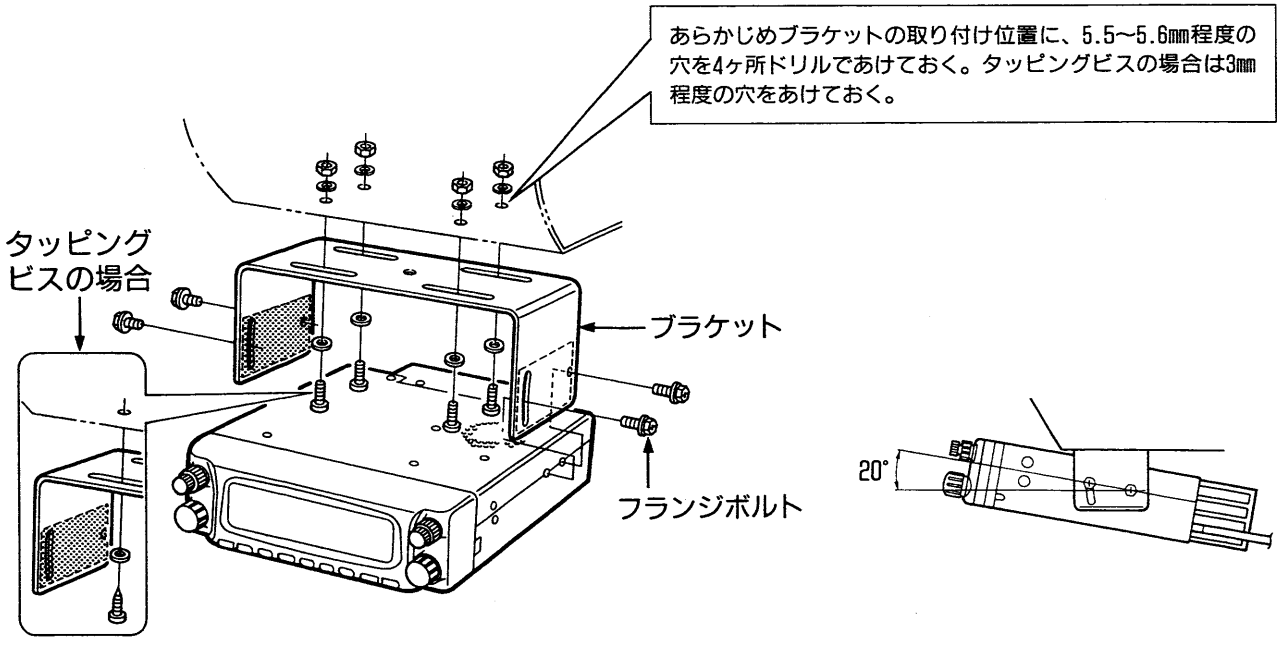
●車内での取り付け例



◎直射日光のあたる場所やヒーター、クーラーの吹き出し口など、温度変化の激しい場所への設置は、極力さけてください。
特に夏期の日中、ドアを締め切った状態で長時間放置しますと、室内温度が極端に上昇し、本機に悪影響を与えることがありますので、ご注意ください。

3−2 取り付けかた

付属の車載ブラケットを利用し、ブラケットがしっかり固定される場所に取り付けます。



3-3 セパレートによる取り付けかた

本機はオプションのコントローラー延長ケーブルOPC-438（3.5m）、OPC-439（7m）により、コントローラー部を分離して設置することができます。

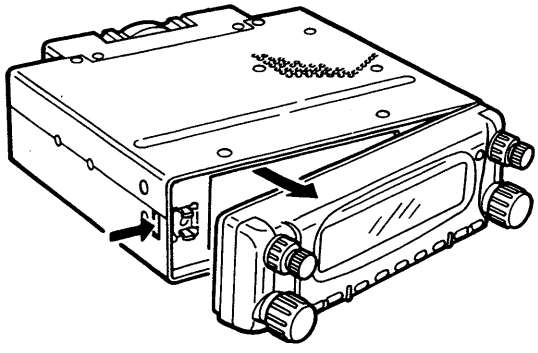
①本機左側のリリースボタンを押して、コントローラー部を左側から手前に引いて分離します。（図2参照）

②コントローラー部と本体を接続しているコネクターを外します。（図2参照）

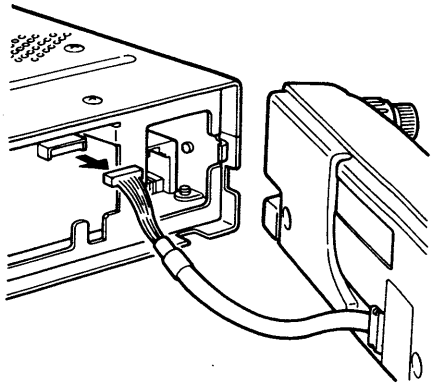
③コントローラー部の裏蓋を外し、オプションのコントローラー延長ケーブルOPC-438またはOPC-439と交換します。（図3，4参照）
このとき、オプションのコントローラー延長ケーブルに付属されているカバーにコードを通し、本体に取り付けます。（図5参照）

④コントローラー部は、オプションのコントローラーブラケット（MB-58）で、安全運転の妨げにならない、操作しやすいところを選んで取り付けてください。

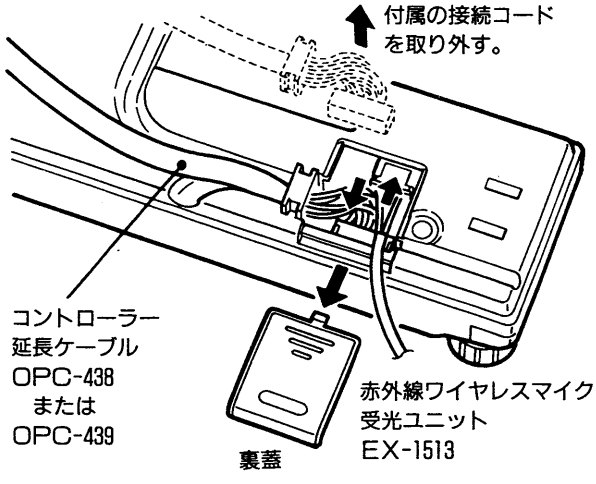
●コントローラー部の外しかた（図1）



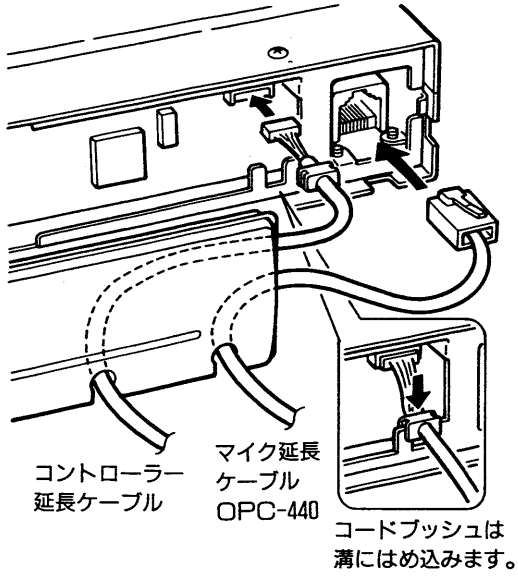
●接続コネクターの外しかた（図2）



●コントローラー部の接続（図3）

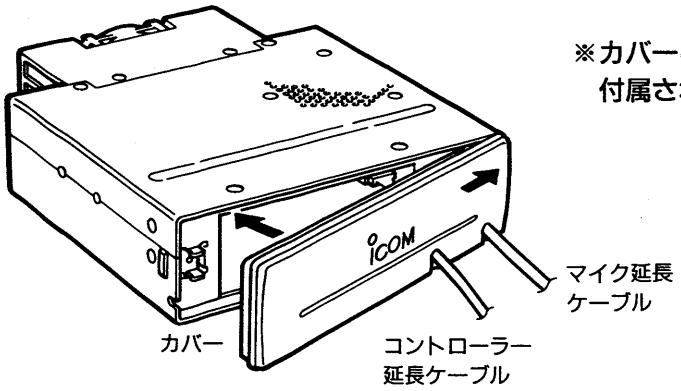


●本体側の接続（図4）



※オプションの赤外線ワイヤレスマイク受光ユニットまたはマイク延長ケーブルを使用される場合、図のように接続しておきます。

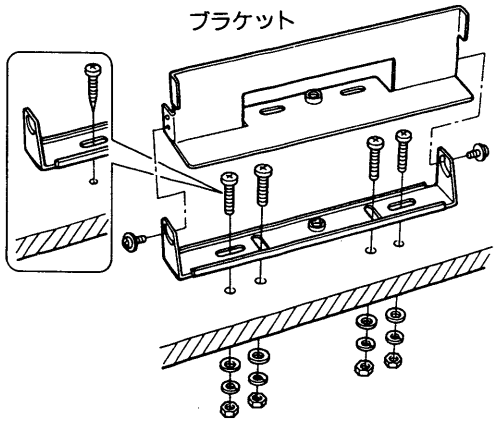
●カバーの取り付けかた(図5)



※カバーは、OPC-438またはOPC-439に
付属されています。

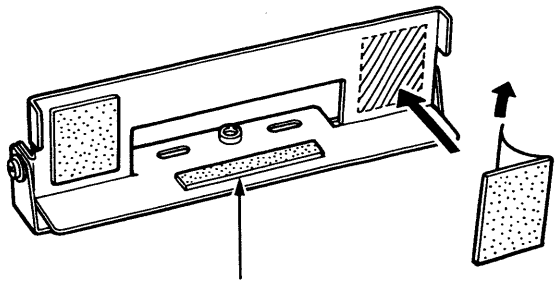
■コントローラーブラケット(MB-58)

●MB-58の取り付け方法(図6)



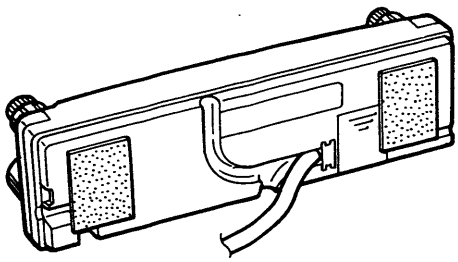
※ブラケットだけでも取り付けることができます。

●マジックファスナーの貼り付け(図6)
(MB-58)

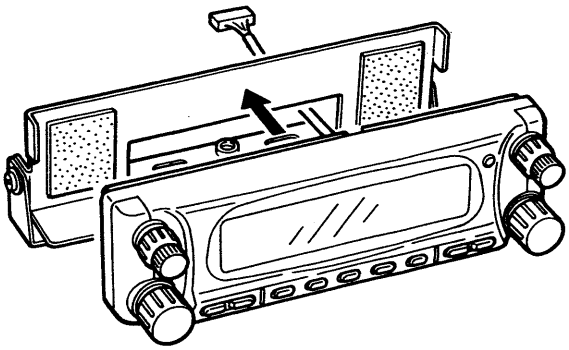


低面部はマジックファスナーまたは
ゴムシートを貼り付けてください。

●マジックファスナーの貼り付け(図7)
(コントローラー部)



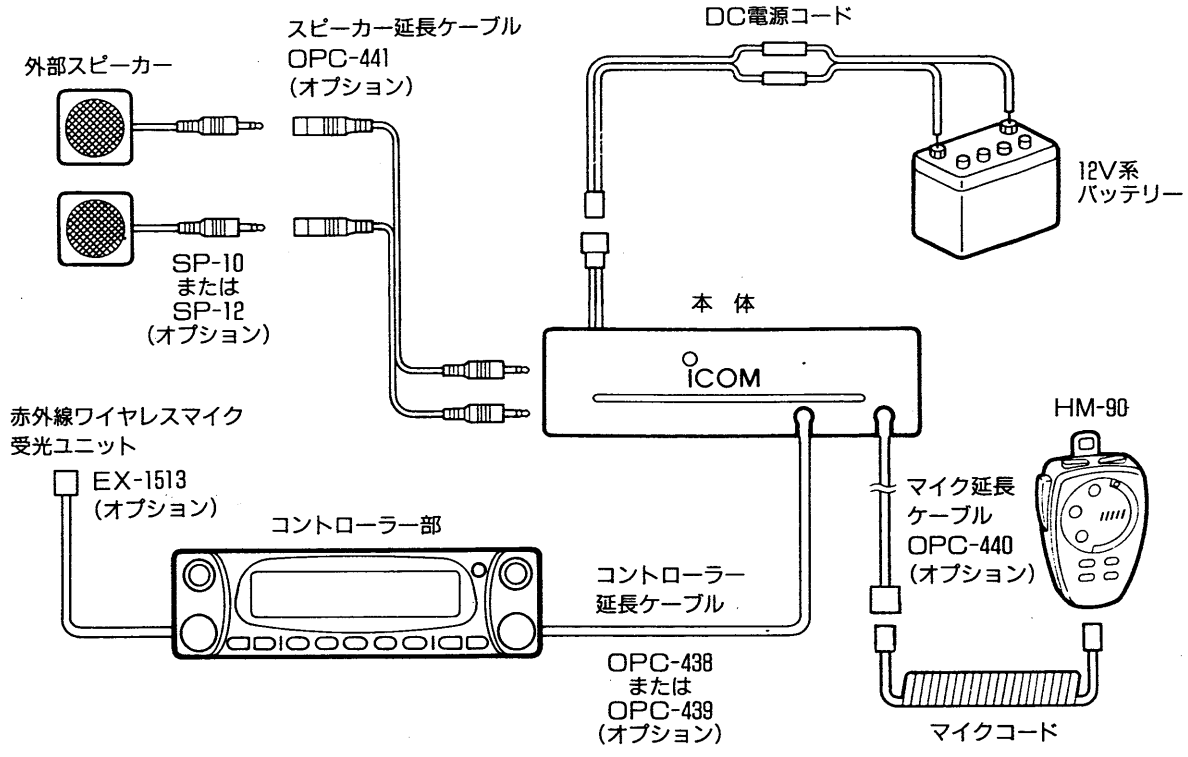
●コントローラー部の取り付けかた
(図8)



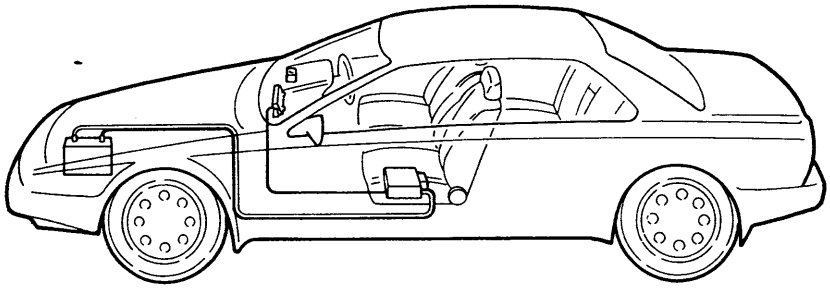
※コントローラー部を本体に戻す場合は、マジックファスナーを取り外してください。

3 設置と接続

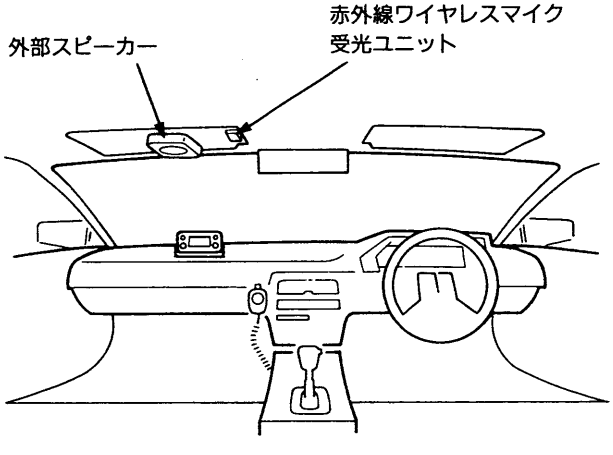
●セパレートによる接続例



●設置例



※OPC-439を使用することにより、トランクルームに設置することができます。



※MB-58は、市販の液晶テレビアームスタンドに取り付けることができます。

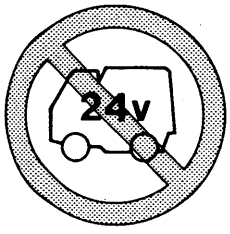
3−4 電源の接続

電源は車のバッテリー（12V系）に、直接付属のDC電源コードで接続してください。

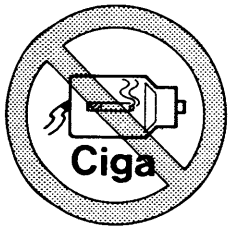
DC電源コードの配線は、本機を接続する前に行ってください。

①かための針金をエンジンルームからグロメットを貫通させて車内へ引き込みます。
②針金にDC電源コードをからませ、針金の先端をペンチなどで曲げテープを巻いて、エンジンルームへ引き出します。
③DC電源コードは赤色が⊕プラス側、黒色が⊖マイナス側になっていますので、間違えないようにバッテリーの端子に取り付けます。

●電源接続時のご注意

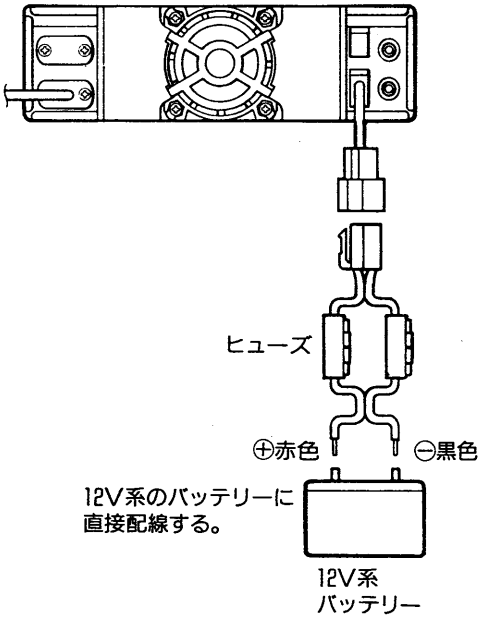


24V系バッテリーの車は、そのままでは接続できません。DC-DCコンバーター（24Vを13.8Vに変換する）が必要です。お買い上げの販売店にご相談ください。



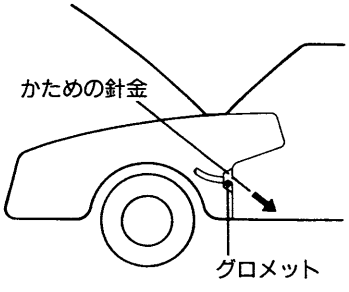
シガレットライターから電源をとると、接触不良を起こしたり、誤動作の恐れがありますので、さけてください。

●本機とバッテリーの接続



※固定局としてご使用の場合は、
IC-3700 ： 8A
IC-3700M：10A
IC-3700D：15A
以上の安定化電源が必要です。

●車内からエンジンルームへの配線

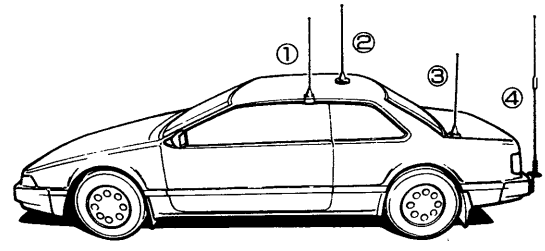


3−5 アンテナの接続

トランシーバーの性能は、使用するアンテナの良否によって大きく左右されます。
目的に合ったアンテナを、正しい状態で使用することがアンテナの効率をあげることになります。

①アンテナは後面パネルのANTコネクターに接続してください。
②市販の車載アンテナは、同軸ケーブルが付属されていますが、できるだけ短くなるように配線してください。
③同軸ケーブルの引き込み部から、雨水が入らないようにご注意ください。

●アンテナの取り付け場所

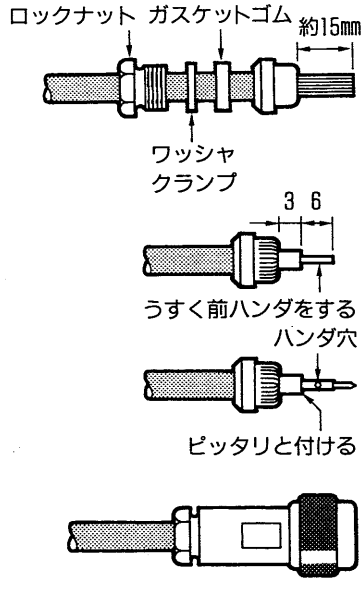


①ルーフサイド型
②ルーフトップ型
③トランクリッド型
④バンパー型

■同軸ケーブルについて

アンテナの給電点インピーダンスと同軸ケーブルの特性インピーダンスは、50Ωのものをご使用ください。
同軸ケーブルには各種のものがありますが、できるだけ損失の少ないケーブルを、できるだけ短くしてご使用ください。

●N型コネクターの取り付けかた



外被を除き、ロックナット、ワッシャ、ガスケットゴムを通し、外部編組をていねいに解く。

クランプを通して解いた編組を一本並べに広げ、余った編組を切落し、内部絶縁物、中心導線を寸法どおりに切断し、中心導線にうすく前ハンダをしてから中心コンタクトをハンダ付けする。

コネクターボディに入れ、ロックナットをしっかりと締め付ける。

●ガスケットとクランプの形は各種のものがありワッシャを使わないものもあります。

■固定運用時のアンテナ

市販されているアンテナには、無指向性のアンテナと指向性のアンテナがありますので、用途や設置スペースに合わせてご使用ください。

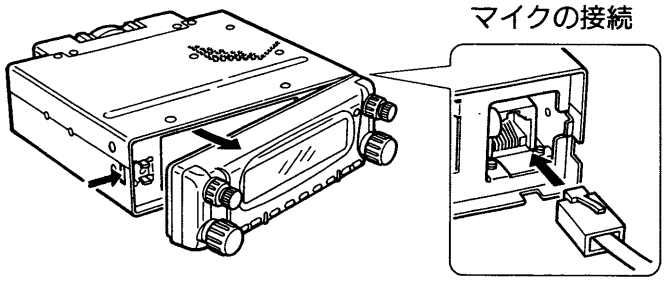
①無指向性アンテナ(グランドプレーンなど)：ローカル局やモービル局との交信に適しています。
②指向性アンテナ（八木アンテナなど）　：遠距離局や特定局との交信に適しています。

4−1 ワイヤレスマイクロホンの使いかた

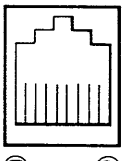
1.マイクロホンの接続

ワイヤレスマイクロホン(HM-90)を通常のマイクのように使用するとき、またはオプションのマイクロホン(HM-77/HM-78)を使用するときは、下記のように接続してください。
(注)コントローラーを分離するときは、必ず電源コードを外して行ってください。

①『セパレートによる取り付けかた』(☞P16)にしたがってコントローラー部を分離します。
②本体側にマイクコネクターがあります。
③マイクコネクターにマイクロホンを接続し、コントローラー部を本体にセットします。
※なお、セパレートで使用される場合は、オプションのマイク延長ケーブル(OPC-440/5m)が必要です。(☞P23)



■コネクター接続部(正面から見た図)



①	+8V	+8V(10mAの出力)
②	MIC U/D	HM-77/78のUP/DN信号入力
③	M8V SW	HM-90の充電用8V制御信号入力
④	PTT	PTTの入力信号
⑤	MICE	マイクのアース
⑥	MIC	マイクの信号入力
⑦	E	PTTのアース
⑧	MDATA	HM-90の制御信号入力

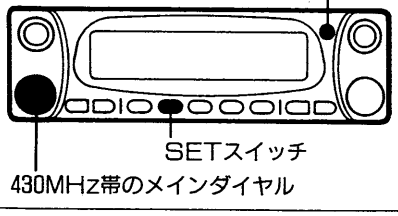
2.アドレスの設定

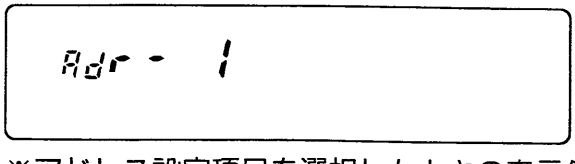
IC-3700/M/DとHM-90(ワイヤレスマイクロホン)は、他のワイヤレスマイクロホンからの誤動作を防ぐために、本機とワイヤレスマイクロホンに固有のアドレスを設定します。

■本機のアドレス設定

①電源を“OFF”にします。
②SETスイッチを押しながら、POWERスイッチを押して電源を“ON”にすると、イニシャルセットモードになります。
③SETスイッチを押して、アドレス設定項目を選択します。
④430MHz帯のメインダイヤルを回して、アドレスを設定します。
- Adr-0:アドレス“0”に設定
- Adr-1:アドレス“1”に設定
- ∫
- Adr-7:アドレス“7”に設定
- Adr-oF:ワイヤレスマイクロホンからのリモートを禁止します。

⑤設定後、電源を“OFF”にし、再度電源を“ON”にするとイニシャルセットモードを解除します。





※アドレス設定項目を選択したときの表示例

■ワイヤレスマイクロホンのアドレス設定

①ワイヤレスマイクロホンのアドレススイッチのゴムカバーを外します。

②下記の表を参照してアドレスと、ワイヤレスリモコンの“ON/OFF”を設定します。

※本機で設定したアドレスとワイヤレスマイクロホンのアドレスは同一にします。

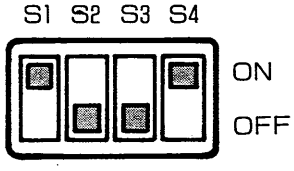
●アドレス設定

アドレス	スイッチ 1	スイッチ 2	スイッチ 3
0	OFF	OFF	OFF
1	ON	OFF	OFF
2	OFF	ON	OFF
3	ON	ON	OFF
4	OFF	OFF	ON
5	ON	OFF	ON
6	OFF	ON	ON
7	ON	ON	ON

●ワイヤレスリモコンの“ON/OFF”設定

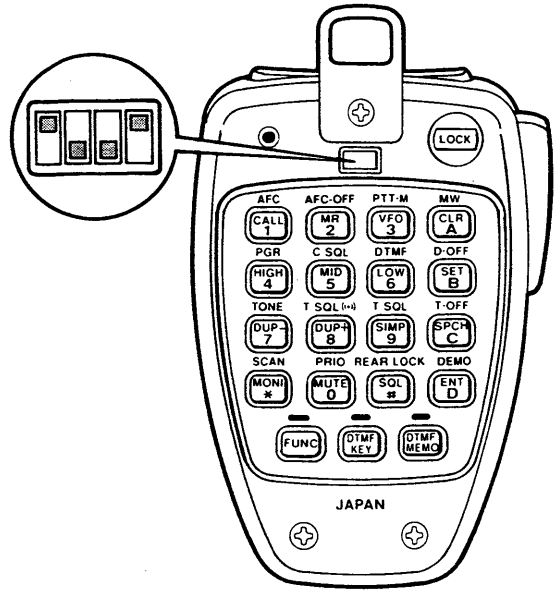
スイッチ 4	動　　作
OFF	ワイヤレスリモコン機能が“OFF”となり、付属のマイクコードを接続して使用します。
ON	ワイヤレスリモコン機能が“ON”となり、約2mの範囲でワイヤレスリモコンができます。

●アドレススイッチ



（初期設定状態）

●HM-90の後面部

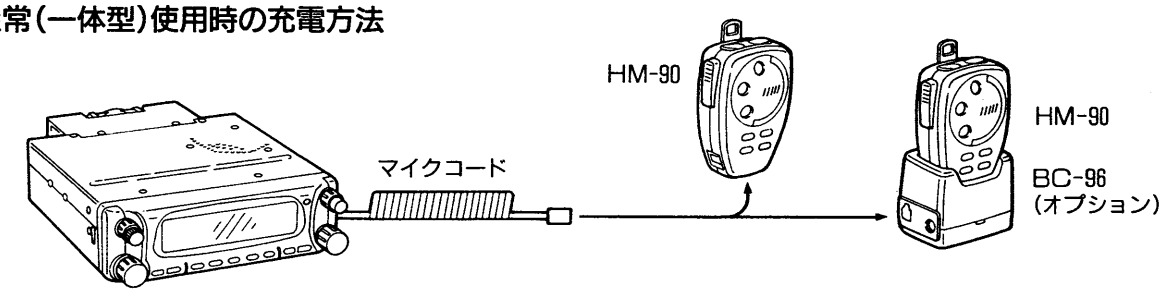


3.充電について

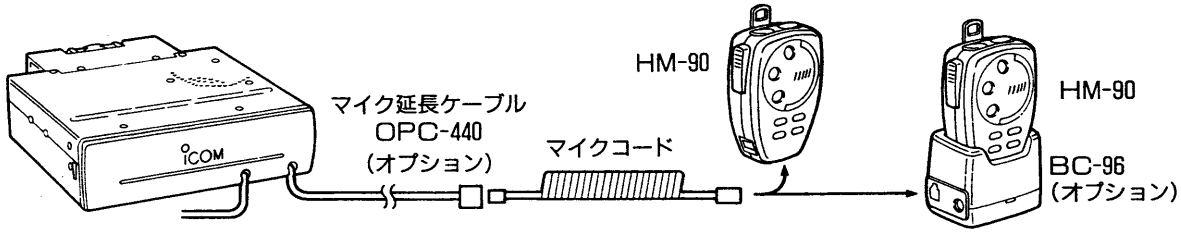
ワイヤレスマイクロホンの電源として、ニッカド電池を内蔵しています。
購入後初めてワイヤレスで使用される場合は、必ず下記のように接続して充電を行ってください。

- 充電時間は、ニッカド電池の容量が残っている場合は約1.5時間/容量が残っていない場合は約8時間充電の自動切り換えとなっています。
- 満充電で約12時間の使用が可能です。(送信“1”、待ち受け“4”の割合で使用した場合)

■通常(一体型)使用時の充電方法

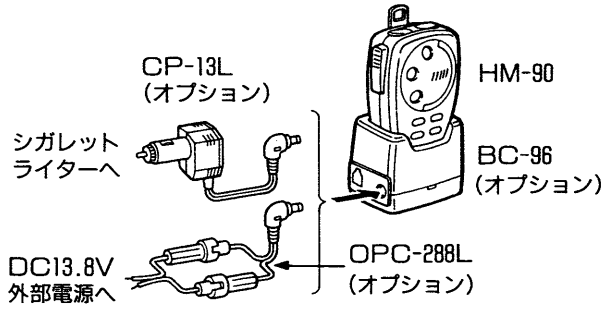


■セパレート使用時の充電方法



注. POWERスイッチで電源を“OFF”にしても、充電が可能です。

■オプションのHM-90用充電スタンド(BC-96)による充電方法

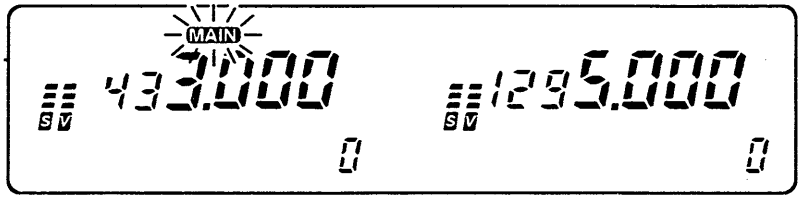
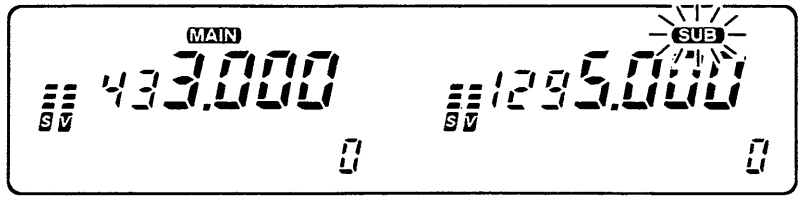


4.使用上のご注意

①コントローラーの取り付け位置によっては、うまく受光できない場合があります。
このような場合は、オプションの受光ユニット(EX-1513)を接続することにより解消することができます。(☞P102参照)
②コントローラーまたはオプションの受光ユニットは直射日光が当たる場所に設置しないでください。
③ワイヤレスマイクとコントローラーの間には障害物などがないようにしてください。
④ワイヤレスマイクは使用状況に応じて、充電を行ってください。

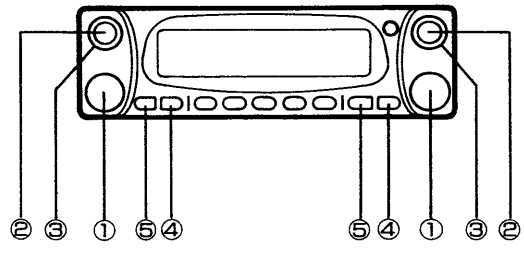
4−2 バンド（MAIN/SUB）の設定

1.バンド表示と基本機能

表示	■“MAIN”バンド表示 ●430MHz帯“MAIN”バンド表示例 
基本機能	●430MHz帯で送受信運用ができます。 各種機能の操作ができます。 ●1200MHz帯は、受信専用のバンドとなります。 個別に設けられているスイッチ/ツマミ以外の操作はできません。
表示	■SUBバンドアクセス機能表示 ●1200MHz帯“SUB”バンド表示例 
基本機能	●430MHz帯で送受信運用ができます。 個別に設けられているスイッチ/ツマミ以外の操作はできません。 ●1200MHz帯は、受信専用のバンドとなります。 SUBバンドアクセス機能により、各種機能の操作ができます。

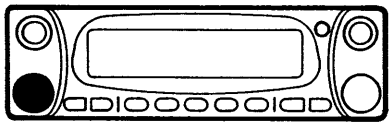
■430/1200MHz帯で、個別に操作できるスイッチ/ツマミについて

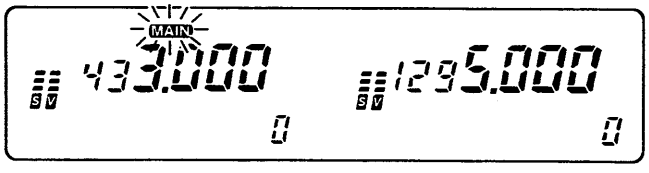
①メインダイヤル/BANDスイッチ
②VOL（音量）ツマミ
③SQL（スケルチ）ツマミ
④M（メモリー）/CALL
（コールチャンネル）スイッチ
⑤V/MHzスイッチ

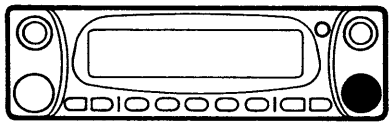


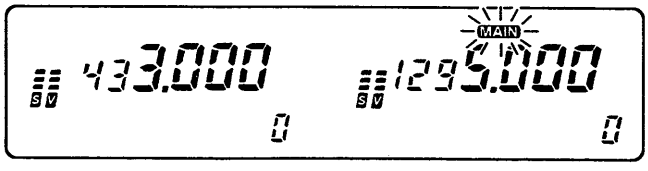
2.MAINバンドの切り換えかた

①430/1200MHz帯のBANDスイッチを押すと、“MAIN” バンドを切り換えることができます。
②ワイヤレスマイクで切り換える場合は、BAND SELECT〔▲〕/〔▼〕の各スイッチを押します。


430MHz帯のBANDスイッチを押す



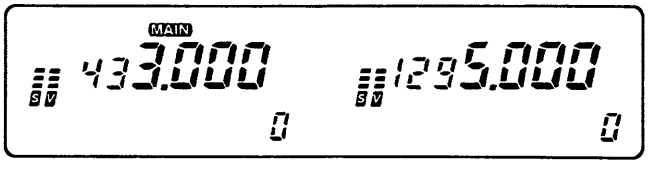

1200MHz帯のBANDスイッチを押す

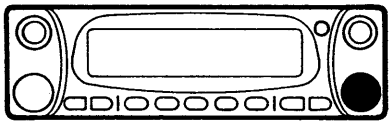


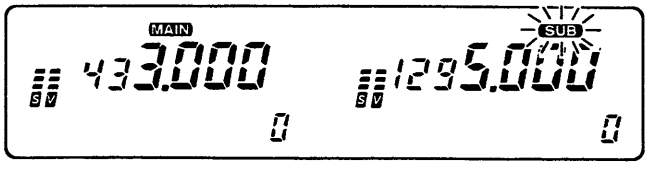
3.サブバンドアクセス機能の設定

①430/1200MHz帯のBANDスイッチを約1秒以上押すごとに、サブバンドアクセス機能が“ON/OFF” します。
②ワイヤレスマイクで設定する場合は、先にFUNCキーを押し、次にBAND SELECT〔▲〕/〔▼〕の各スイッチを押します。

●430MHz帯に“MAIN”バンドが設定されている場合




1200MHz帯のBANDスイッチを約1秒以上押す



※なお、“MAIN”バンド表示中にそのバンドのスイッチを約1秒以上押すと、周波数帯（430MHz帯←→144MHz帯）の切り換え動作となりますのでご注意ください。

4−3 操作モード（VFO/MEMO/CALL-CH）の設定

1.操作モードの種類とおもな機能

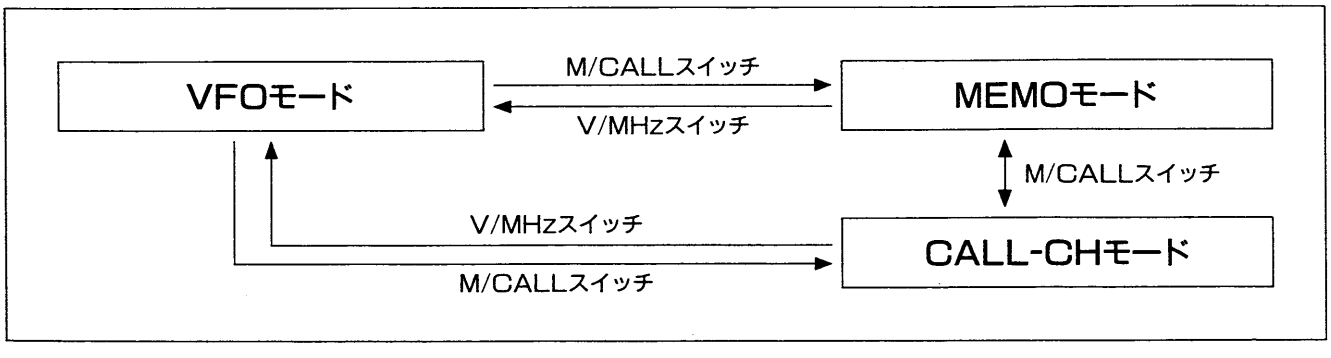
	モードと表示	基本機能
①	■VFO（ブイエフオー）モード MAIN 433.000 1295.000 0 0	運用周波数やメモリーに記憶させる周波数などを設定するときのモードです。 VFOモードでは、メインダイヤルおよびワイヤレスマイクのUP/DNスイッチは、周波数の可変操作になります。
②	■MEMO（メモリー）モード MAIN 433.000 1295.000 M 0 0	あらかじめ記憶しておいたメモリーチャンネルを呼び出して運用するモードです。 MEMOモードでは、メインダイヤルおよびワイヤレスマイクのUP/DNスイッチは、メモリーチャンネルの切り換え操作になります。
③	■CALL-CH（コールチャンネル）モード MAIN 433.000 1295.000 C 0	通信相手を呼び出すときのCALL-CH（呼び出し周波数）モードです。 ●CALL-CHの周波数 430MHz帯： 433.000MHz 1200MHz帯：1295.000MHz ※CALL-CHモード時、メインダイヤルおよびワイヤレスマイクのUP/DNスイッチでLOG（ログ）メモリーチャンネルを呼び出すことができます。（☞P41）

2.操作モードの切り換えかた

①VFOモードのときにM/CALLスイッチを押すと、MEMOまたはCALL-CHモードに切り換わります。メモリー表示部に“M”が点灯のときはMEMOモード、メモリーチャンネル表示部が“C”のときはCALL-CHモードになります。

②MEMOまたはCALL-CHモードのときにM/CALLスイッチを押すと、MEMOモードとCALL-CHモードが切り換わります。

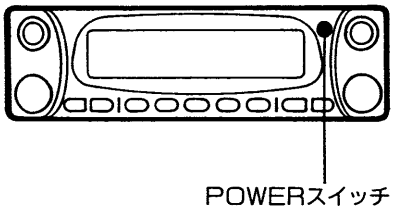
③MEMOまたはCALL-CHモードのときにV/MHzスイッチを押すと、VFOモードに戻ります。VFOモードのときにV/MHzスイッチを押すと、1MHzステップの周波数可変操作（☞P33）になります。



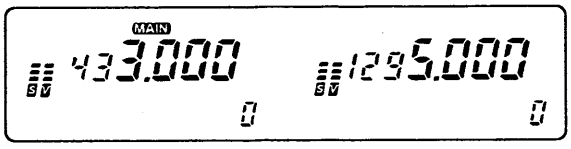
5－1　受信のしかた

1.電源の“ON/OFF”

POWERスイッチを少し長く押します。



約1秒後にディスプレイが表示されます。

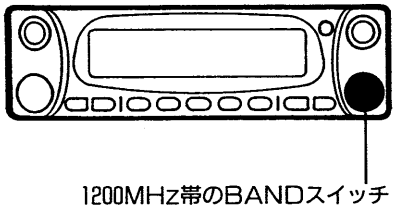


電源投入時は、電源を切る前に運用していた内容で表示されます。

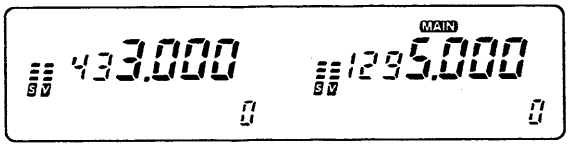
注．車から離れる時、または長時間使用しない場合は、必ず電源を“OFF”にしてください。

2.操作するバンドの設定（1200MHz帯に設定する場合）

1200MHz帯のBANDスイッチを押します。



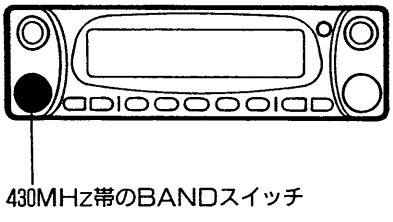
(MAIN)表示が点灯します。
※430MHz帯で送受信運用するときは、430MHz側に点灯するようにしてください。



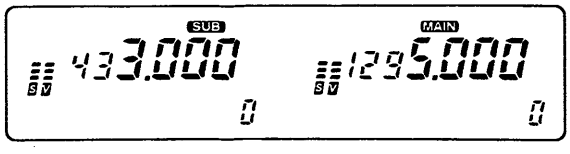
●ワイヤレスマイクで“MAIN”バンドを設定する場合は、BAND SELECT（▲）/（▼）の各スイッチを押してください。

3.サブバンドアクセス機能の設定（430MHz帯に設定する場合）

430MHz帯のBANDスイッチを約1秒以上押します。



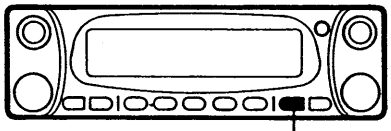
(SUB)表示が点灯します。



●ワイヤレスマイクで“SUB”バンドを設定する場合は、FUNCキーを押し、次にBAND SELECTの（▼）スイッチを押してください。

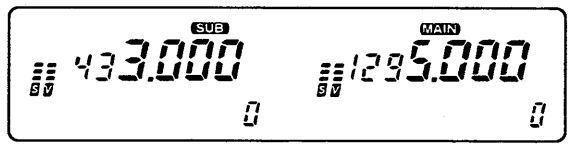
4.VFOモードにする（他のモードになっている場合のみ）

1200MHz帯のV/MHzスイッチを押します。



1200MHz帯のV/MHzスイッチ

VFOモードの表示にします。
※VFOモードはバンドごとに、設定することができます。

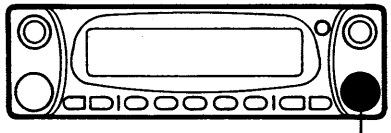


●ワイヤレスマイクでVFOモードにする場合は、VFOキーを押してください。

VFOモードのときに操作すると、1MHzステップの可変操作（☞P33）になります。
そのときは、V/MHzスイッチをもう一度押してください。

5.周波数を設定する

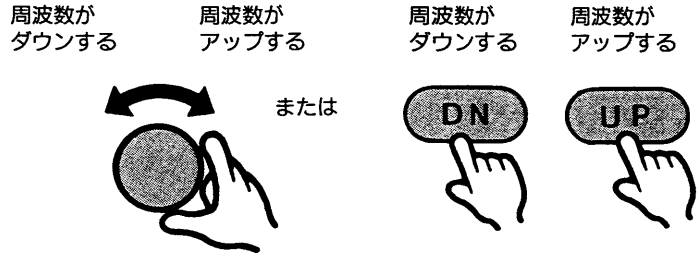
1200MHz帯のメインダイヤルを回します。



1200MHz帯のメインダイヤル

周波数設定時のチューニングステップについては、（☞P31）をご覧ください。

※周波数はバンドごとに、設定することができます。

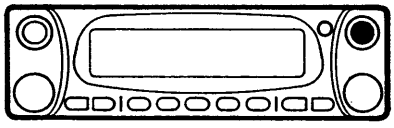


●ワイヤレスマイクで周波数を設定する場合は、UP/DNスイッチを押してください。

●ワイヤレスマイクによるダイレクト入力
（1200MHz帯に設定する場合）
①1297.500MHzの設定
[ENT] [1] [2] [9] [7] [5] [0] と押す
②1297.820MHzの設定
[ENT] [1] [2] [9] [7] [8] [2] と押す
③1292.340MHzの設定
[ENT] [1] [2] [9] [2] [3] [4] と押す
※まちがえたときは、[ENT]キーを押して、再入力します。
※バンド外の周波数を入力したときは、元の周波数に戻します。
※430MHz帯も同様の方法で周波数が設定できます。

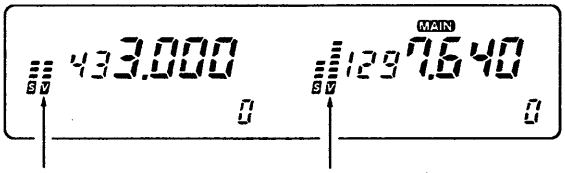
6.音量を調整する

1200MHz帯のVOL（音量）ツマミを回します。



音量が小さくなる　　音量が大きくなる

聞きやすい音量に調整します。
※音量はバンドごとに、調整することができます。

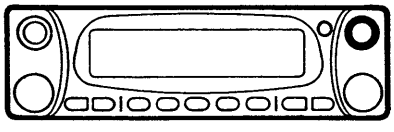


430MHz帯の音量レベル表示　1200MHz帯の音量レベル表示

●ワイヤレスマイクで音量を調整する場合は、VOL〔▲〕（アップ）または〔▼〕（ダウン）スイッチで行います。

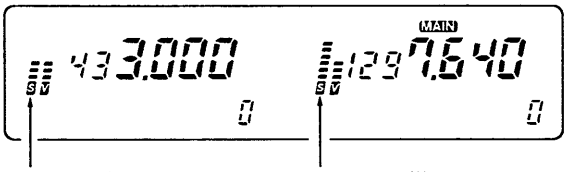
7.スケルチを調整する

1200MHz帯のSQL（スケルチ）ツマミを回します。



雑音がでる　　雑音が消える

信号を受信していない周波数で“BUSY”表示が消灯し、雑音が消える位置に調整します。
※スケルチはバンドごとに、調整することができます。



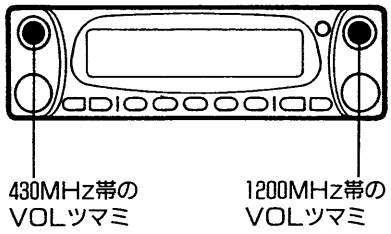
430MHz帯の
スケルチレベル表示

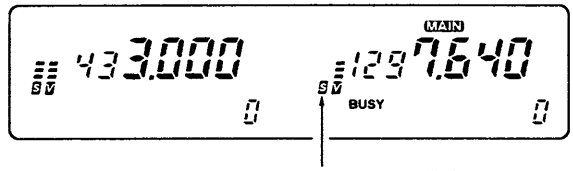
1200MHz帯の
スケルチレベル表示

●ワイヤレスマイクでスケルチを調整する場合は、SQL〔▲〕（アップ）、〔▼〕（ダウン）スイッチで行います。
またはSQLキーを押すことにより、4段階でスケルチレベルを調整することができます。

■受信モニター機能について

交信している間に相手局の電波が弱くなったり、弱い電波を受信したいときに、スケルチを強制的に開く機能です。
VOL（音量）ツマミを押している間だけ、スケルチが開いて受信音をモニターできます。





モニター機能動作中は、スケルチレベルは“0”になります。

●ワイヤレスマイクでモニターする場合は、前面パネル側のMONIスイッチまたは後面パネル側のMONIキーを押してください。
●MONIスイッチ
押している間だけモニター機能が動作します。
●MONIキー
押すごとにモニター機能が“ON/OFF”を繰り返します。

■同時受信したとき

430MHz帯と1200MHz帯で同時に受信すると、聞きづらくなることがあります。
そのときは、下記の操作を行うことにより、聞きやすくなります。
どちらかのバンドを優先したい場合は、
①優先しないバンド側のVOL（音量）ツマミを回して、音量を小さくします。
②SUBバンドオートミュート機能をセットします。
この機能は、同時受信したときに“MAIN”バンドを優先し、“SUB”バンド側の受信音をミュート（カット）します。
セットの方法は、SETモード（☞P59）をご覧ください。

■チューニングステップについて

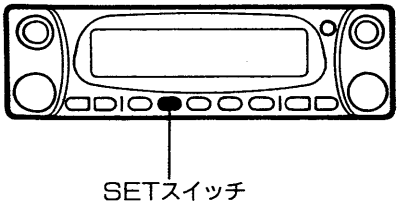
チューニングステップとは、メインダイヤルやワイヤレスマイクのUP/DNスイッチで周波数を設定するときに可変する幅をいいます。
本機の初期設定は430MHz/1200MHz帯ともに20kHzステップですが、430MHz帯では5/10/12.5/15/20/25/30/50kHz、1200MHz帯では10/12.5/20/25/30/50kHzのステップが選択でき、各バンドに異なるチューニングステップを設定できます。

1.設定するバンドとVFOモードを確認する

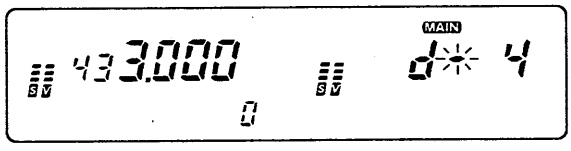
バンドとモードを設定しなおすときは、(☞P27) の [2.〜4.] と同様に操作してください。

2.SETモードにする

SETスイッチを押します。



"MAIN"バンドがSETモードの表示になります。

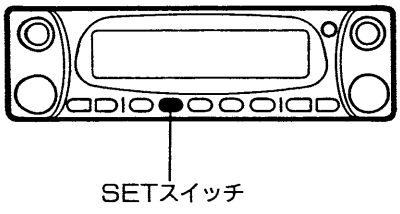


●ワイヤレスマイクでSETモードにする場合は、SETキーを押してください。

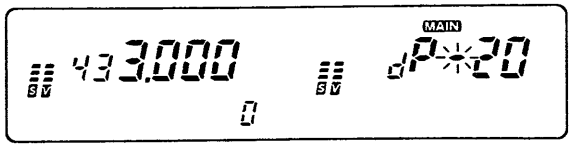
※SETモードの設定は、通常"MAIN"バンドに対して有効で、SUBバンドアクセス機能動作時は、"SUB"バンドに対して有効となります。

3.チューニングステップの項目を選ぶ

SETスイッチを数回押します。



チューニングステップの項目を選びます。

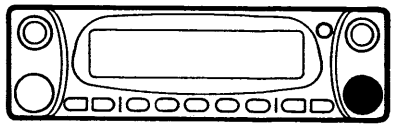


●ワイヤレスマイクでチューニングステップの項目を選択する場合は、SET/SPCHキーを押してください。

※SPCHスイッチで項目が逆に進みます。

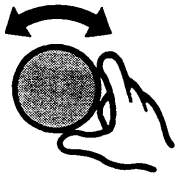
4.ステップ幅を選ぶ

メインダイヤルを回します。

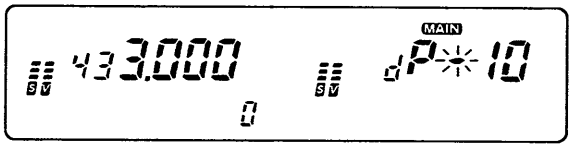


ステップ幅が
ダウンする

ステップ幅が
アップする



希望するステップ幅を選びます。

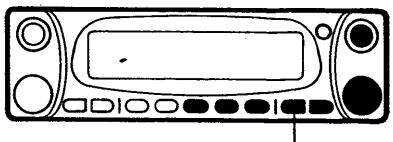


●ワイヤレスマイクでステップ幅を選択する場合は、UP/DNスイッチを押してください。

※チューニングステップは、430MHz帯で5/10/12.5/15/20/25/30/50kHz、1200MHz帯で10/12.5/20/25/30/50kHzの中から選択できます。

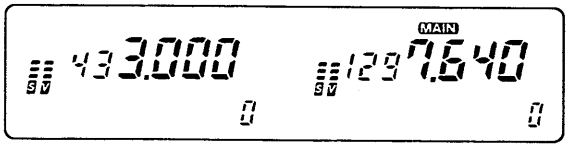
5.終了する

SETおよびSPCH以外のスイッチを押します。



例.1200MHz帯のV/MHzスイッチ

SETモードが解除され、SETモードに入る前の表示に戻ります。



●ワイヤレスマイクでSETモードを解除する場合は、CLRキーを押してください。

■1MHzステップの可変操作について

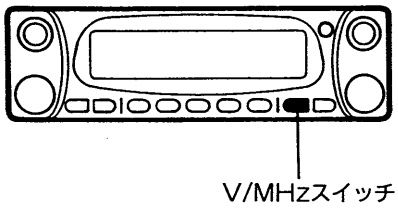
周波数を大きく変えたいときなどに便利です。

1.VFOモードを確認する

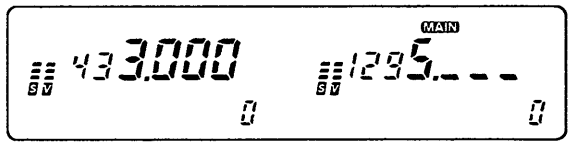
VFOモードの設定は、(☞P28) の [4] と同様に操作してください。

2.1MHzステップ表示にする

V/MHzスイッチを押します。



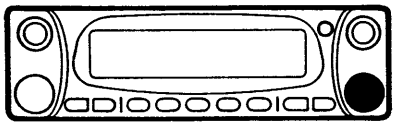
1MHzステップの表示になります。
※1MHzステップはバンドごとに、設定することができます。



●ワイヤレスマイクからの1MHzステップの変更はできません。

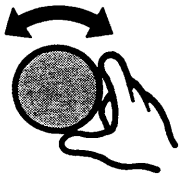
3.1MHz桁を設定する

メインダイヤルを回します。

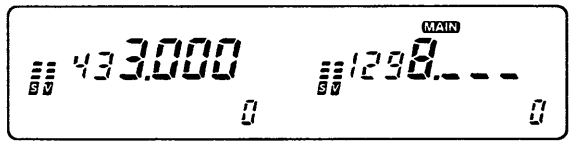


数値が
ダウンする

数値が
アップする

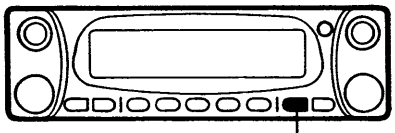


1MHz桁の数値を選びます。

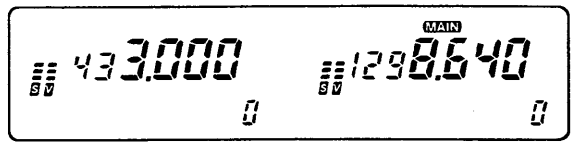


4.終了する

V/MHzスイッチを押します。



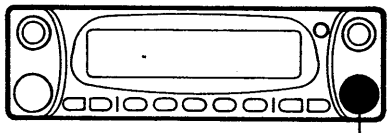
VFOモードの表示に戻ります。



5−2 送信のしかた

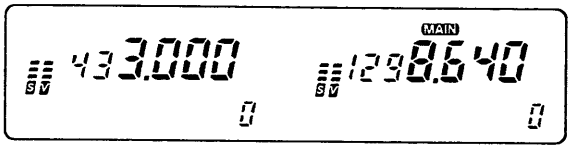
1.送信するバンドの設定（1200MHz帯に設定する場合）

1200MHz帯のBANDスイッチを押します。



1200MHz帯のBANDスイッチ

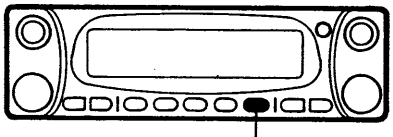
(MAIN)表示が点灯します。
※430MHz帯で送信するときは、430MHz側が点灯するようにしてください。



●ワイヤレスマイクで“MAIN”バンドを設定する場合は、BAND SELECT（▲）/（▼）の各スイッチを押してください。

2.送信出力を設定する

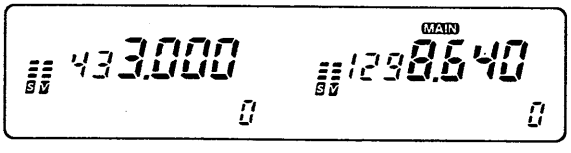
LOWスイッチを押します。



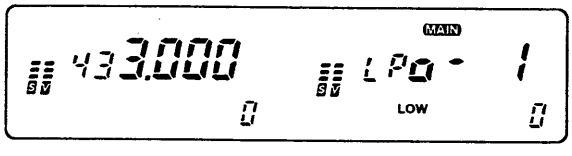
LOWスイッチ

LOWスイッチを押すごとに、送信出力表示が切り換わります。

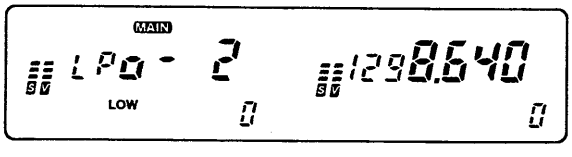
HIGHパワー表示



LOW-1パワー表示



LOW-2パワー表示（430MHz帯のみ）

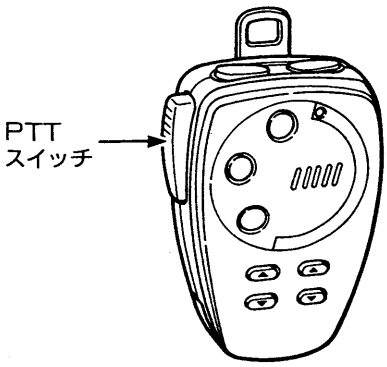


●ワイヤレスマイクで送信出力を設定する場合は、HIGH/MID/LOWの各キーを押してください。

注.1200MHz帯では、常置場所以外で運用する場合、空中線電力は1W以下に制限されていますのでご注意ください。

3.送信する

ワイヤレスマイクのPTTスイッチを押しながら、マイクに向って話かけてください。

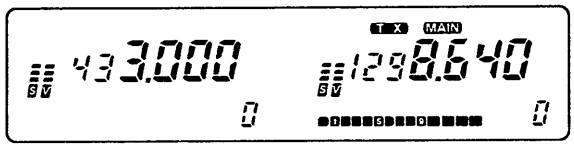


※マイクと口との間をあまり近付けたり、大声を出したりすると、かえって明瞭度が低下しますのでご注意ください。

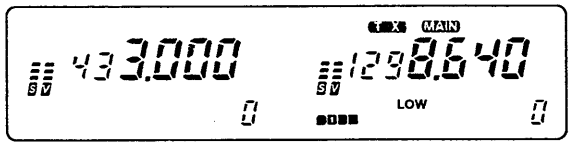
※PTTスイッチを離すと、受信状態に戻ります。

送信中は(TX)表示が点灯し、送信出力に合わせて送信インジケーターが表示されます。

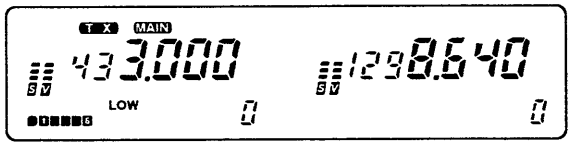
HIGHパワー送信時のインジケーター表示



LOW-1パワー送信時のインジケーター表示



LOW-2パワー送信時のインジケーター表示
(430MHz帯のみ)



●ワンタッチPTT機能について
ワイヤレスマイクのFUNCキーを押し、次にVFOキーを押すと、ワンタッチPTT機能が動作します。(LED-1が緑色に点灯)
PTTスイッチを押すと、ビープ音が“ピッピピ”と鳴り、送信状態を保持します。
再度PTTスイッチを押すと、受信状態に戻ります。(送信中は(TX)表示が点滅)
ワンタッチPTT機能を解除するときは、再度同じ操作を行ってください。

●タイムアウトタイマーについて
PTTスイッチで連続送信中に設定時間になると強制的に送信動作を停止する機能です。
タイムアウトタイマーの設定時間は、3分/5分/15分/30分/タイマー無し(初期設定)を、イニシャルセットモード(☞P67)で選択することができます。
タイムアウトタイマーの終了時間前になるとビープ音を鳴らして知らせます。

■送受信時のご注意

①周波数の相互関係(整数倍または1/整数など)によっては、430MHz帯で送信した信号を1200MHz帯で受信することがあります。
(例.送信周波数:431.000MHz、受信周波数:1293.000MHz)
②送信中に、受信しているバンドのスピーカー出力がマイクから入り、相手局が聞きにくいことがありますので、このときは受信しているバンドの音量を下げてください。

6 メモリー/コールチャンネルについて

6−1 メモリーチャンネルの使いかた

メモリーチャンネル（M-CH）は、430/1200MHz帯にそれぞれ“0〜49CH”まであり、個別に設定することができます。
本機のメモリーにはEEPROMを使用しています。
このため、バックアップ用のリチウム電池は使用していません。
メモリーチャンネルは430/1200MHz帯にそれぞれ50CHの合計100CHありますが、イニシャルセットモード（☞P67）で、430MHz帯/30CH，1200MHz帯/70CHのように使用状況に応じて任意に分割して設定することができます。
ひんぱんに使う周波数やレピータ情報などを、メモリーチャンネルにあらかじめ記憶させておけば、簡単にすばやく操作することができます。

■メモリーチャンネルの初期設定値（出荷時の状態）

バンド	内容
430MHz帯	0〜49CHのすべてに“433.000MHz”が書き込まれています。
1200MHz帯	0〜49CHのすべてに“1295.000MHz”が書き込まれています。

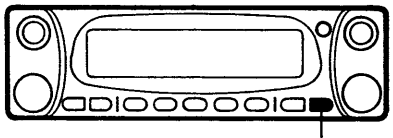
※すべてのメモリーチャンネルに(SKIP)が指定されていますが、書き込み操作を行うと、そのメモリーチャンネルの(SKIP)表示は消灯します。

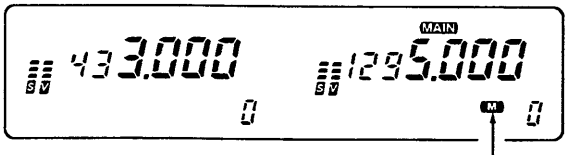
A メモリーチャンネルの呼び出しかた

1．呼び出したいバンドを選ぶ（1200MHz帯に設定する場合）

1200MHz帯のM/CALLスイッチを押します。

MEMOモードの表示にします。
※430MHz帯で操作するときは、430MHz帯のM/CALLスイッチを押します。
※MEMOモードはバンドごとに、設定することができます。



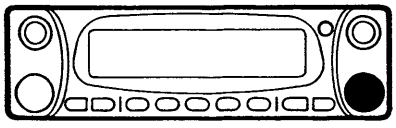


●ワイヤレスマイクでMEMOモードにする場合は、MRキーを押してください。

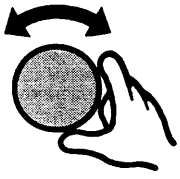
※MEMOモード状態で操作すると、CALL-CHモードになります。
そのときは、M/CALLスイッチをもう一度押してください。

2. 呼び出したいメモリーチャンネルを選ぶ

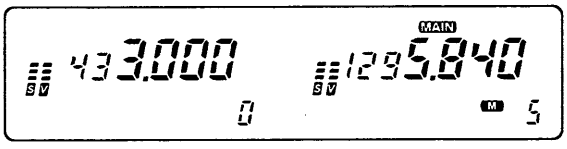
1200MHz帯のメインダイヤルを回します。



M−CHが ダウンする　M−CHが アップする



メモリーチャンネルに記憶している周波数を表示します。



●ワイヤレスマイクでメモリーチャンネルを設定する場合は、UP/DNスイッチを押してください。
※押し続けると、メモリースキャン動作になります。

●ワイヤレスマイクによるダイレクト入力
① 0CHの設定　[ENT] [0] [0] と押す
② 5CHの設定　[ENT] [0] [5] と押す
③ 20CHの設定　[ENT] [2] [0] と押す
④ 49CHの設定　[ENT] [4] [9] と押す

B メモリーチャンネルへの書き込みかた

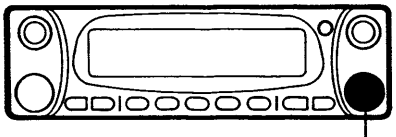
1.書き込みたいバンドの設定

(1200MHz帯の“8CH”に“1298.360MHz”を書き込む場合)

メモリーチャンネルへの書き込みは、通常“MAIN”バンドに対して有効で、SUBバンドアクセス機能動作時は、“SUB”バンドに対して有効となります。
必ず“MAIN”バンドまたは“SUB”バンドの設定を行ってください。(☞P25)

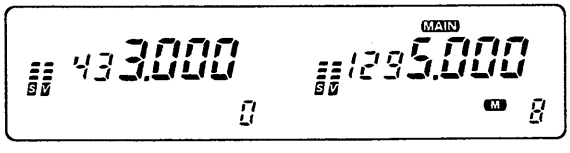
①前記の『A メモリーチャンネルの呼び出しかた』にしたがって、不要になったメモリーチャンネルを呼び出します。

②“MAIN”バンドの設定
1200MHz帯のBANDスイッチを押します。



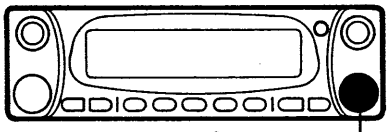
1200MHz帯のBANDスイッチ

(MAIN)表示が点灯します。



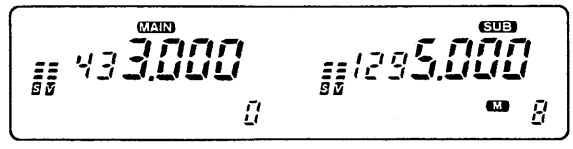
●ワイヤレスマイクで“MAIN”バンドを設定する場合は、BAND SELECT (▲) / (▼) の各スイッチを押してください。

■"SUB"バンドの設定
1200MHz帯のBANDスイッチを約1秒以上押します。



1200MHz帯のBANDスイッチ
(SUBバンドアクセス機能が"ON"します。)

(SUB)表示が点灯します。

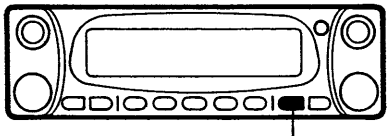


●ワイヤレスマイクでSUBバンドアクセス機能の設定は、FUNCキーを押し、次にBAND SELECTの〔▲〕スイッチを押してください。

※SUBバンドアクセス機能を動作させることにより、430MHz帯を運用中でも1200MHz帯の書き込み動作を行うことができます。

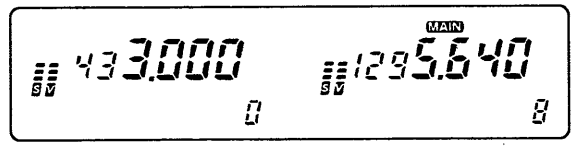
2.VFOモードに戻す

1200MHz帯のV/MHzスイッチを押します。



1200MHz帯のV/MHzスイッチ

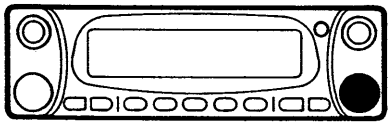
VFOモードの表示になります。



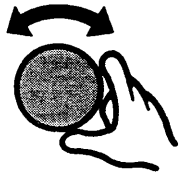
●ワイヤレスマイクでVFOモードにする場合は、VFOキーを押してください。

3.周波数を設定する

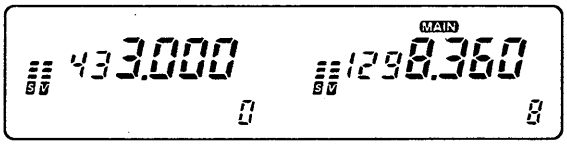
1200MHz帯のメインダイヤルを回します。



周波数が ダウンする　　周波数が アップする



書き込みたい周波数“1298.360MHz”を設定します。



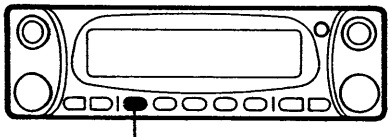
●ワイヤレスマイクで周波数を設定する場合は、UP/DNスイッチを押してください。

●ワイヤレスマイクによるダイレクト入力
[ENT] [1] [2] [9] [8] [3] [6] と押す。

●周波数以外に書き込めるデータ
- デュプレックスの状態（“ON/OFF”とシフト方向）（☞P43）
- オフセット周波数（☞P62）
- トーン周波数（☞P62）
- トーンエンコーダーの“ON/OFF”指定（オプション機能）（☞P104）
- トーンスケルチの“ON/OFF”指定（オプション機能）（☞P104）

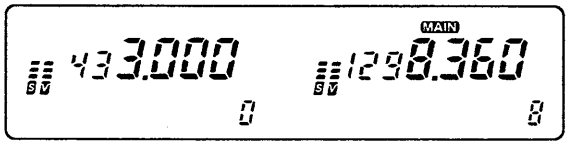
4.書き込む

SPCH【MW】スイッチをビープ音が“ピッピピ”と鳴るまで押します。



SPCH【MW】スイッチ

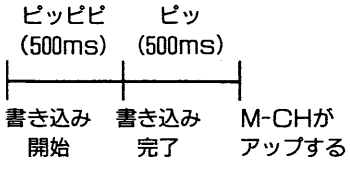
指定のメモリーチャンネルに書き込まれます。
（表示は変化しません。）

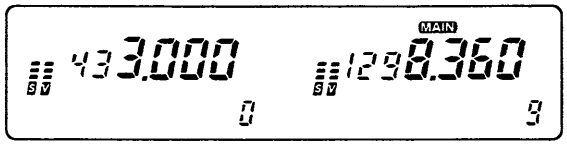


●ワイヤレスマイクで書き込みを行う場合は、FUNCキーを押し、次にCLRキーをビープ音が“ピッピピ”と鳴るまで押してください。

※なお、ビープ音が“ピッピピ　ピッ”と鳴るまで押すと、書き込みと同時にメモリーチャンネルを1チャンネルアップします。
（ワッチした周波数を連続で書き込む場合に便利な機能です。）

■書き込み時のタイミングについて





書き込みと同時にメモリーチャンネルがアップする

6−2 コールチャンネルの使いかた

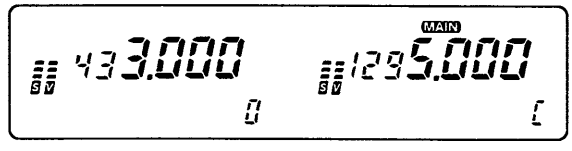
コールチャンネル（CALL-CH）はアマチュアバンド使用区分（☞P 2）にそって、呼び出し周波数（非常通信周波数）が書き込まれています。
コールチャンネルは430/1200MHz帯で、個別に設定することができます。
コールチャンネルは下記のように初期設定されていますが、自由に書き換えることができます。

- 430MHz帯： 433.000MHz
- 1200MHz帯：1295.000MHz

1.コールチャンネルの呼び出し（1200MHz帯に設定する場合）

1200MHz帯のM/CALLスイッチを押します。

コールチャンネルの内容が表示されます。
※430MHz帯で操作するときは、430MHz帯のM/CALLスイッチを押します。
※CALL-CHモードはバンドごとに、設定することができます。



●ワイヤレスマイクでコールチャンネルを設定する場合は、CALLキーを押してください。

2.コールチャンネルへの書き込みかた

①上記「1.コールチャンネルの呼び出し」にしたがって、書き換えたいバンドのコールチャンネルを呼び出します。
②VFOモードに戻し、希望の周波数を設定します。
③コールチャンネルの書き込みは、“MAIN”バンドまたは“SUB”バンドに対して行います。必ず“MAIN”バンドまたは“SUB”バンドの設定を行ってください。（☞P25）
④前項「B メモリーチャンネルへの書き込みかた」（☞P39）にしたがって、操作してください。

■メモリー内容の周辺を受信したいとき

MEMOまたはCALL-CHモードの内容をVFOモードに転送（メモリー内容は消えません）して、受信することができます。
①希望するメモリーチャンネルまたはコールチャンネルを呼び出します。
②前面パネルのSPCH【MW】スイッチをビープ音が“ピッピピ”と鳴るまで押すと、その内容をVFOモードに転送します。
③ワイヤレスマイクからの操作は、FUNCキーを押し、次にCLRキーをビープ音が“ピッピピ”と鳴るまで押すと、その内容をVFOモードに転送します。

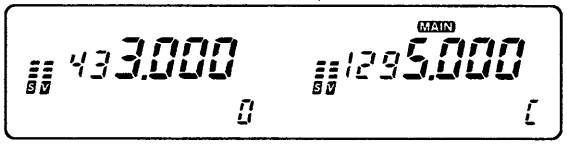
6−3 LOG（ログ）メモリー機能の使いかた

ログメモリー機能は、運用（送信）した周波数を自動的に記憶する機能で、シンプレックス用に3CH（L1〜L3）、デュプレックス（レピータ）用に3CH（r1〜r3）装備しました。
ログメモリー機能は、430/1200MHz帯にそれぞれあり、送信した周波数を順次3CHまで記憶し、古い順に消去していきます。
また、ログメモリーに同じ周波数を書き込んだ場合、ログメモリーの“L1”または“r1”に書き直し再記憶します。

1.ログメモリーチャンネルの呼び出し（1200MHz帯に設定する場合）

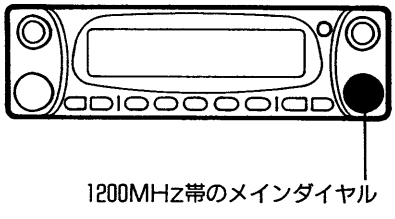
①1200MHz帯のM/CALLスイッチを押します。

コールチャンネルの内容が表示されます。
※430MHz帯で操作するときは、430MHz帯のM/CALLスイッチを押します。

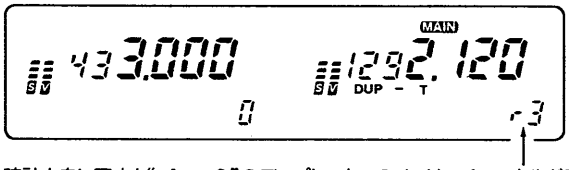


●ワイヤレスマイクでコールチャンネルを設定する場合は、CALLキーを押してください。

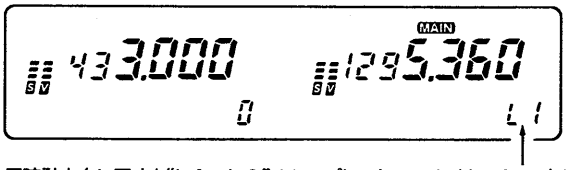
②1200MHz帯のメインダイヤルを回します。



シンプレックス用またはデュプレックス用のログメモリーチャンネルが呼び出され、その内容が表示されます。



時計方向に回すと“r1〜r3”のデュプレックスのメモリーチャンネルが呼び出されます。



反時計方向に回すと“L1〜L3”のシンプレックスのメモリーチャンネルが呼び出されます。

注.初期設定状態で、ログメモリーチャンネルを呼び出すことはできません。送信操作を行うことにより書き込まれ、呼び出すことができます。

●ワイヤレスマイクでログメモリーチャンネルを呼び出す場合は、UP/DNスイッチを押してください。

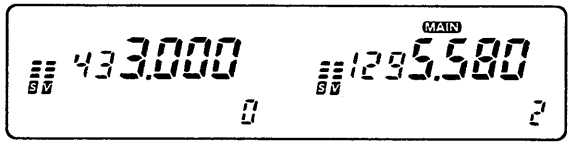
※ログメモリーチャンネルの切り換わりかた

シンプレックス用メモリーチャンネル　反時計方向に回す　時計方向に回す　デュプレックス用メモリーチャンネル

2.ログメモリーチャンネルへの書き込みかた

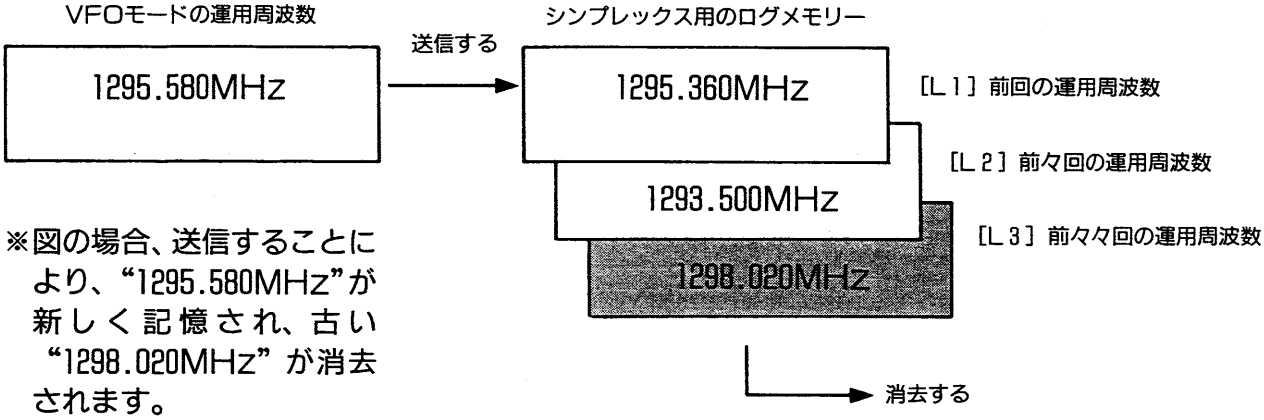
VFOモードで運用周波数を設定し、送信操作を行うことにより、自動的に書き込まれます。

①VFOモードで運用周波数を設定します。



②ワイヤレスマイクのPTTスイッチを押して、送信操作を行います。

■ログメモリー機能の動作例（シンプレックス操作の場合）



※図の場合、送信することにより、“1295.580MHz”が新しく記憶され、古い“1298.020MHz”が消去されます。

■ログメモリーの送信操作について

上記のログメモリー［L 3］を呼び出し、送信操作を行った場合は、［L 3］の内容を［L 1］にその内容を再記憶します。

また、［L 1］の内容は［L 2］、［L 2］の内容は［L 3］にそれぞれ再記憶されます。

●周波数以外にログメモリーに書き込めるデータ
- デュプレックスの状態［“ON/OFF”とシフト方向］
- オフセット周波数
- トーン周波数
- トーンエンコーダーの“ON/OFF”指定［オプション機能］
- トーンスケルチの“ON/OFF”指定［オプション機能］

■ログメモリーの内容の周辺を受信したいとき

ログメモリーの内容をVFOモードに転送（メモリーの内容は消えません）して、受信することができます。

①希望するログメモリーチャンネルを呼び出します。

②前面パネルのSPCH【MW】スイッチをビープ音が“ピッピピ”と鳴るまで押すと、その内容をVFOモードに転送します。

③ワイヤレスマイクからの操作は、FUNCキーを押し、次にCLRキーをビープ音が“ピッピピ”と鳴るまで押すと、その内容をVFOモードに転送します。

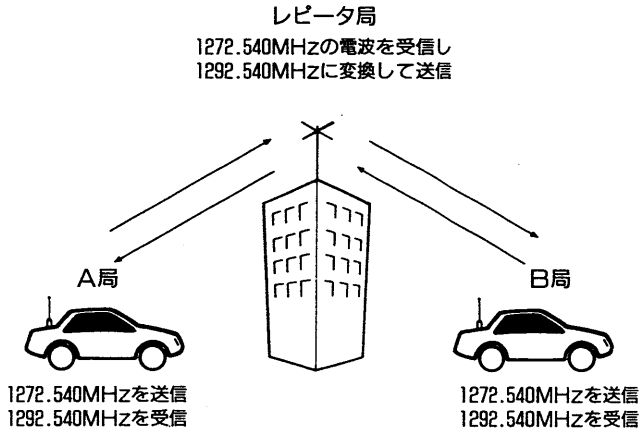
7−1 レピータについて

レピータとは、山や建物などの障害物で、直接交信できない局との交信を可能にする自動無線中継局です。
本機ではオートレピータ機能により、430/1200MHz帯で下記の周波数を設定すると、レピータ局をアクセス（起動）するために必要なトーンONと、オフセットのDUPー(マイナスシフト)を自動的に設定します。

- 430MHz帯：439.000〜440.000MHz
- 1200MHz帯：1290.000〜1293.000MHz

レピータの入力周波数は、地域によって異なりますので、JARL NEWSや各専門誌などでお調べください。
また、調べたレピータ情報をメモリーチャンネルに書き込んでおく（☞P39）と便利です。

レピータシステム（1200MHzの場合）



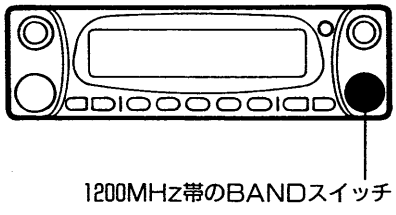
レピータは、多くの局が使用しますので、できるだけ小電力で手短に交信してください。

ご注意
430/1200MHz帯でレピータ周波数を設定すると、初期設定でトーン周波数（88.5Hz）とオフセット周波数（430MHz帯：−5MHz/1200MHz帯：−20MHz）が自動的にセットされますが、下記の操作を行った場合は特にご注意ください。
①SETモード（☞P59）でオフセット周波数を変更した場合は、オートレピータ機能のオフセット周波数も同時に変更されてしまいます。
②オプションのトーンスケルチユニット（UT-84）装着時に、SETモード（☞P59）でトーン周波数を変更した場合は、オートレピータのトーン周波数も同時に変更されてしまいます。

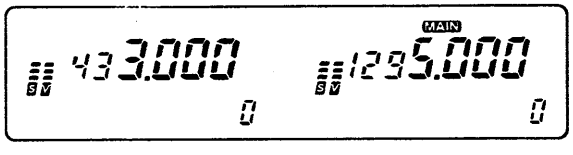
7−2 レピータの使いかた

1.1200MHz帯を選ぶ

1200MHz帯のBANDスイッチを押します。



(MAIN)表示が点灯します。



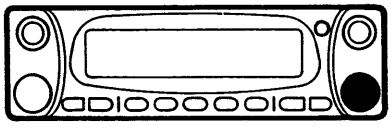
●ワイヤレスマイクで"MAIN"バンドを設定する場合は、BAND SELECTの(▲)スイッチを押してください。

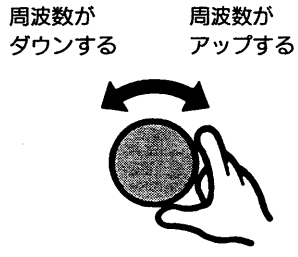
2.レピータ局の送信周波数を設定する

本機はオートレピータ機能により、430MHz帯（439.000〜440.000MHz）/1200MHz帯(1290.000〜1293.000MHz)の周波数を設定すると、マイナスシフト（430MHz帯：−5MHz/1200MHz帯：−20MHz)、トーンON（88.5Hz）が自動的にセットされます。

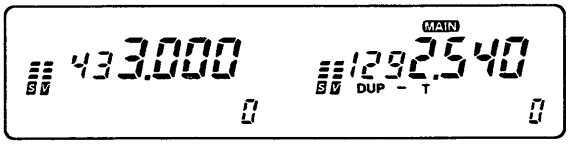
注.SETモード（☞P59）でトーン周波数の変更、またはオフセット周波数の変更をすると、オートレピータ機能のトーン周波数/オフセット周波数も同時に変更されます。

1200MHz帯のメインダイヤルを回します。





レピータ周波数(1290.000〜1293.000MHz)をセットします。
※430MHz帯は(439.000〜440.000MHz)をセットします。

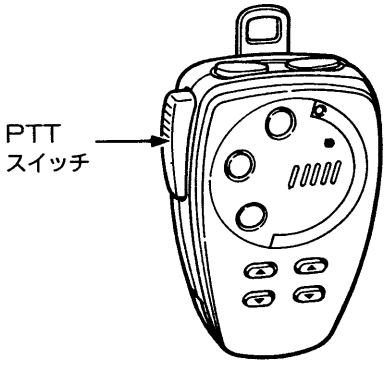


●ワイヤレスマイクで周波数を設定する場合は、UP/DNスイッチを押してください。

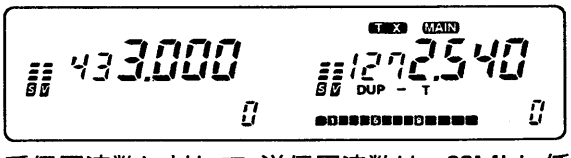
●ワイヤレスマイクによるダイレクト入力
①1292.540MHzの設定
[ENT] [1] [2] [9] [2] [5] [4] と押す
②1292.340MHzの設定
[ENT] [1] [2] [9] [2] [3] [4] と押す

3.レピータ局をアクセスする

ワイヤレスマイクのPTTスイッチを約2秒押します。



周波数が“−20MHz”シフトします。
※430MHz帯は“−5MHz”シフトします。

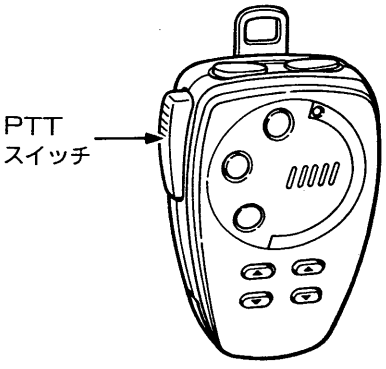


受信周波数に対して、送信周波数は−20MHz低くなります。

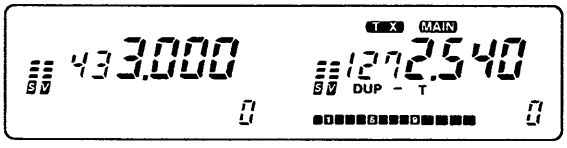
※発射した電波がレピータに届いていれば、ID信号(モールス符号または音声）が聞こえます。
タイミングによっては聞こえない場合もありますが、Sメーターの振れにより確認することができます。

4.交信する

ワイヤレスマイクのPTTスイッチを押すと送信、離すと受信に戻ります。



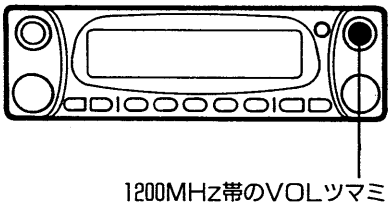
送信したときは(TX)表示が点灯します。



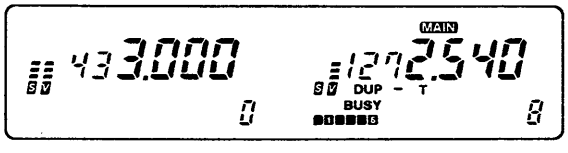
■送信モニター機能について

レピータ運用中に、レピータ局を通さずに交信ができるかを、次の操作で確認できます。

1200MHz帯のVOLツマミを押します。



相手局の送信周波数が表示され、受信できます。
相手局の音声が聞こえるときは、通常の交信が可能です。
できるだけレピータ運用をさけましょう。



●ワイヤレスマイクでモニターする場合は、前面パネル側のMONIスイッチまたは後面パネル側のMONIキーを押してください。

・MONIスイッチ
押している間だけモニター機能が動作します。

・MONIキー
押すごとにモニター機能が“ON/OFF”を繰り返します。

8 スキャンのしかた

8−1 スキャンの機能と動作

スキャンとは、周波数やメモリーチャンネル（M-CH）を自動的に切り換えて、信号の出ているところを探しだす機能です。

スキャンの名称	機　　能	動　　作
プログラムスキャン（☞P47）	あらかじめ指定した周波数範囲をスキャンします。	①スキャンスタート後、信号を受信すると一時停止します。 ②信号が途切れると約2秒後、信号が続いているときは約15秒後に再スタートします。 なお、再スタートの条件はSETモード（☞P59）で選択できます。
メモリースキャン（☞P52）	すべてのメモリーチャンネルをスキャンします。 なお、スキップが指定されたメモリーチャンネルは飛び越えてスキャンします。	
プライオリティスキャン（☞P56）	VFOモードの周波数を受信しながら、一定間隔で他の周波数（メモリーチャンネルまたはコールチャンネル）を受信します。	①VFOモードの周波数を約5秒受信し、他の周波数を瞬間受信します。 ②他の周波数を受信したときに信号を受けると、約15秒間受信し続けます。

8−2 スキャン操作をする前に

①スキャン操作をする前に、必ずスケルチを調整（☞P29）してください。

②スキャンを行うバンドは、必ず“MAIN”バンドまたは“SUB”バンドの設定を行ってください。（☞P25）

③周波数をスキャンするときのステップ幅は20kHzステップですが、SETモード（☞P59）で変更できます。

④一方のバンドでスキャンを操作しているときに、他のバンドもスキャン操作することができます。

⑤スキャン中にメインダイヤルを回して、スキャン方向を切り換えることができます。
また、スキャンが一時停止しているときにメインダイヤルを回すと、回した方向にスキャンは再スタートします。

8−3 プログラムスキャンのしかた

A 周波数範囲の設定

プログラムスキャン用メモリーチャンネルには、下記の周波数が初期設定されています。

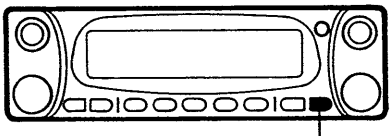
メモリーチャンネル	430MHz帯	1200MHz帯
1A 1b	430.000MHz 440.000MHz	1260.000MHz 1300.000MHz
2A 2b	430.000MHz 440.000MHz	1260.000MHz 1300.000MHz
3A 3b	430.000MHz 440.000MHz	1260.000MHz 1300.000MHz

※プログラムスキャンは、430/1200MHz帯のバンドごとに3グループあります。

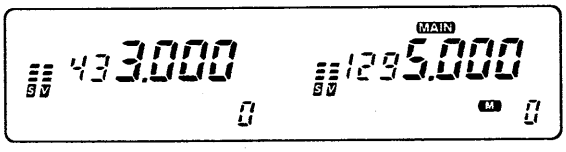
1．メモリーチャンネルの“1A”を呼び出す（1200MHz帯に設定する場合）

①1200MHz帯のM/CALLスイッチを押します。

MEMOモードの表示にします。
※430MHz帯で操作するときは、430MHz帯のM/CALLスイッチを押します。
※MEMOモードはバンドごとに、設定することができます。



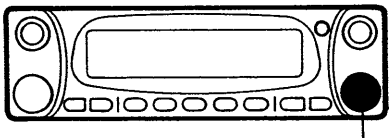
1200MHz帯のM/CALLスイッチ



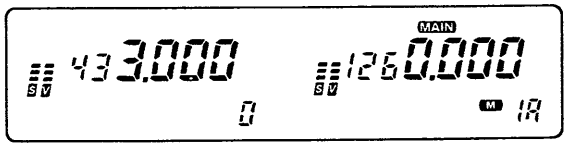
●ワイヤレスマイクでMEMOモードにする場合は、MRキーを押してください。

②1200MHz帯のメインダイヤルで、メモリーチャンネル“1A”を選択します。

メモリーチャンネル“1A”に記憶している内容が表示されます。



1200MHz帯のメインダイヤル



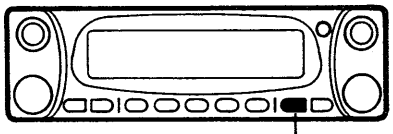
●ワイヤレスマイクでメモリーチャンネル“1A”を選択する場合は、UP/DNスイッチを押してください。

2.下限周波数を書き込む（1270.000MHzを書き込む場合）

メモリーチャンネルへの書き込みは、“MAIN”バンドまたは“SUB”バンドに対して動作します。

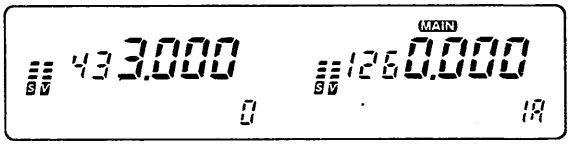
必ず“MAIN”バンドまたは“SUB”バンドの設定を行ってください。（☞P25）

①1200MHz帯のV/MHzスイッチを押します。



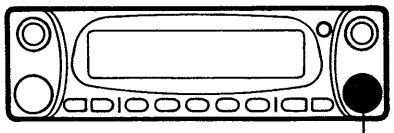
1200MHz帯のV/MHzスイッチ

VFOモードの表示にします。



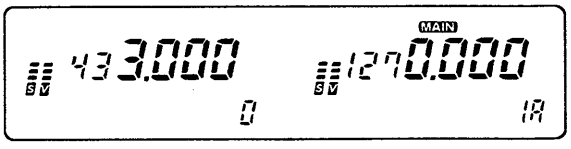
●ワイヤレスマイクでVFOモードにする場合は、VFOキーを押してください。

②1200MHz帯のメインダイヤルで下限周波数を設定します。



1200MHz帯のメインダイヤル

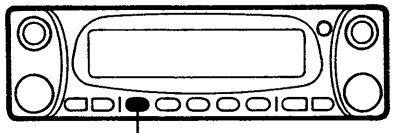
下限周波数を設定したときの表示例



●ワイヤレスマイクで周波数を設定する場合は、UP/DNスイッチを押してください。

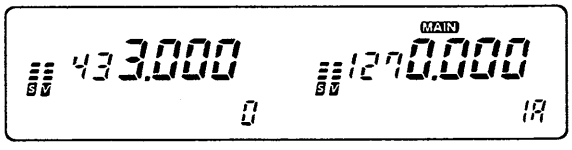
●ワイヤレスマイクによるダイレクト入力
[ENT] [1] [2] [7] [0] [0] [0] と押す

③SPCH【MW】スイッチをビープ音が“ピッピピ”と鳴るまで押します。



SPCH【MW】スイッチ

指定のメモリーチャンネルに書き込まれます。
（表示は変化しません。）



●ワイヤレスマイクで書き込みを行う場合は、FUNCキーを押し、次にCLRキーをビープ音が“ピッピピ”と鳴るまで押してください。

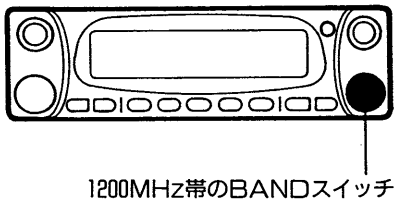
3.メモリーチャンネルの“1b”に上限周波数を書き込む

前記『1～2項』と同様に操作してメモリーチャンネル“1b”を呼び出し、上限周波数を書き込んでください。
さらにメモリーチャンネル“2A，2b”、“3A，3b”を呼び出し、同様の操作で上限/下限周波数を書き込んでください。
※上限/下限周波数は“A/bのどちらに書き込んでもかまいません。

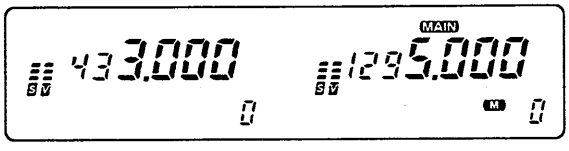
B スキャンのスタートと解除のしかた

1.スキャンしたいバンドを選ぶ（1200MHz帯に設定する場合）

1200MHz帯のBANDスイッチを押します。



(MAIN)表示が点灯します。

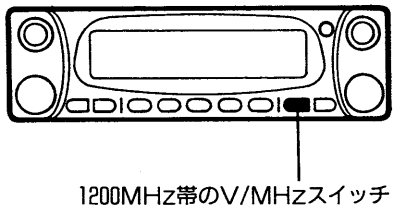


●ワイヤレスマイクで“MAIN”バンドを設定する場合は、BAND SELECTの(▲)スイッチを押してください。

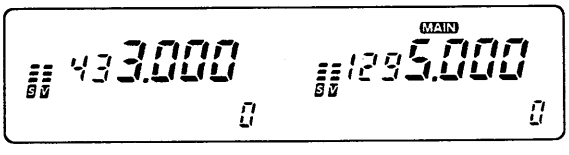
※スキャン操作は、“MAIN”バンドまたは“SUB”バンドに対して動作します。
スキャンを行うバンドは、必ず“MAIN”バンドまたは“SUB”バンドの設定を行ってください。(☞P25)

2.VFOモードにする（他のモードになっている場合のみ）

1200MHz帯のV/MHzスイッチを押します。



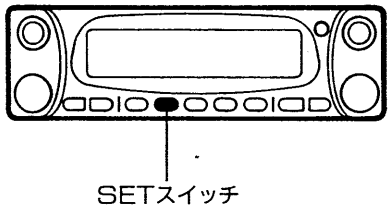
VFOモードの表示にします。



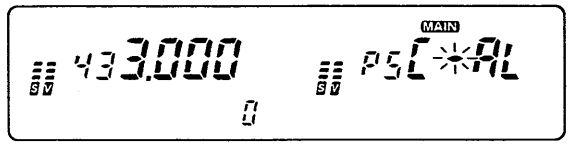
●ワイヤレスマイクでVFOモードを設定する場合は、VFOキーを押してください。

3.SETモードでプログラムスキャン範囲を設定する

①SETスイッチを数回押します。



プログラムスキャン範囲の設定項目を選びます。

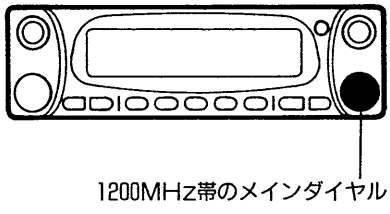


psC-AL（初期設定値）が表示されます。

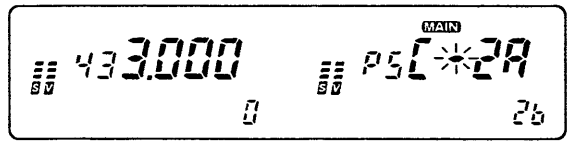
●ワイヤレスマイクでSETモードにする場合は、SETキーを押してください。
SETまたはSPCHキーを押して、プログラムスキャン範囲の設定項目を選択します。

※SPCHスイッチで項目が逆に進みます。

②1200MHz帯のメインダイヤルでスキャン範囲を選びます。

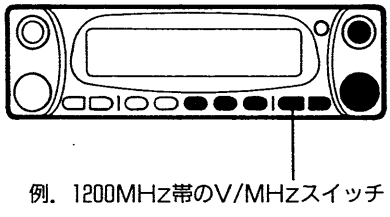


希望するスキャン範囲を選びます。

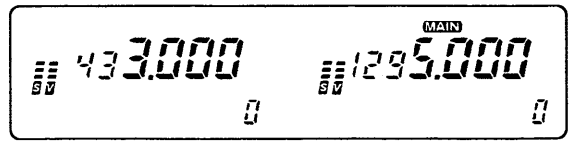


●ワイヤレスマイクでスキャン範囲を選ぶ場合は、UP/DNスイッチを押してください。

③SETおよびSPCH以外のスイッチを押します。



SETモードが解除され、SETモードに入る前の表示に戻ります。

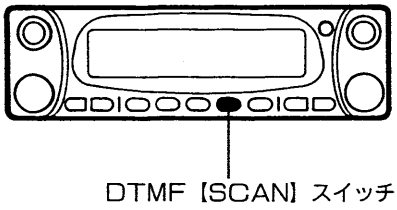


●ワイヤレスマイクでSETモードを解除する場合は、CLRキーを押してください。

■スキャン範囲について
- psC－AL：バンド間をフルスキャンします。（初期設定値）
- psC－1A：メモリーチャンネル“1A”，“1b”に記憶した周波数範囲をスキャンします。
- psC－2A：メモリーチャンネル“2A”，“2b”に記憶した周波数範囲をスキャンします。
- psC－3A：メモリーチャンネル“3A”，“3b”に記憶した周波数範囲をスキャンします。

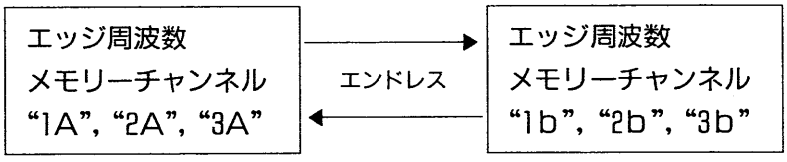
4.スキャンをスタートする

DTMF【SCAN】スイッチを約0.5秒以上押します。



スキャンがスタートします。
なお、スキャン中はデシマルポイントが点滅し、メモリーチャンネル表示部に現在設定されているスキャン範囲を表示します。

AL：フルスキャン　　P1：1A～1b
P2：2A～2b　　P3：3A～3b

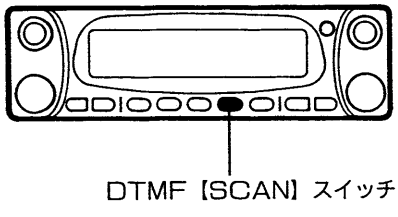


●ワイヤレスマイクでスキャンをスタートさせる場合は、UP/DNスイッチを約0.5秒以上押してください。
UPスイッチを押すとアップスキャン、DNスイッチを押すとダウンスキャン動作となります。
または、FUNCキーを押し、次にMONIキーを押してください。

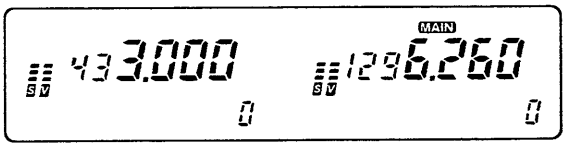
①スキャンスタート後、信号を受信すると一時停止します。
②信号が途切れると約2秒後、信号が続いているときは約15秒後に再スタートします。
※再スタートの条件は、SETモード（☞P59）で選択できます。

5.スキャンを解除する

DTMF【SCAN】スイッチを押します。



デシマルポイントが点滅から点灯に戻り、スキャンは解除されます。



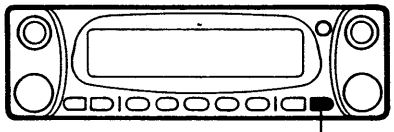
●ワイヤレスマイクでスキャンを解除する場合は、UP/DNスイッチを押してください。

8−4 メモリー（スキップ）スキャンのしかた

A スキップの指定と取り消し

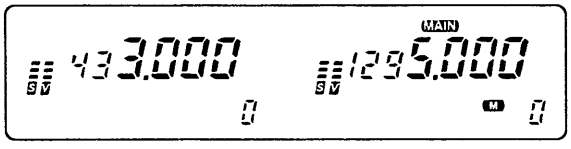
1.メモリーチャンネルを呼び出す（1200MHz帯に設定する場合）

①1200MHz帯のM/CALL スイッチを押します。



1200MHz帯のM/CALLスイッチ

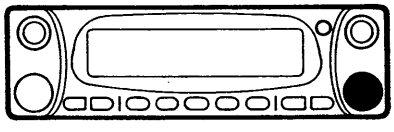
MEMOモードの表示にします。



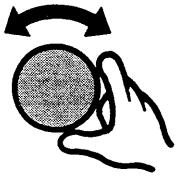
●ワイヤレスマイクでMEMOモードを設定する場合は、MRキーを押してください。

②1200MHz帯のメインダイヤルでメモリーチャンネルを選択します。

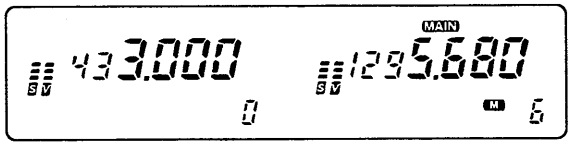
スキップを指定したいときは指定したいメモリーチャンネルを選び、取り消したいときは(SKIP)表示の取り消したいメモリーチャンネルを選択します。



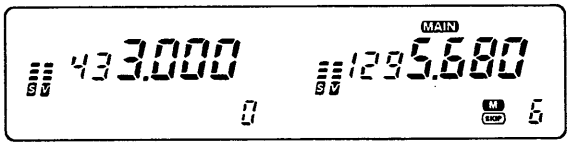
メモリーチャンネルがダウンする　メモリーチャンネルがアップする



スキップが指定されていない表示例



スキップが指定されている表示例



●ワイヤレスマイクでメモリーチャンネルを設定する場合は、UP/DNスイッチを押してください。

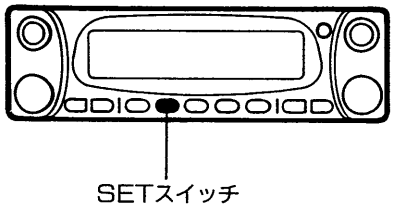
●ワイヤレスマイクによるダイレクト入力
①6 CHの設定　[ENT] [0] [6] と押す
②12CHの設定　[ENT] [1] [2] と押す

ご注意
※初期設定状態では、すべてのメモリーチャンネルに(SKIP)が指定されていますので、メモリースキャンは動作しません。
※イニシャルセットモード（☞P67）でメモリー分割範囲の設定、SETモード（☞P59）でメモリーエリアの設定を行った場合は、設定した範囲だけのスキャンとなります。

2.SETモードでスキップチャンネルの項目を選ぶ
（スキップの“ON/OFF”を指定する）

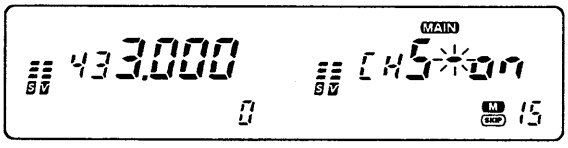
SETモードの操作は“MAIN”バンドまたは“SUB”バンドに対して動作します。
必ず“MAIN”バンドまたは“SUB”バンドの設定を行ってください。（☞P25）

①SETスイッチを数回押します。



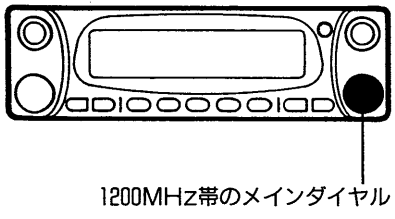
※SPCHスイッチで項目が逆に進みます。

SETモードの表示にして、スキップチャンネルの設定項目を選びます。

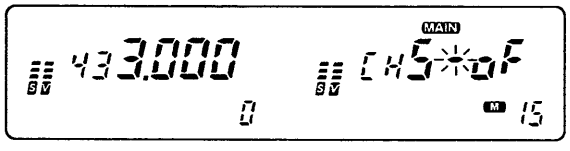


●ワイヤレスマイクでSETモードにする場合は、SETキーを押してください。
SETまたはSPCHキーを押して、スキップチャンネルの設定項目を選択します。

②1200MHz帯のメインダイヤルでスキップの指定をします。

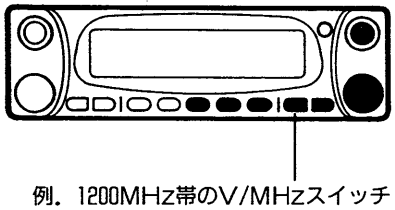


スキップを指定したいときは“cHS-on”，取り消したいときは“cHS-oF”を表示させます。

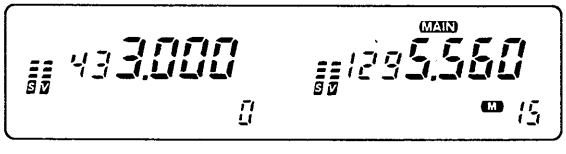


●ワイヤレスマイクでスキップを指定する場合は、UP/DNスイッチを押してください。

③SETおよびSPCH以外のスイッチを押します。



SETモードが解除され、SETモードに入る前の表示に戻ります。



●ワイヤレスマイクでSETモードを解除する場合は、CLRキーを押してください。

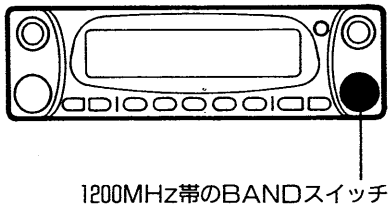
ご注意
※プログラムスキャン用メモリーチャンネル（1A　1b，2A　2b，3A　3b）から、SETモードに入ったときは、この項目を選択できません。

8 スキャンのしかた

B スキャンのスタートと解除のしかた

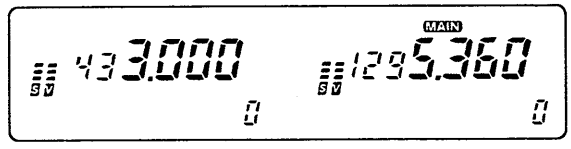
1.スキャンしたいバンドを選ぶ（1200MHz帯に設定する場合）

1200MHz帯のBANDスイッチを押します。



1200MHz帯のBANDスイッチ

(MAIN)表示が点灯します。



●ワイヤレスマイクで1200MHz帯を“MAIN”バンドにする場合は、BAND SELECTの[▲]スイッチを押してください。

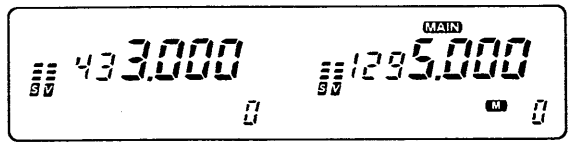
※スキャン操作は、“MAIN”バンドまたは“SUB”バンドに対して動作します。
スキャンを行うバンドは、必ず“MAIN”バンドまたは“SUB”バンドの設定を行ってください。(☞P25)

2.MEMOモードにする（他のモードになっている場合のみ）

1200MHz帯のM/CALLスイッチを押します。

1200MHz帯のM/CALLスイッチ

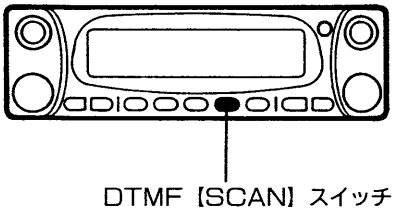
MEMOモードの表示にします。



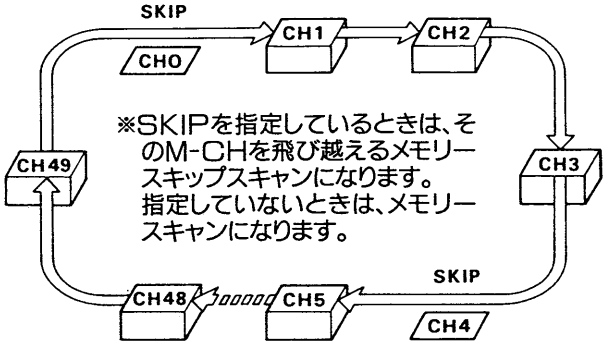
●ワイヤレスマイクでMEMOモードにする場合は、MRキーを押してください。

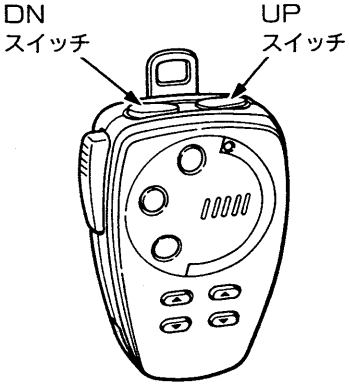
3.スキャンをスタートする

DTMF【SCAN】スイッチを約0.5秒以上押します。



スキャンがスタートします。
なお、スキャン中はデシマルポイントと[M]表示が点滅します。



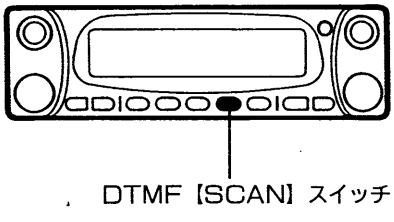


●ワイヤレスマイクでスキャンをスタートさせる場合は、UP/DNスイッチを約0.5秒以上押してください。
UPスイッチを押すとアップスキャン、DNスイッチを押すとダウンスキャンします。
または、FUNCキーを押し、次にMONIキーを押してください。

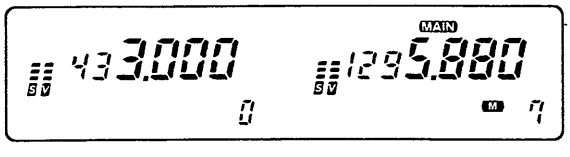
※スキップが指定されたメモリーチャンネルは飛び越えてスキャンします。
①スキャンスタート後、信号を受信すると一時停止します。
②信号が途切れると約2秒後、信号が続いているときは約15秒後に再スタートします。
※再スタートの条件は、SETモード(☞P59)で選択できます。

4.スキャンを解除する

DTMF【SCAN】スイッチを押します。



デシマルポイントと[M]表示が点滅から点灯に戻り、スキャンは解除されます。



●ワイヤレスマイクでスキャンを解除する場合は、UP/DNスイッチを押してください。

8-5 プライオリティスキャンのしかた

A プライオリティスキャンの種類

プライオリティスキャンは、各バンドごと個別に操作することができます。
なお、ワイヤレスマイクからのプライオリティスキャン操作は、“MAIN” バンドまたは“SUB” バンドに対して動作します。
プライオリティスキャンは、スキャンをスタートするときの動作状態により、次の 3 種類があります。

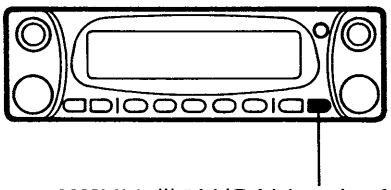
種　　類	動　　作
VFOとメモリーチャンネル　(☞次項)	VFOモードの周波数を約 5 秒間受信 (ワッチ) しながら、指定のメモリーチャンネルを瞬間受信します。
VFOとコールチャンネル　(☞P57)	VFOモードの周波数を約 5 秒間受信 (ワッチ) しながら、コールチャンネルを瞬間受信します。
VFOとメモリースキャン　(☞P58)	VFOモードの周波数を約 5 秒間受信 (ワッチ) しながら、一定間隔でメモリーチャンネルを “0” から “49” まで順番に受信します。

B VFOとメモリーチャンネルまたはコールチャンネルとのスキャン

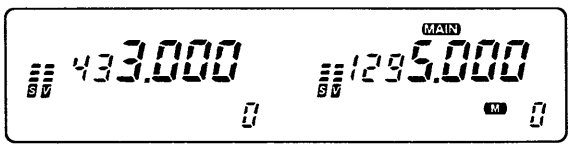
1.メモリーチャンネルまたはコールチャンネルを呼び出す (1200MHz帯に設定する場合)

■メモリーチャンネルを呼び出す

①1200MHz帯のM/CALLスイッチを押します。

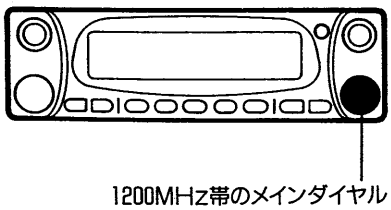


MEMOモードの表示にします。

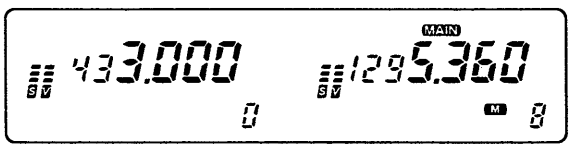


●ワイヤレスマイクでMEMOモードにする場合は、MRキーを押してください。

②1200MHz帯のメインダイヤルでメモリーチャンネルを指定します。



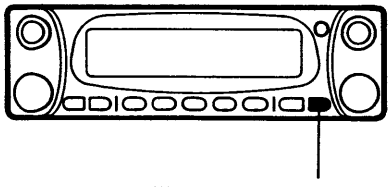
指定したメモリーチャンネルの内容が表示されます。



●ワイヤレスマイクでメモリーチャンネルを設定する場合は、UP/DNスイッチを押してください。

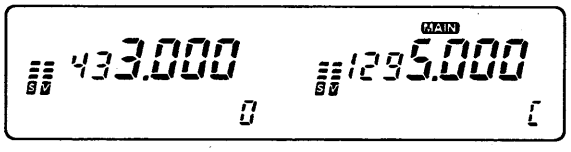
■コールチャンネルを呼び出す（1200MHz帯に設定する場合）

1200MHz帯のM/CALLスイッチを押します。



1200MHz帯のM/CALLスイッチ

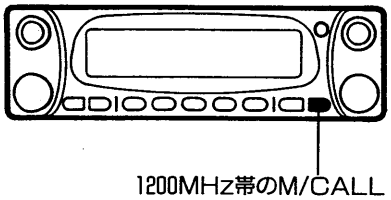
CALL-CHモードの表示にします。



●ワイヤレスマイクでCALL-CHモードにする場合は、CALLキーを押してください。

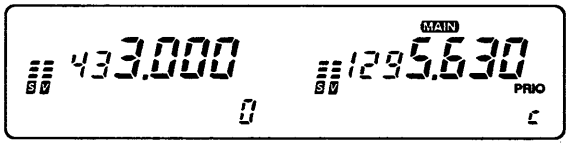
2.プライオリティスキャンをスタートする

1200MHz帯のM/CALL【PRIO】スイッチを約1秒以上押します。

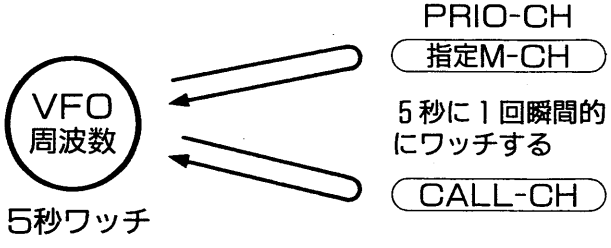


1200MHz帯のM/CALL【PRIO】スイッチ

"PRIO"表示が点灯し、プライオリティスキャンがスタートします。



●ワイヤレスマイクでプライオリティスキャンをスタートする場合は、FUNCキーを押し、次にMUTEキーを押してください。



※VFOモードの周波数を約5秒受信し、指定したメモリーチャンネルまたはコールチャンネルを瞬間受信します。

※メモリーチャンネルまたはコールチャンネルを受信したときに信号を受けると、約15秒間一時停止し、その後再スタートします。
再スタートの条件は、SETモード（☞P59）で選択できます。

●プライオリティスキャン中でも送信できますが、VFOモードの周波数で送信されます。
送信終了時は、VFOモードの周波数からプライオリティスキャンが再スタートします。

●VFOモードの周波数を表示しているときは、VFO周波数の変更などの操作ができます。

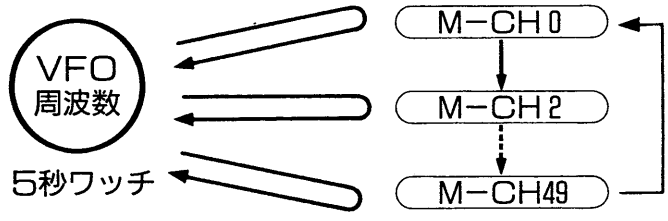
C VFOとメモリースキャンのスタート

1.メモリースキャンをスタートする

『8−4 メモリー（スキップ）スキャンのしかた』（☞P52）にしたがって、メモリースキャンをスタートします。

2.プライオリティスキャンをスタートする

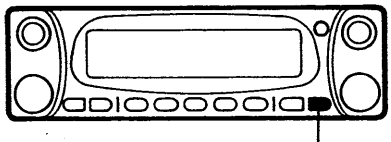
メモリースキャンがスタートしたら、同じバンドのM/CALL【PRIO】スイッチを約1秒押します。



※VFOモードの周波数を約5秒受信し、一定間隔でメモリーチャンネルを“0”から“49”まで順番に受信します。
なお、(SKIP)が指定されているメモリーチャンネルは、飛び越えてスキャンします。
※メモリーチャンネルを受信したときに信号を受けると、約15秒間一時停止し、その後再スタートします。
再スタートの条件は、SETモード（☞P59）で選択できます。

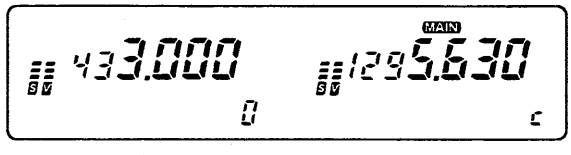
D プライオリティスキャンの解除

1200MHz帯のM/CALL【PRIO】スイッチを押します。



1200MHz帯のM/CALL【PRIO】スイッチ

“PRIO”表示が消灯し、プライオリティスキャンが解除されます。



●ワイヤレスマイクでプライオリティスキャンを解除する場合は、CLRキーを押してください。

※プライオリティチャンネルを受信しているときに、M/CALL【PRIO】スイッチを押しても、VFOの周波数に戻るだけで、スキャンは解除されません。

SETモードについて 9

9－1 SETモードの設定項目

SETモードとは、いったん設定してしまえば、普段はあまり設定しなおすことのない運用条件を変更するモードのことをいいます。
SETモードで変更できる運用条件は、おもにレピータの情報、スキャン再スタートの条件、およびチューニングステップの選択などがあり、各バンドごと個別に設定することができます。

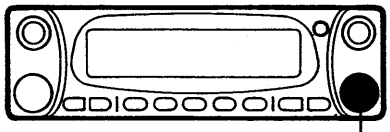
設定項目名	項目の表示(初期設定値)	設定内容	参照
ディマーの設定	MAIN d- 4	ディスプレイの明るさを選択する	P61
トーン周波数の設定	MAIN 88.5 T	トーン周波数を選択する トーンスケルチユニット（UT-84）装着時のみ	P62
オフセット周波数の設定	MAIN 20.000 DUP (430MHz帯は5.000MHz)	オフセット周波数を選択する	P62
チューニングステップの設定 (VFOモードのみ)	MAIN dP-20	周波数変更時やスキャン時のステップ幅を選択する	P62
スキャンストップタイムの設定	MAIN SCt- 15	スキャン一時停止後の再スタートの条件を選択する	P63
プログラムスキャン範囲の設定	MAIN PSC-AL	プログラムスキャン用メモリーチャンネルに書き込まれたスキャン範囲を選択する	P63
AFC機能の設定 (1200MHz帯のみ)	MAIN AFC- r	AFC機能の“オート/マニュアル”を選択する	P64
メモリーエリア範囲の設定	MAIN CH-49 0	使用するメモリーチャンネルの範囲(0～49）を任意に設定する	P64
スキップチャンネルの指定 (MEMOモードのみ)	MAIN CHS-on M 0	メモリースキャン時にスキップするメモリーチャンネルを指定する	P65
SUBバンドオートミュート/ビジービープの設定	MAIN Sub-oF	SUBバンドのオートミュートと、ビジービープの“ON/OFF”を選択する	P65
外部スピーカージャック機能の設定	MAIN AFo- 0	外部スピーカージャックの出力を選択する	P66
DTMFコードの送出スピードの設定	MAIN dtd- 1	DTMFコードの送出スピードを選択する	P66

9−2 SETモードの操作のしかた

SETモードの操作は、“MAIN” バンドまたは “SUB” バンドに対して動作します。
必ず “MAIN” バンドまたは “SUB” バンドの設定を行ってください。(☞P25)

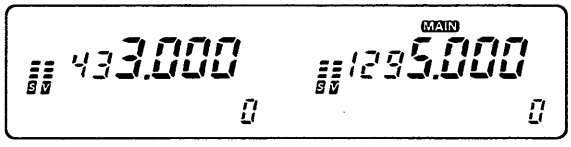
1.変更したいバンドを選ぶ（1200MHz帯に設定する場合）

1200MHz帯のBANDスイッチを押します。



1200MHz帯のBANDスイッチ

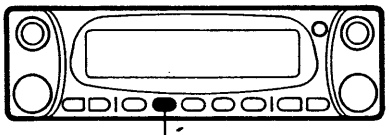
(MAIN)表示が点灯します。
※430MHz帯で操作するときは、430MHz側が点灯するようにしてください。



●ワイヤレスマイクで1200MHz帯を “MAIN” バンドにする場合は、BAND SELECTの（▲）スイッチを押してください。

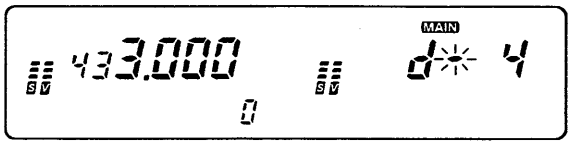
2.SETモードにする

SETスイッチを押します。



SETスイッチ

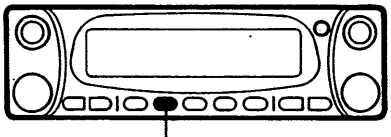
周波数表示から設定項目の表示に変わります。



●ワイヤレスマイクでSETモードにする場合は、SETキーを押してください。

3.設定項目を選ぶ

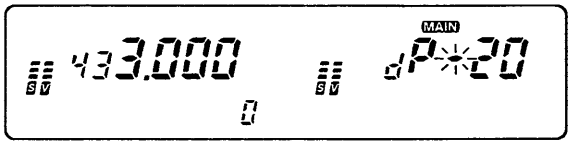
SETスイッチを数回押します。



SETスイッチ

※SPCHスイッチで項目が逆に進みます。

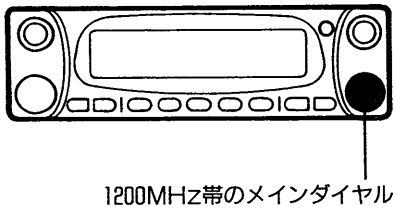
SETスイッチを押すごとに、設定項目（『9−1 SETモードの設定項目』を参照）が変化します。



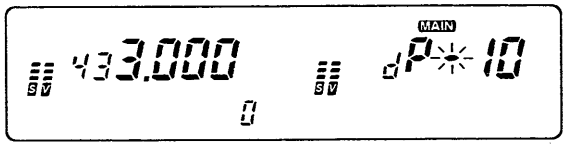
●ワイヤレスマイクで設定項目を選択する場合は、SETまたはSPCHキーを押してください。

4.設定内容を選ぶ

1200MHz帯のメインダイヤルを回します。



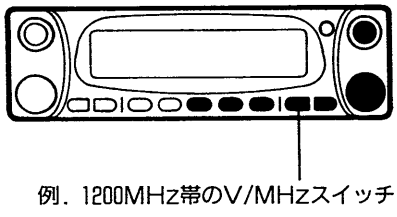
メインダイヤルを回すと、設定内容（『9−3 SETモードの項目別詳細』を参照）が変化します。



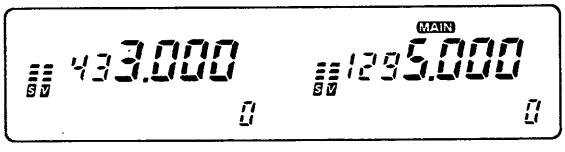
●ワイヤレスマイクで設定内容を変更する場合は、UP/DNスイッチを押してください。

5.SETモードの解除

SPCHおよびSET以外のスイッチを押します。



SETモードに入る前の表示に戻ります。

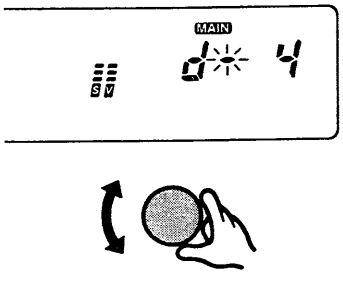


●ワイヤレスマイクでSETモードを解除する場合は、CLRキーを押してください。

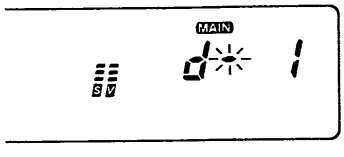
9−3 SETモードの項目別詳細

1.ディマーの設定

ディスプレイの明るさを4段階で選択することができます。
①メインダイヤルを右に回すと、“d-1”から“d-4”の方向に表示が変化するとともに、明るくなります。
②メインダイヤルを左に回すと、暗くなります。



照明が明るくなる

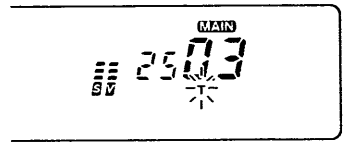


照明が暗くなる

2.トーン周波数の設定

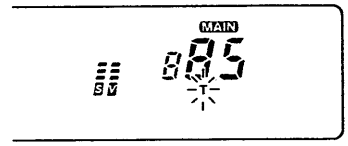
レピータや、トーンスケルチ運用時のトーン周波数を選択することができます。
オプションのトーンスケルチユニット（UT-84）を装着していないときは、表示されません。
●メインダイヤルを回すと、下表のようにトーン周波数が変化します。

67.0	88.5	114.8	151.4	203.5
69.3	91.5	118.8	156.7	210.7
71.9	94.8	123.0	162.2	218.1
74.4	97.4	127.3	167.9	225.7
77.0	100.0	131.8	173.8	233.6
79.7	103.5	136.5	179.9	241.8
82.5	107.2	141.3	186.2	250.3
85.4	110.9	146.2	192.8	単位:Hz



トーン周波数がアップする

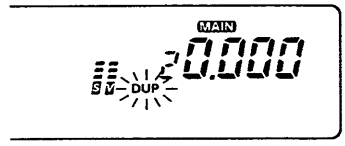
（エンドレス）



トーン周波数がダウンする

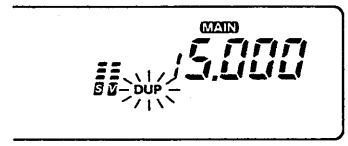
3.オフセット周波数の設定

レピータ運用時などの、送信周波数と受信周波数の差をオフセット周波数と呼びます。
●メインダイヤルを回すと、“0～60MHz”の間でオフセット周波数が変化します。
※1MHzステップの可変操作（☞P33）を利用することもできます。



オフセット周波数がアップする

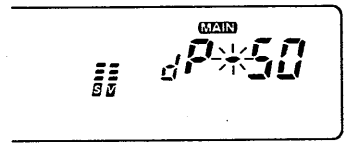
（エンドレス）



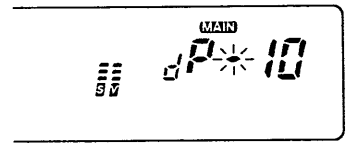
オフセット周波数がダウンする

4.チューニングステップの設定

周波数を設定したり、スキャンするときの周波数可変幅を下記の中から選択できます。VFOモードのみ表示されます。
●メインダイヤルを回すと、430MHz帯で“5/10/12.5/15/20/25/30/50kHz”、1200MHz帯で“10/12.5/20/25/30/50kHz”とステップ幅が変化します。



ステップ幅がアップする



ステップ幅がダウンする

5.スキャンストップタイムの設定

スキャン動作中に信号を受信して一時停止したあと、再スタートするまでの条件を選択できます。
●メインダイヤルを回すと、下表のように再スタートの条件を切り換えることができます。

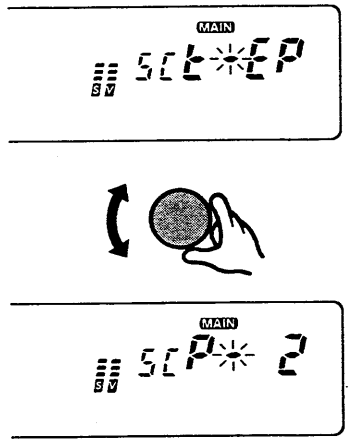


表　示	動　作　内　容
SCt- 5	一時停止してから約5秒後に再スタートします。
SCt- 10	一時停止してから約10秒後に再スタートします。
SCt- 15	一時停止してから約15秒後に再スタートします。
SCP- 2	信号が続くかぎり一時停止し、信号が途切れると約2秒後に再スタートします。
SCt-EP	信号の出ていない周波数で一時停止し、信号を受信すると再スタートします。

6.プログラムスキャン範囲の設定

プログラムスキャン用メモリーチャンネルに書き込まれたスキャン範囲を選択します。
●メインダイヤルを回すと、下表のようにプログラムスキャン範囲を切り換えることができます。

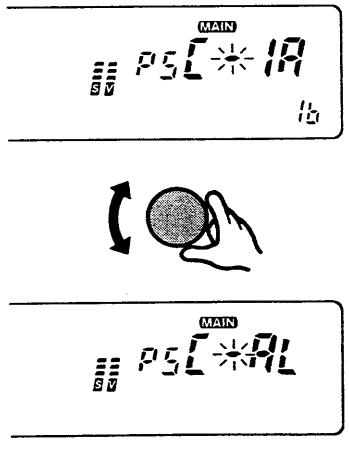


表　示	動　作　内　容
PSC-AL	バンド内をフルスキャンします。
PSC-1A	メモリーチャンネル“1A”と“1b”に指定された周波数範囲をスキャンします。
PSC-2A	メモリーチャンネル“2A”と“2b”に指定された周波数範囲をスキャンします。
PSC-3A	メモリーチャンネル“3A”と“3b”に指定された周波数範囲をスキャンします。

9 SETモードについて

7.AFC機能の設定

1200MHz帯で相手局の周波数変動に対して自局の周波数を、自動（オート）または手動（マニュアル）で同調させるかを選択できます。

●メインダイヤルを回すと、下記のようにAFC機能を切り換えることができます。

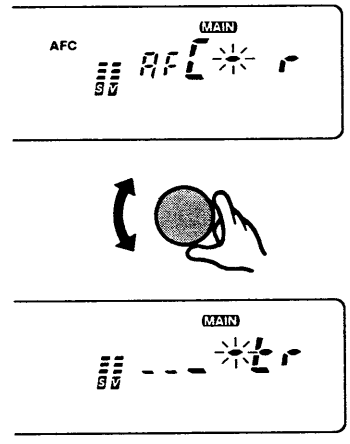


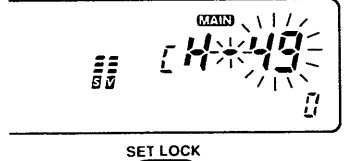
表　示	動　作　内　容
AFC -tr	相手局の送信周波数に自局の送受信周波数を自動で同調させます。
AFC - r	相手局の送信周波数に自局の受信周波数だけを自動で同調させます。
◂ ▸ --- -tr	メインダイヤルで相手局の送信周波数に自局の送受信周波数を同調させることができます。
◂ ▸ --- - r	メインダイヤルで相手局の送信周波数に自局の受信周波数だけを同調させることができます。

8.メモリーエリア範囲の設定

メモリーチャンネルのスキャンする範囲“0～49”を任意に設定できます。

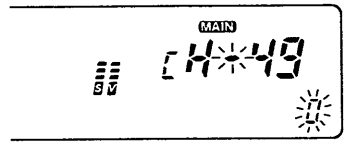
①メインダイヤルを回して、メモリーチャンネルの上限を選択します。
②SETスイッチを押します。
③メインダイヤルを回して、メモリーチャンネルの下限を選択します。

※メインダイヤルで点滅している方の数値が変更できます。
※数値は入れ替わってもかまいません。
※イニシャルセットモードで、430MHz帯と1200MHz帯のメモリー分割範囲の設定を行った場合は、その範囲内で設定します。
※メモリーチャンネルの範囲の変更を行ってもメモリーの内容は保持されます。また、分割範囲以外のメモリーチャンネルの呼び出しもできません。



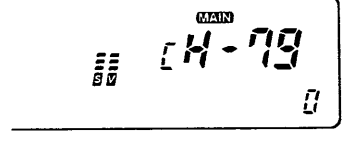
メモリーチャンネルの上限設定

SETスイッチを押します。



メモリーチャンネルの下限設定

※イニシャルセットモードで分割範囲の設定が430MHz帯20CH、1200MHz帯80CHの場合は、下記のような表示になります。

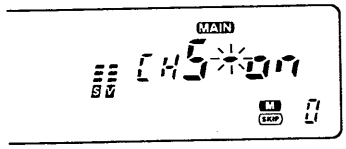


0～79のメモリーチャンネルの範囲で設定する

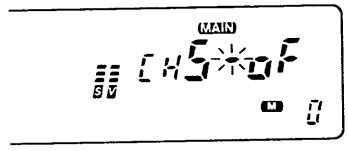
9.スキップチャンネルの指定

メモリースキャン時に、スキャンしなくてもよいメモリーチャンネルを指定できます。
MEMOモード時のみ表示されます。

●メインダイヤルを回して、スキップ表示を点灯させるときは“cHS-on”、消灯させるときは“cHS-oF”を選択します。
点灯させることにより、スキップチャンネルが指定されます。



スキップの指定

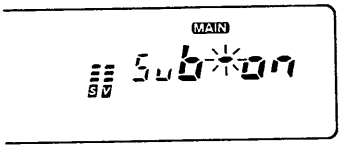


スキップの取り消し

10.SUBバンドオートミュート/ビジービープの設定

SUBバンドオートミュート機能とは、2バンドで同時に信号を受信したとき（スケルチが開いたとき）に、SUBバンド側の受信音を、自動的にミュート（カット）する機能です。SUBバンドビジービープ機能とは、SUBバンドで受信を終了（スケルチが閉じる）したときに、ビープ音を“ピッ”と鳴らして、終了を知らせる機能です。

●メインダイヤルを回すと、下表のようにSUBバンドオートミュート機能を切り換えることができます。



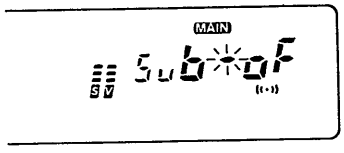


表　示	動　作　内　容
Sub-oF	両機能ともに“OFF”になります。
Sub-oF	SUBバンドビジービープ機能のみ“ON”になります。
Sub-on	SUBバンドオートミュート機能のみ“ON”になります。
Sub-on	両機能ともに“ON”になります。

11.外部スピーカージャック機能の設定

外部スピーカージャックの出力を選択することができます。

●メインダイヤルを回して、SP-1とSP-2ジャックの音声出力を下表のように切り換えることができます。

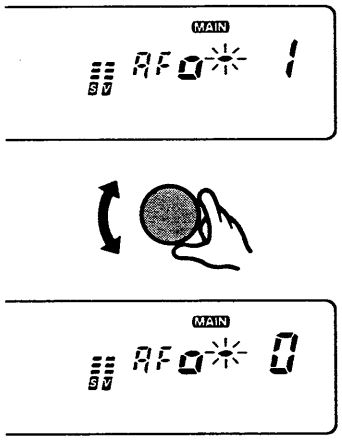


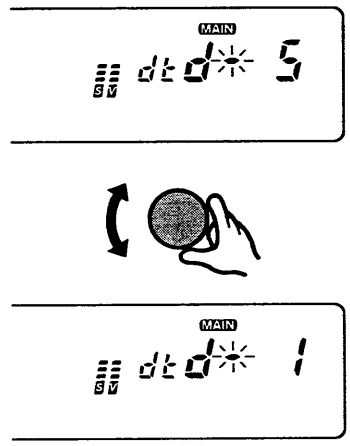
表　示	動　作　内　容
AFo- 0	外部スピーカーをSP-1とSP-2ジャックに接続したとき、 ・SP-1ジャックに接続した外部スピーカーから、430MHz帯の音声が聞こえます。 ・SP-2ジャックに接続した外部スピーカーから、1200MHz帯の音声が聞こえます。 外部スピーカーをSP-2ジャックだけに接続したとき、 ・内部スピーカーから430MHz帯の音声が聞こえます。 ・SP-2ジャックに接続した外部スピーカーから、1200MHz帯の音声が聞こえます。 外部スピーカーをSP-1ジャックだけに接続したとき、 ・SP-1ジャックに接続した外部スピーカーから、430MHz帯/1200MHz帯(両バンド)の音声が聞こえます。
AFo- 1	外部スピーカーをSP-1とSP-2ジャックに接続したとき、 ・SP-1ジャックに接続した外部スピーカーから、1200MHz帯の音声が聞こえます。 ・SP-2ジャックに接続した外部スピーカーから、430MHz帯の音声が聞こえます。 外部スピーカーをSP-2ジャックだけに接続したとき、 ・内部スピーカーから1200MHz帯の音声が聞こえます。 ・SP-2ジャックに接続した外部スピーカーから、430MHz帯の音声が聞こえます。 ※外部スピーカーをSP-1ジャックだけに接続したときは、上記(AFo-0)と同じ動作になります。

12.DTMFコードの送出スピードの設定

DTMFコードの送出スピードを選択できます。

●メインダイヤルを回すと、"dtd-1"から"dtd-5"方向に表示が変化するとともに、送出スピードが遅くなります。

- dtd- 1：約100msec間隔で送出する
- dtd- 2：約200msec間隔で送出する
- dtd- 3：約300msec間隔で送出する
- dtd- 5：約500msec間隔で送出する



送出スピードが遅くなる

送出スピードが速くなる

イニシャルセットモード 10

10−1　イニシャルセットモードの設定項目

イニシャルセットモードとは、各バンド共通の運用条件を変更するモードのことをいいます。イニシャルセットモードで変更できる運用条件は、マイクアドレス、オートレピータ機能、使用メモリーの分割範囲などの設定ができます。

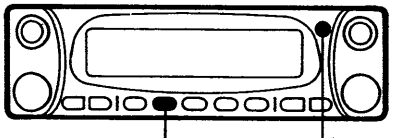
設定項目名	項目の表示(初期設定値)	設定内容	参照
ビープ音の設定	bEP-on	ビープ音の“ON/OFF”を選択する	P69
タイムアウトタイマーの設定	tot-oF	タイムアウトタイマーの設定時間を選択する	P69
オートレピータ機能の設定	rPt-on	オートレピータ機能の“ON/OFF”を選択する	P70
使用メモリーの分割範囲の設定	CHo-50 ■50	430/1200MHz帯で使用するメモリーチャンネルの分割範囲を選択する	P70
オートパワーオフ機能の設定	PoF-oF	オートパワーオフ機能の“ON/OFF”を選択する	P71
ファン制御の設定	FAn-At	空冷ファンの動作“オート/連続使用”を選択する	P71
音声合成の設定	SPC-JS	音声合成の“和/英”と、発声スピードを選択する 音声合成ユニット(UT-66)装着時のみ	P72
アドレスの設定	Adr- 1	マイクアドレスを選択する	P72

10−2　イニシャルセットモードの操作のしかた

1.イニシャルセットモードにする

①POWERスイッチで電源を切ってください。

②SETスイッチを押しながら、POWERスイッチで電源を入れます。



SETスイッチ　POWERスイッチ

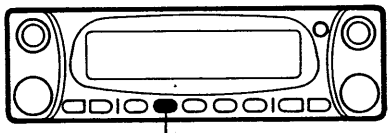
430MHz帯表示部に設定項目が表示されます。

bEP-on

●ワイヤレスマイクからのイニシャルセットモードの設定はできません。

2.設定項目を選ぶ

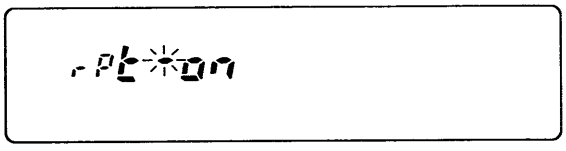
SETスイッチを数回押します。



SETスイッチ

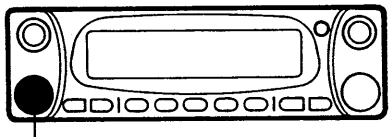
※SPCHスイッチで項目が逆に進みます。

SETスイッチを押すごとに、設定項目(『10-1 イニシャルセットモードの設定項目』を参照)が変化します。



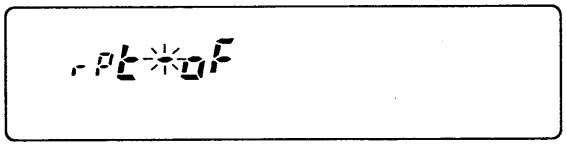
3.設定内容を選ぶ

430MHz帯のメインダイヤルを回します。



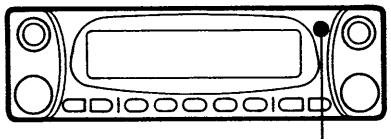
430MHz帯のメインダイヤル

メインダイヤルを回すと、設定内容(『10-3 イニシャルセットモードの項目別詳細』を参照)が変化します。



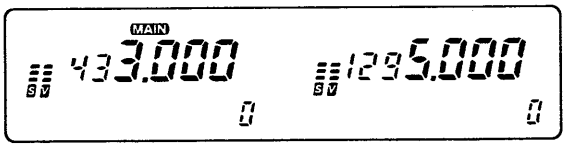
4.イニシャルセットモードの解除

POWERスイッチで電源を切り、再度電源を入れます。



POWERスイッチ

イニシャルセットモードに入る前の表示に戻ります。



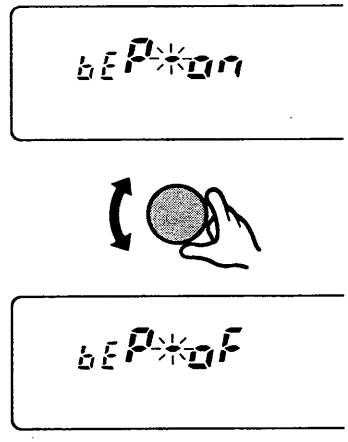
10−3 イニシャルセットモードの項目別詳細

1.ビープ音の設定

スイッチを操作したときに鳴るビープ音を“ON/OFF”できます。

●430MHz帯のメインダイヤルを回して、“ON”または“OFF”を選択します。“OFF”を選択すると、ビープ音は鳴りません。

※この設定に、ポケットビープの呼び出しやページャー機能は含まれません。



ビープ音が鳴る

ビープ音が鳴らない

2.タイムアウトタイマーの設定

PTTスイッチで連続送信中に設定時間がきたら、強制的に送信動作を停止する時間を選択することができます。

●430MHz帯のメインダイヤルを回すと、下表のように、タイムアウトタイマーの設定時間を切り換えることができます。

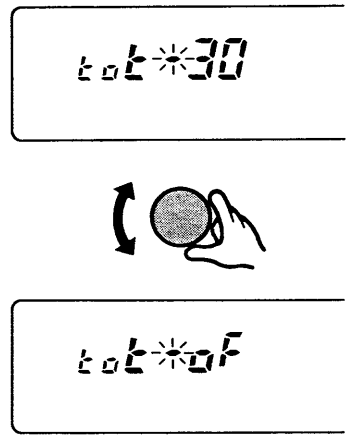
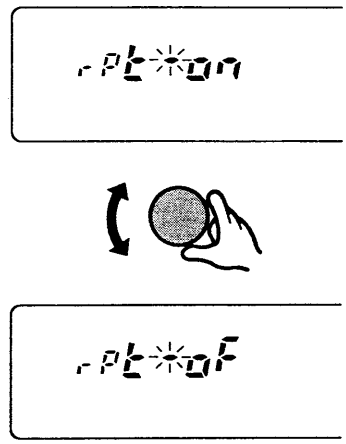


表　示	動　作　状　態
tot-oF	タイムアウトタイマー機能を“OFF”にします。
tot- 3	3分間のタイムアウトタイマーが設定されます。
tot- 5	5分間のタイムアウトタイマーが設定されます。
tot-15	15分間のタイムアウトタイマーが設定されます。
tot-30	30分間のタイムアウトタイマーが設定されます。

3.オートレピータ機能の設定

レピータ運用時のシフト周波数とトーン周波数を自動（オート）で設定することができます。

●430MHz帯のメインダイヤルを回して、オートレピータ機能の“ON”または“OFF”を選択します。



※オートレピータ機能は、トーンONとオフセットのDUP－（マイナスシフト）が自動的にセットされます。
なお、初期設定でトーン周波数(88.5Hz)、オフセット周波数(430MHz帯：－5MHz/1200MHz帯：－20MHz)が設定されています。
※オートレピータ機能は、下記の周波数範囲で動作します。
・430MHz帯：439.000～440.000MHz　・1200MHz帯：1290.000～1293.000MHz

4.使用メモリーの分割範囲の設定

430MHz帯に50CH、1200MHz帯に50CHの合計100CHのメモリーチャンネルを装備していますが、使用状況に応じて、430MHz帯と1200MHz帯に使用するメモリーチャンネルを分割して設定することができます。

●430MHz帯のメインダイヤルを回すと、430MHz帯と1200MHz帯で使用するメモリーチャンネルを切り換えることができます。
(10CHステップで増減します。)

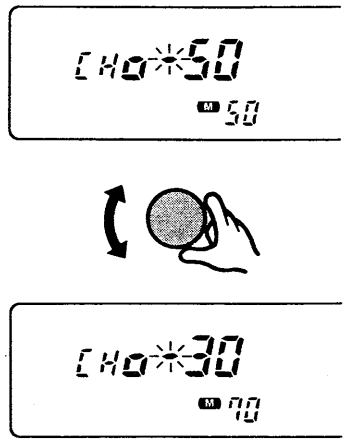


表　示	動　作　状　態
CHo-20 M 80	430MHz帯に20CH、1200MHz帯に80CHのメモリーチャンネルが設定されます。
～ CHo-50 M 50	430MHz帯に50CH、1200MHz帯に50CHのメモリーチャンネルが設定されます。
～ CHo-80 M 20	430MHz帯に80CH、1200MHz帯に20CHのメモリーチャンネルが設定されます。

5.オートパワーオフ機能の設定

電源の切りわすれを防止する機能です。運用が完了し、何も操作しない状態が、設定した時間になると、ビープ音が5回鳴り、電源を“OFF”にする機能です。

●430MHz帯のメインダイヤルを回すと、下記の表のように、設定時間を切り換えることができます。

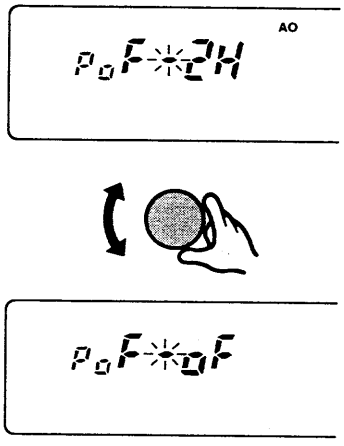


表　示	動　作　状　態
PoF-oF	オートパワーオフ機能を“OFF”にします。
PoF-30	30分後にオートパワーオフ機能が動作します。
PoF-1H	1時間後にオートパワーオフ機能が動作します。
PoF-2H	2時間後にオートパワーオフ機能が動作します。

6.ファン制御の設定

空冷ファンの動作を“AUTO(オート)または連続”にするかを設定することができます。

●430MHz帯のメインダイヤルを回すと、下記の表のように、ファン動作を切り換えることができます。

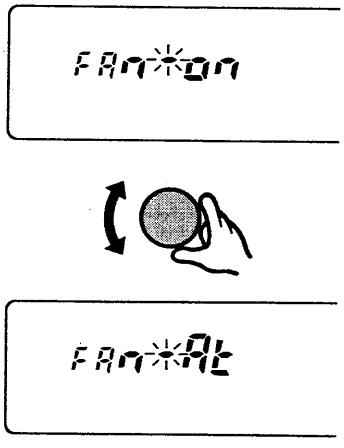


表　示	動　作　状　態
FAn-At	送信するとファンが動作し、一定時間後に自動的に停止します。
FAn-on	連続動作となります。

7.音声合成の設定

音声合成の出力音声および発声スピードを選択できます。
オプションの音声合成ユニット（UT-66）を装着していないときは、表示されません。
●430MHz帯のメインダイヤルを回すと、下表のように機能が変化します。
※SPCHスイッチを押すと、“MAIN”バンドまたは“SUB”バンドに設定された、表示周波数を音声で知らせます。

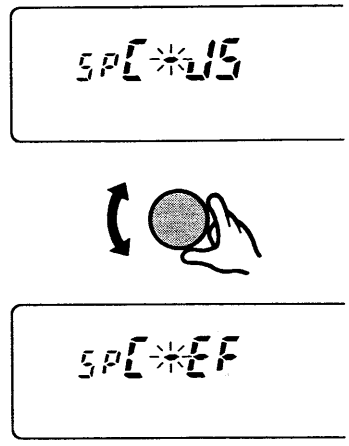


表　示	動　作　状　態
SPC -JF	日本語で発声し、発声スピードが早くなります。
SPC -JS	日本語で発声し、発声スピードが遅くなります。
SPC -EF	英語で発声し、発声スピードが早くなります。
SPC -ES	英語で発声し、発声スピードが遅くなります。

8.アドレスの設定

本機とワイヤレスマイクに共通のアドレスを設定することにより、マイクからリモコン操作ができます。
●430MHz帯のメインダイヤルを右に回すと、下表のようにアドレスが切り換わります。

※本機とワイヤレスマイクのアドレスは、必ず同じにしてください。（☞P22）

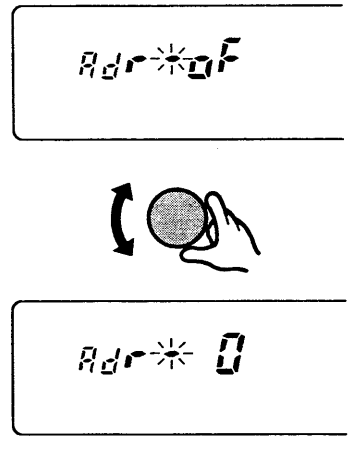


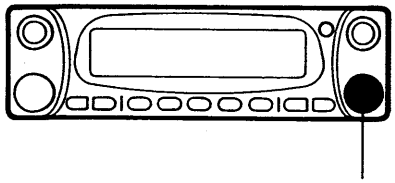
表　示	動　作　状　態
Adr - 0 ～ Adr - 7	アドレス“0”から“7”が設定されます。
Adr -oF	すべてのアドレスを無効とし、ワイヤレスマイクからのコントロールを禁止します。

11−1 同一バンド同時受信機能について

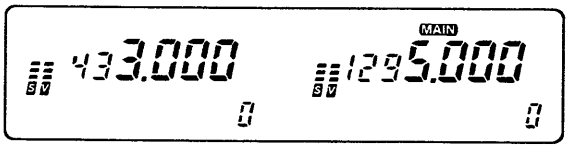
1200MHz帯に430MHz帯を呼び出し、同一バンドの同時受信ができます。
(パラワッチ機能)

1.430MHz帯2波同時受信の設定

①1200MHz帯のBANDスイッチを押します。

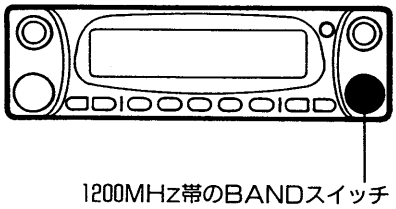


1200MHz帯を“MAIN”バンドにします。

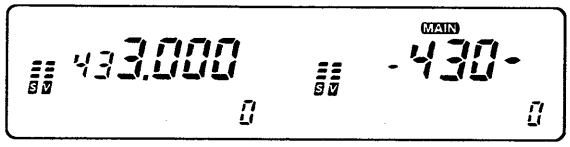


●ワイヤレスマイクで1200MHzを“MAIN”バンドにする場合は、BAND SELECTの〔▲〕スイッチを押してください。

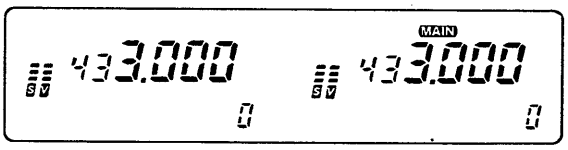
②1200MHz帯のBANDスイッチを約1秒以上押します。



ビープ音が“ピッピピ”と鳴り、1200MHz帯が430MHz帯のバンドに切り換わります。



約1秒後に430MHz帯の周波数が表示されます。

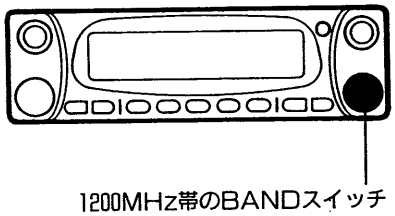


●ワイヤレスマイクで1200MHz帯を430MHz帯に切り換える場合は、BAND SELECTの〔▲〕スイッチを約1秒以上押してください。

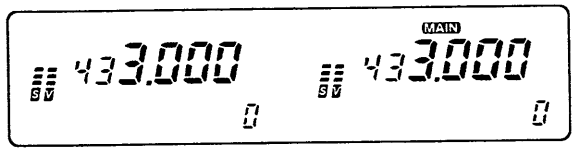
③以上の操作で、430MHz帯の同時受信ができます。
送受信の操作方法は、通常操作と同様です。
※“MAIN”バンドまたは“SUB”バンドを設定することにより、各種機能の操作ができます。
※送信は、“MAIN”バンドで行います。
“MAIN”バンドの切り換えは、各バンドのBANDスイッチで行ってください。
※“MAIN”バンドを送信すると、同じ帯域のバンドはミュートされ、受信できなくなります。
※メモリーチャンネルは、430MHz帯のメモリーチャンネルを共通で使用します。
※チューニングステップは、個別に設定することができます。

2.切り換えたバンドを元に戻す場合

①1200MHz帯のBANDスイッチを押します。

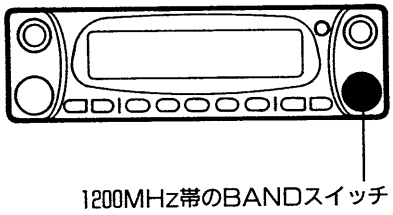


1200MHz帯を“MAIN”バンドにします。

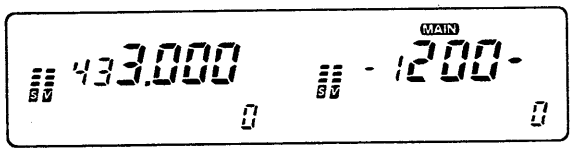


●ワイヤレスマイクで1200MHz帯を“MAIN”バンドにする場合は、BAND SELECTの〔▲〕スイッチを押してください。

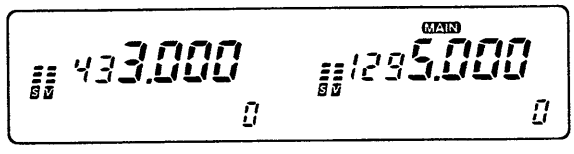
②1200MHz帯のBANDスイッチを約1秒以上押します。



ビープ音が“ピー”と鳴り、430MHz帯が1200MHz帯のバンドに戻ります。

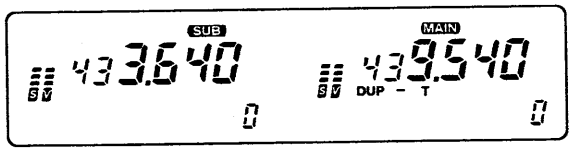


約1秒後に1200MHz帯の周波数が表示されます。



●ワイヤレスマイクで430MHz帯を1200MHz帯に切り換える場合は、BAND SELECTの〔▲〕スイッチを約1秒以上押してください。

■430MHz帯同時受信の操作例



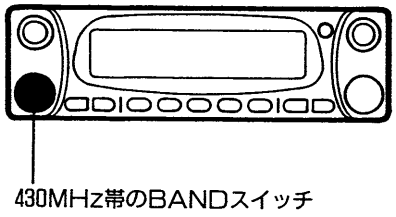
受信しながら各種機能の操作ができます。

送受信運用ができます。

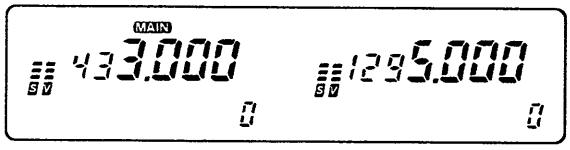
※“MAIN”バンドの設定により、どのバンドからでも送信できます。

11−2 144MHz帯の受信について

①430MHz帯のBANDスイッチを押します。

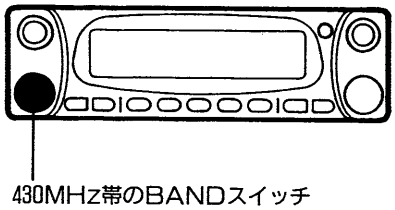


430MHz帯を“MAIN”バンドにします。

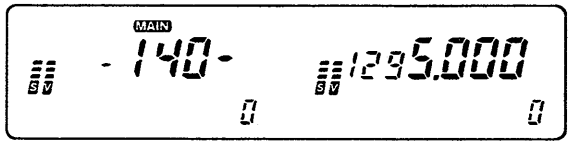


●ワイヤレスマイクで430MHz帯を“MAIN”バンドにする場合は、BAND SELECTの（▼）スイッチを押してください。

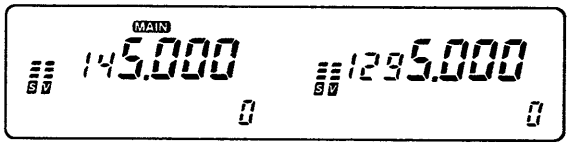
②430MHz帯のBANDスイッチを約1秒以上押します。



ビープ音が“ピッピピ”と鳴り、430MHz帯が144MHz帯のバンドに切り換わります。



約1秒後に144MHz帯の周波数が表示されます。



●ワイヤレスマイクで430MHz帯を144MHz帯に切り換える場合は、BAND SELECTの（▼）スイッチを約1秒以上押してください。

③以上の操作で、144MHz帯の受信ができます。
送信に関係する操作はできません。

■メモリーについて

- 144MHz帯のメモリーは、430MHz帯のメモリーを共用して使用します。
- その他のメモリーに関係する機能（呼び出し、書き込みなど）は、430MHz帯と同様に操作できます。操作方法は“☞P36〜P42”をご覧ください。

■スキャンについて

- 各種スキャン機能も430MHz帯と同様に操作できます。
  操作方法は“☞P46〜P58”をご覧ください。

■その他の機能について

- 144MHz帯のコールチャンネルはありません。
- コードスケルチの受信はできますが、ページャー機能は無効です。
- オプションのUT-84を装着しているときは、トーンスケルチやポケットビープ機能の受信もできます。

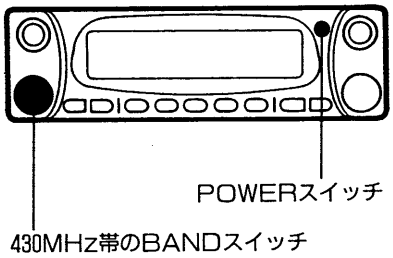
11−3 シングルバンドで運用するには

使用しないバンドをOFFにし、シングルバンドで運用することができます。

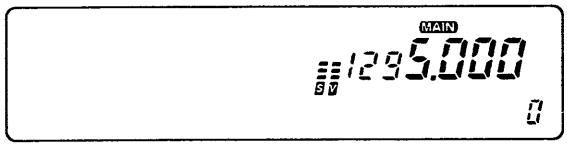
1.使用しないバンドを“OFF”にする

①POWERスイッチで電源を切ってください。

②430MHz帯のBANDスイッチを押しながら、POWERスイッチで電源を入れます。



430MHz帯の表示が消え、430MHz帯のバンドがOFFになります。
(シングルバンド運用状態)

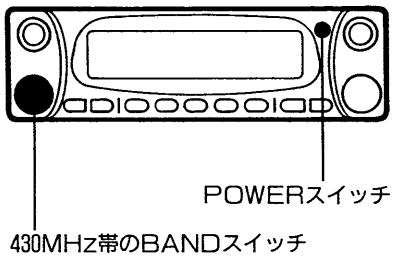


●ワイヤレスマイクからの設定はできません。

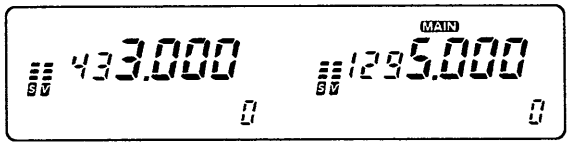
2.OFFにしたバンドを復帰(ON)させるには

①POWERスイッチで電源を切ってください。

②430MHz帯のBANDスイッチを押しながら、POWERスイッチで電源を入れます。



430MHz帯の表示が点灯し、運用状態になります。
(デュアルバンド運用状態)



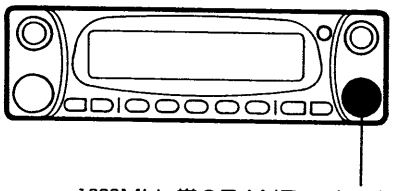
※電源の“ON/OFF”は、POWERスイッチを少し長く押してください。
※1200MHz帯も同様の操作で、バンドをOFFにすることができます。
※2バンド共、OFFにすることはできません。
※“MAIN”バンドが設定されていてもOFFにすることができます。
このとき、“MAIN”バンドは他のバンドに移ります。

11−4 DUPLEX運用のしかた

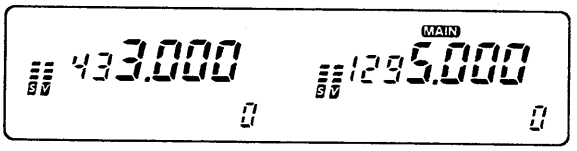
オートレピータ周波数以外の周波数で、送信と受信を違った周波数で運用するときに使用します。

1.運用するバンドを設定（1200MHz帯に設定する場合）

①1200MHz帯のBANDスイッチを押します。

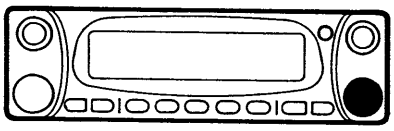


(MAIN)表示が点灯します。

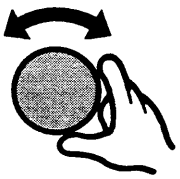


●ワイヤレスマイクで1200MHz帯を“MAIN”バンドにする場合は、BAND SELECTの（▲）スイッチを押してください。

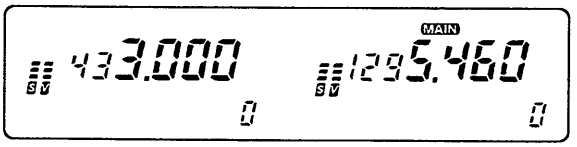
②1200MHz帯のメインダイヤルを回します。



周波数がダウンする　周波数がアップする



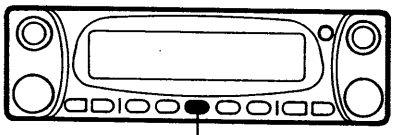
運用周波数を設定します。（例 1295.460MHz）



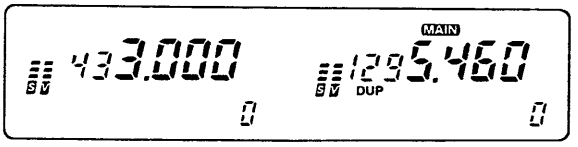
●ワイヤレスマイクで周波数を設定する場合は、UP/DNスイッチを押してください。

●ワイヤレスマイクによるダイレクト入力
[ENT] [1] [2] [9] [5] [4] [6] と押す

③DUPスイッチを押します。



“DUP−”または“DUP”を設定します。



●ワイヤレスマイクでDUPLEXモードを設定する場合は、DUP−またはDUP+キーを押してください。

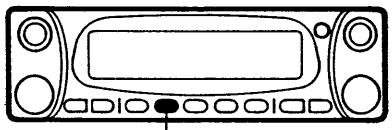
■DUPLEXモードについて

DUP−：送信周波数が受信周波数より、オフセット周波数だけ低くなります。

DUP+：送信周波数が受信周波数より、オフセット周波数だけ高くなります。

※オフセット周波数は、セットモード（☞P59）で設定します。

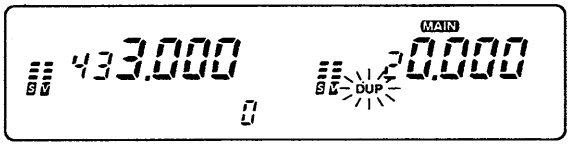
④SETスイッチを数回押します。(SETモード)



SETスイッチ

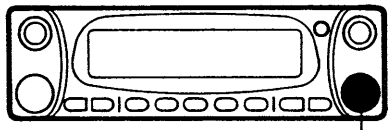
※SPCHスイッチで項目が逆に進みます。

SETモードの表示にして、オフセット周波数の設定項目を選びます。



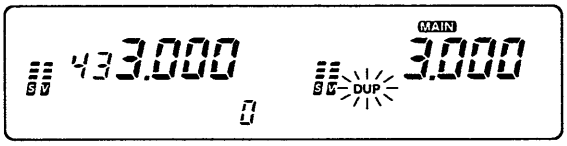
●ワイヤレスマイクでSETモードにする場合は、SETキーを押してください。
SETまたはSPCHキーを押して、オフセット周波数の設定項目を選択します。

⑤1200MHz帯のメインダイヤルを回します。



1200MHz帯のメインダイヤル

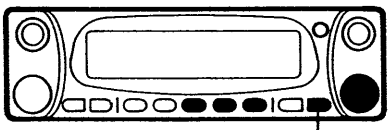
オフセット周波数をセットします。(初期設定20,000MHz)
(例 3,000MHz)



●ワイヤレスマイクでオフセット周波数を設定する場合は、UP/DNスイッチを押してください。

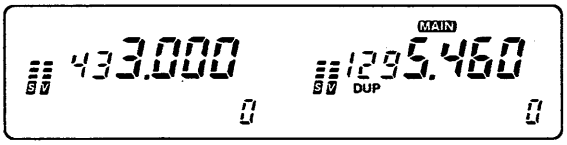
※1200MHz帯のV/MHzスイッチを押すと、1MHzステップでオフセット周波数が設定ができます。

⑥SETおよびSPCH以外のスイッチを押します。



例.1200MHz帯のM/CALLスイッチ

SETモードが解除され、SETモードに入る前の表示に戻ります。



この場合、受信周波数は1295.460MHz、送信周波数は1298.460MHzになります。

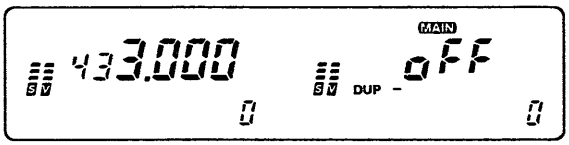
●ワイヤレスマイクでSETモードを解除する場合は、CLRキーを押してください。

■オフバンドについてのご注意

DUPLEX運用では、受信周波数に対して送信周波数はオフセット周波数だけシフトします。シフトした周波数がアマチュアバンドから逸脱した場合は、下記の表示となり送信できなくなります。

このようなときは、運用周波数または、オフセット周波数を設定しなおしてください。

・オフバンド表示例

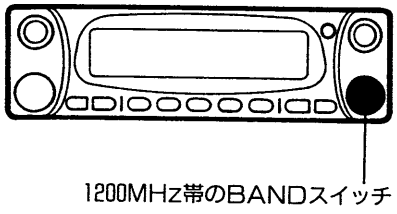


11−5 DTMFメモリー機能の使いかた

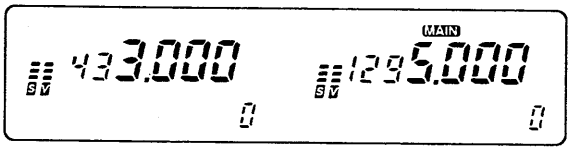
最大24桁のDTMF信号を、14チャンネルのメモリーに記憶することができます。
書き込んだメモリーは、430/1200MHz帯を共通で使用します。

A DTMFメモリーの呼び出しかた（1200MHz帯で呼び出す場合）

①1200MHz帯のBANDスイッチを押します。

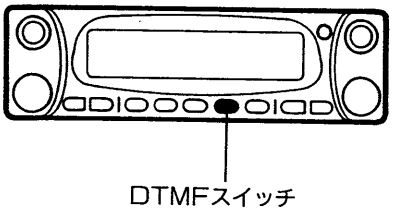


(MAIN)表示が点灯します。

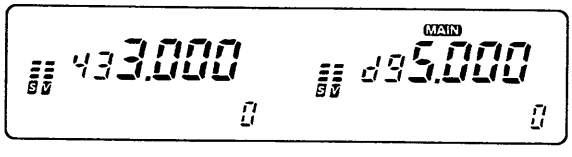


●ワイヤレスマイクで1200MHz帯を“MAIN”バンドにする場合は、BAND SELECTの（▲）スイッチを押してください。

②DTMFスイッチを数回押します。

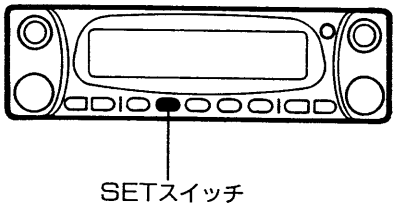


100MHz桁に“d”表示を点灯させます。
※DTMFメモリー運用モードになります。

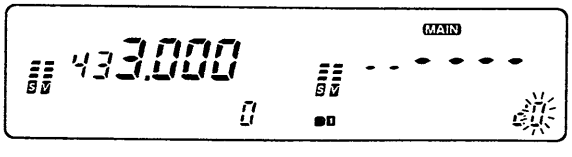


●ワイヤレスマイクでDTMFメモリー運用モードにする場合は、FUNCキーを押し、次にLOWキーを押します。

③SETスイッチを押します。

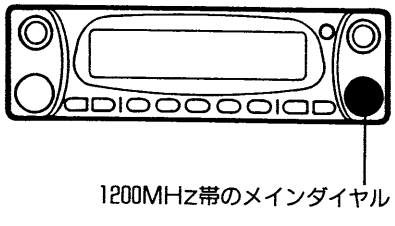


DTMFメモリー設定状態になります。

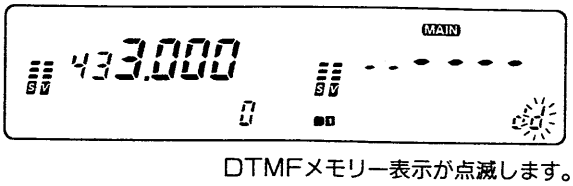


●ワイヤレスマイクでDTMFメモリー設定状態にする場合は、SETキーを押してください。

④1200MHz帯のメインダイヤルを回します。



DTMFメモリー“d0〜d9,dA〜dd”を選択します。



DTMFメモリー表示が点滅します。

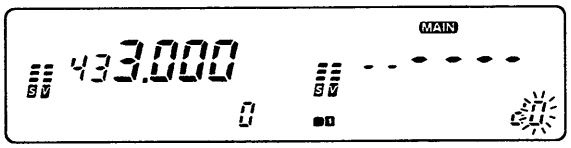
●ワイヤレスマイクでDTMFメモリーを選択する場合は、UP/DNスイッチを押してください。

B DTMFコードの書き込みかた

1.前面パネルの操作スイッチによる設定

①前記［DTMFメモリーの呼び出しかた］にしたがって、DTMFメモリー“d0”を呼び出します。

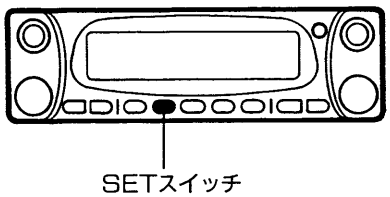
※DTMFメモリー“d0”を呼び出したときの表示例

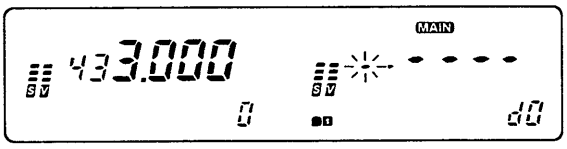


DTMFメモリー表示が点滅します。

②SETスイッチを押します。

1～6桁のコード設定表示になります。
※Sメーターのドットが2個点灯します。

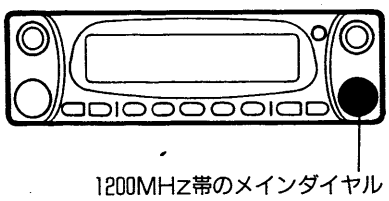


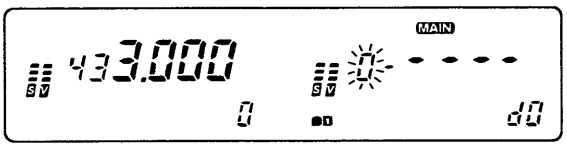


1桁目が点滅します。

③1200MHz帯のメインダイヤルを回します。

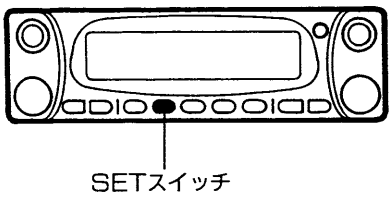
DTMFコード“0～9、A～F”のいずれかを設定します。

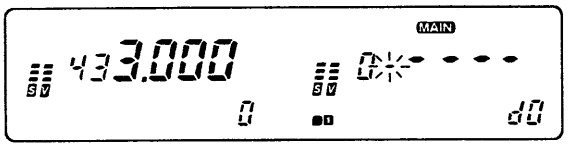




④SETスイッチを押します。

2桁目のコード設定状態になります。

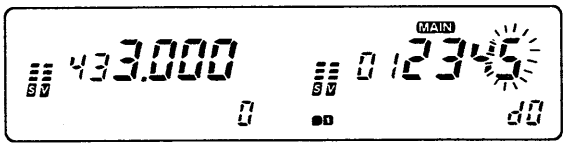




2桁目が点滅します。

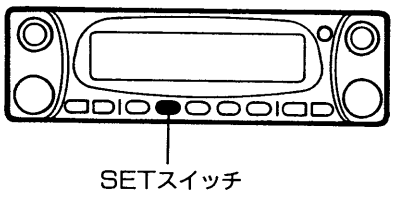
⑤上記②、③を繰り返し、6桁までのコードを設定します。

※6桁までのコード設定表示例

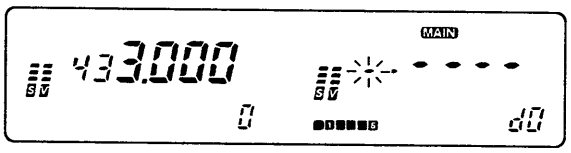


※DTMFコードの設定は、ワイヤレスマイクが簡単です。
ワイヤレスマイクからの設定は、P82をご覧ください。

⑥SETスイッチを押します。

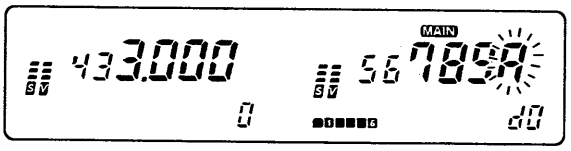


7〜12桁のコード設定表示になります。
※Sメーターのドットが6個点灯します。

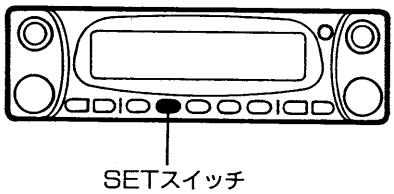


⑦前記②、③を繰り返し7桁から12桁まで設定します。

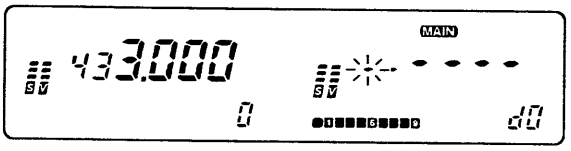
※7〜12桁までのコード設定表示例



⑧SETスイッチを押します。

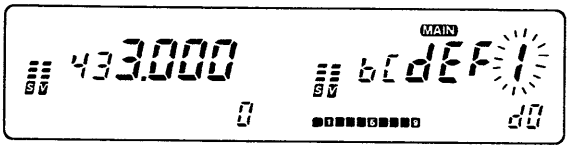


13〜18桁のコード設定表示になります。
※Sメーターのドットが10個点灯します。

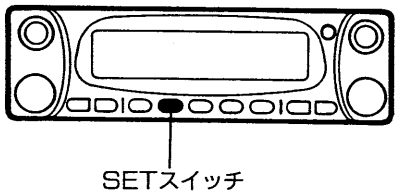


⑨前記②、③を繰り返し13桁から18桁まで設定します。

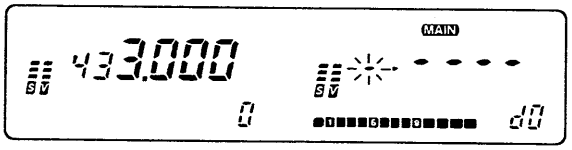
※13〜18桁までのコード設定表示例



⑩SETスイッチを押します。

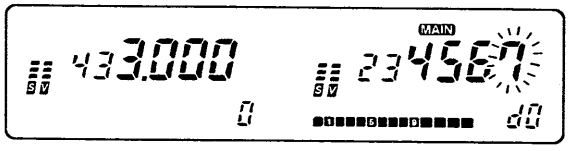


19〜24桁のコード設定表示になります。
※Sメーターのドットがすべて点灯します。



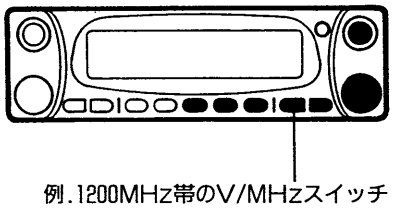
⑪前記②、③を繰り返し19桁から24桁まで設定します。

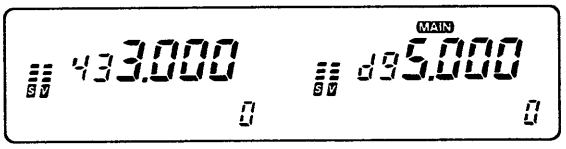
※19〜24桁までのコード設定表示例



⑫SETまたはSPCH以外のスイッチを押します。

DTMFコード書き込み状態を解除し、DTMFメモリー運用モードに戻ります。





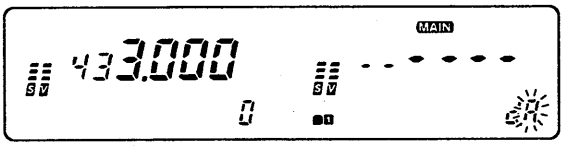
※DTMFメモリー表示の点滅時は、メインダイヤルでDTMFメモリーチャンネルの設定ができます。
※DTMFコード表示の点滅時は、メインダイヤルでDTMFコードの設定ができます。
※DTMFコード設定時、SETスイッチを押すごとに下位桁に進み、SPCHスイッチを押すごとに、逆に進みます。
なお、コードが設定されていない状態（“ー”表示）では、SETスイッチを押しても下位の設定に進むことはできません。

2.ワイヤレスマイクによるダイレクト入力

ワイヤレスマイクからDTMFコードをダイレクトに入力することができます。

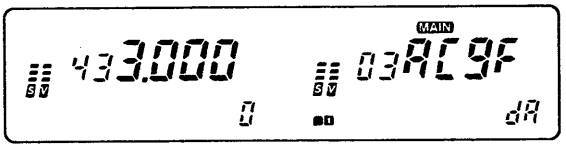
①前記［DTMFメモリーの呼び出しかた］にしたがって、DTMFメモリーチャンネルを呼び出します。

※DTMFメモリー“dA”を呼び出したときの表示例



②ワイヤレスマイクでDTMFコードを設定します。

※DTMFコード“0,3,A,C,9,F”を設定する場合



●ワイヤレスマイクによるダイレクト入力
［0］［3］［A］［C］［9］［#］と押す
同様の方法で24桁まで入力できます。

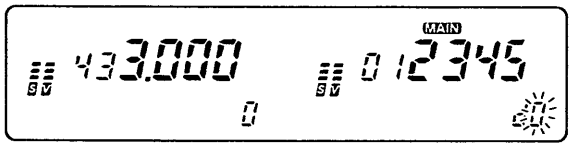
※DTMFコードは、［1］から［0］の数字キー以外に［A］から［D］、［＊］［#］も入力できます。
なお、［＊］は“E”、［#］は“F”として表示されます。

C DTMFコードの送出操作

①メインダイヤルまたはワイヤレスマイクで送信周波数を設定します。

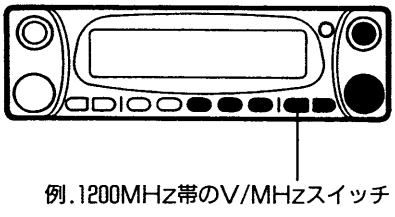
②前項［DTMFメモリーの呼び出しかた］にしたがって、DTMFコードを書き込んだメモリーチャンネルを設定します。

※DTMFメモリー“d0”を呼び出したときの表示例



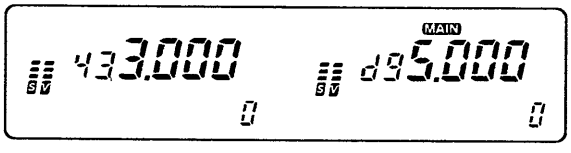
DTMFメモリー表示が点滅し、コードが表示されます。

③SETまたはSPCH以外のスイッチを押します。



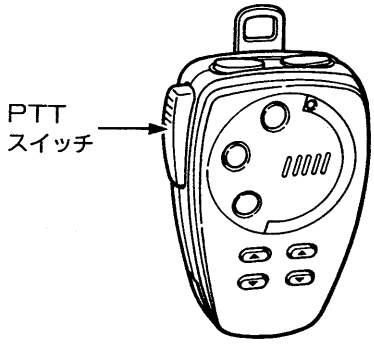
例.1200MHz帯のV/MHzスイッチ

DTMFメモリー書き込み状態を解除し、DTMFメモリー運用モードに戻ります。

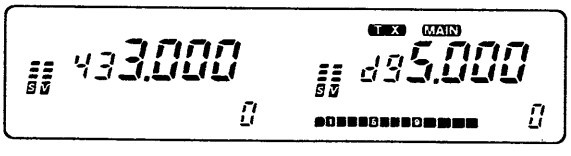


100MHz桁に“d”が点灯します。

④ワイヤレスマイクのPTTスイッチを押します。



PTTスイッチを押すと、送信状態となり“ピポパ”音とともに、設定コードが送出されます。



※DTMFコードの送出スピードをSETモード（☞P59）で選択することができます。
送出スピードは、約100msec/約200msec/約300msec/約500msecの中から選択します。

D ワイヤレスマイクによるDTMFコードの送出操作

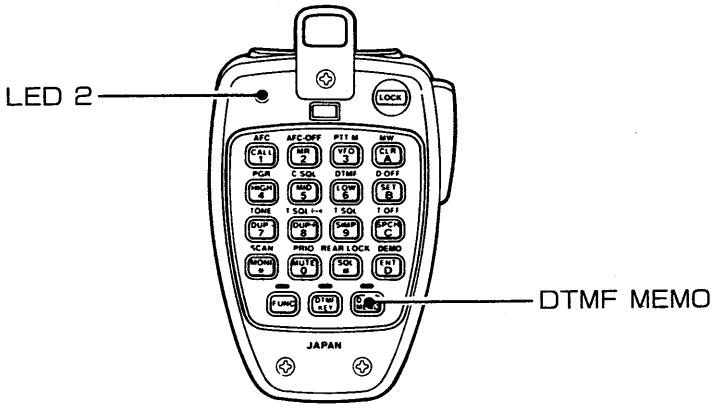
ワイヤレスマイクからのDTMFコードの送出は、DTMFメモリー運用モードに関係なく、送出することができます。

■DTMFコードのオート送出について

①ワイヤレスマイクのDTMF MEMOキーを押します。
（LED 2がオレンジ色に点灯し、オート送出状態になります。）

②次に該当するDTMFメモリーチャンネルのキー（0〜9,A〜D）を押すと、本機を送信状態にし、メモリーチャンネルに書き込まれているコードを送出します。

※送出後、受信状態に戻りオート送出状態を解除します。



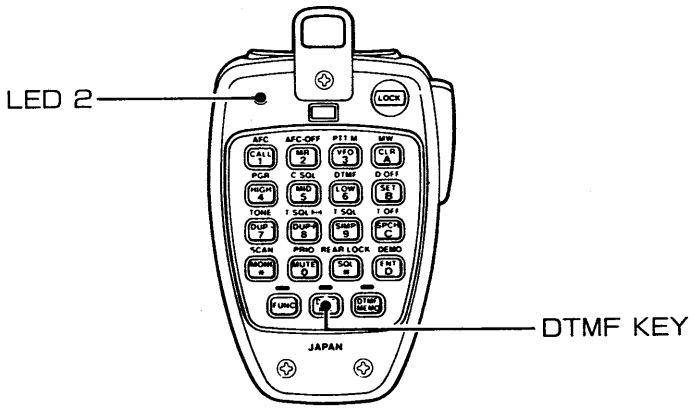
■DTMFコードのマニュアル送出について

①ワイヤレスマイクのDTMF KEYを押します。
（LED 2が緑色に点灯し、マニュアル送出状態になります。）

②次に該当するキー（0〜9,A〜D,＊,#）を押すと、送信状態となり、キーを押している間、そのキーのコードを送出します。

※キー操作を約1秒間あけると受信状態に戻ります。

③DTMF KEYを押してください。
（LED 2が消灯し、マニュアル送出状態を解除します。）



11−6 ページャー/コードスケルチ機能について

A ページャー機能

特定局との待ち受け、呼び出しを行う場合に大変便利な機能です。
あらかじめ、交信相手局と個別コードやグループコードを決めておくことにより、特定の相手局の呼び出し/待ち受け、グループ一斉呼び出し/待ち受けなどができます。
呼び出しを受けたとき、ビープ音（“ピロピロピロ”の連続音）で知らせるとともに、呼び出した局のコードも表示されますので、確実な待ち受けをすることができます。

B コードスケルチ機能

特定局との交信を行う場合に、大変便利な機能です。
自局で設定したコードと同じコードを受信したときのみ、スケルチが開き通話内容が聞こえますので、特定局との交信ができ、従来のトーンスケルチ機能と同様の運用ができます。
また、トーンスケルチ機能との併用もできます。

C コードメモリーについて

あらかじめ決めておいた個別コードやグループコードを、書き込んでおくチャンネルをコードメモリーといいます。

メモリー番号	用途	待ち受け動作	コードの書き換え
C0	自局の個別コード	常時可能	可能
C1〜C5	相手局の個別コード または グループコード	待ち受け応答と 待ち受け拒否が 選択できる（☞P88）	
CP	受信した相手局の個別コード	動作しない	不可

■コードメモリーの補足説明

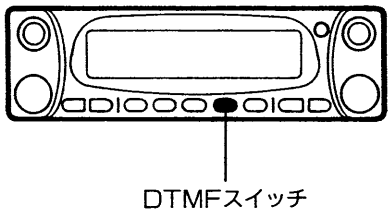
①メモリー番号（C0）
自局の個別コードを書き込むメモリーです。
このコードは、ページャーおよびコードスケルチ機能のどちらにも使用され、ページャー送信時は相手局の個別コードまたはグループコードの次に送出されます。

②メモリー番号（C1〜C5）
相手局の個別コードまたはグループコードを書き込むメモリーです。
このコードは、ページャーおよびコードスケルチ機能のどちらにも使用され、待ち受け動作を応答または拒否に設定できます。（☞P88）
拒否しているときに、書き込まれたコードと同じコードを受信しても、応答しません。

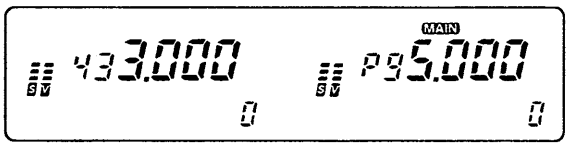
③メモリー番号（CP）
ページャー機能で呼び出しを受けたとき、相手局の個別コードが自動的に書き込まれるメモリーです。

1.コードの書き込みかた（1200MHz帯に設定する場合）

①DTMFスイッチを押します。

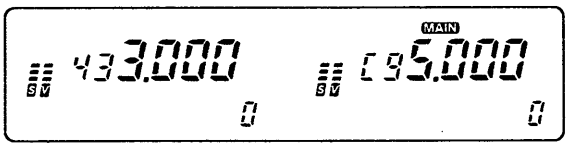


100MHz桁に“P”表示を点灯させます。
※ページャー機能運用モードになります。



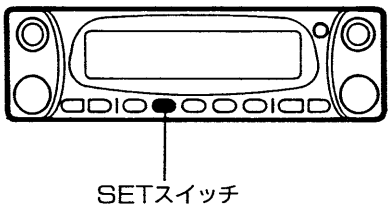
●ワイヤレスマイクでページャー機能を設定する場合は、FUNCキーを押し、次にHIGHキーを押してください。

または、100MHz桁に“C”表示を点灯させます。
※コードスケルチ機能運用モードになります。

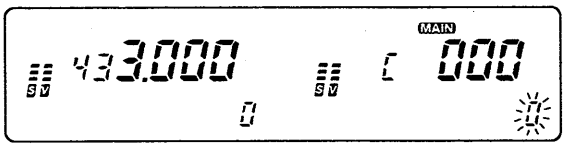


●ワイヤレスマイクでコードスケルチ機能を設定する場合は、FUNCキーを押し、次にMIDキーを押してください。

②SETスイッチを押します。

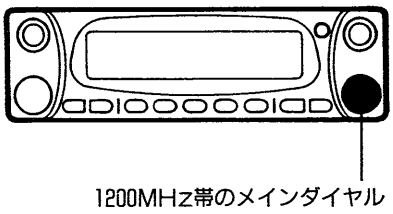


コードメモリー書き込み状態になります。

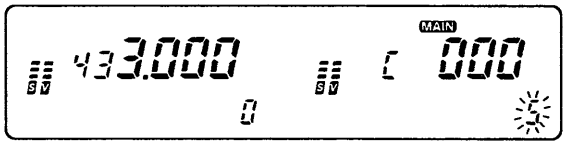


●ワイヤレスマイクでコードメモリー書き込み状態にする場合は、SETキーを押してください。

③1200MHz帯のメインダイヤルを回します。

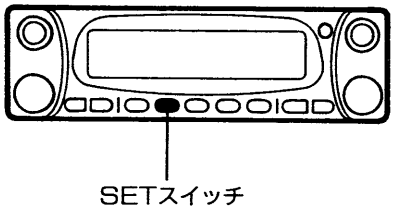


コードメモリーを選択します。
※メモリー番号（C0～C5）を選択します。

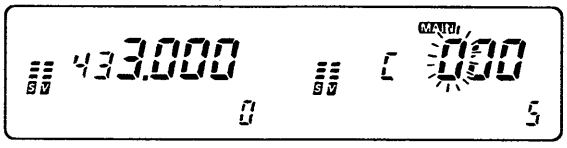


●ワイヤレスマイクでメモリー番号を選択する場合は、UP/DNスイッチを押してください。

④SETスイッチを押します。

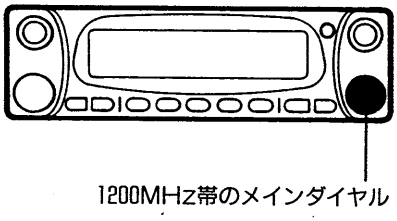


コード番号の1桁目が点滅します。

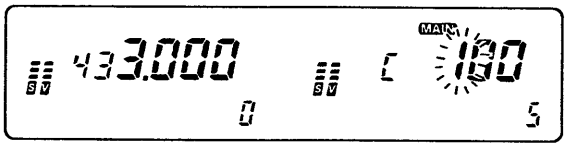


※SETスイッチを押すごとに、1桁目→2桁目→3桁目→コードメモリーと点滅する桁が切り換わります。
※SPCHスイッチを押すと、点滅桁は逆に進みます。

⑤1200MHz帯のメインダイヤルを回します。



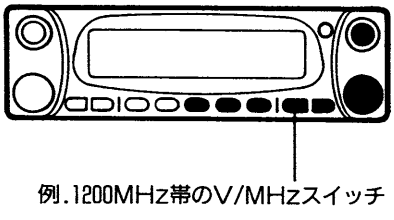
コード番号（0〜9）を設定します 。



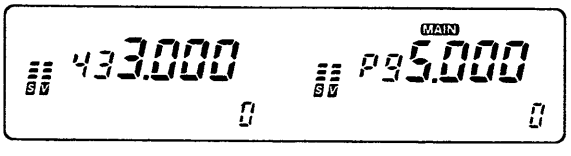
●ワイヤレスマイクでコード番号を設定する場合は、3桁のコード番号（0〜9）をダイレクトに設定できます。

⑥上記『④〜⑤』を繰り返して、他の2桁のコード番号を設定して下さい。
また、続けて他のコードメモリーを書き込みたいときは、上記『④〜⑤』を繰り返してください。

⑦SETまたはSPCH以外のスイッチを押します。



コードメモリー書き込み状態を解除し、ページャー機能またはコードスケルチ機能運用モードになります。

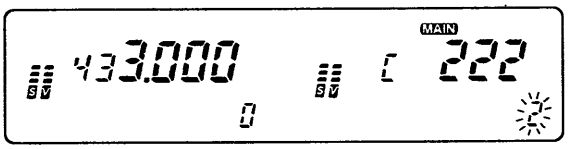


●ワイヤレスマイクでコードメモリー書き込み状態を解除する場合は、CLRキーを押してください。

2.待ち受け動作の選択

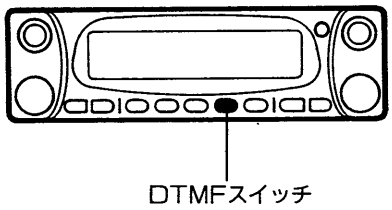
コードメモリー"C1～C5"に書き込んだ相手局の個別コード、またはグループコードと同じコードを受信しても、待ち受け動作を"拒否"または"応答"の選択ができます。

①コードの書き込みかた『②～③』にしたがって、待ち受けするコードメモリー(C1～C5)を呼び出します。



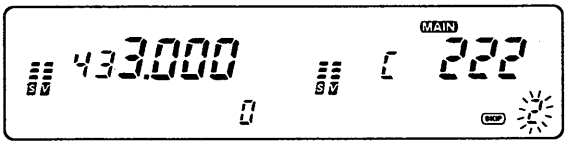
メモリー番号表示が点滅します。

②DTMFスイッチを押します。

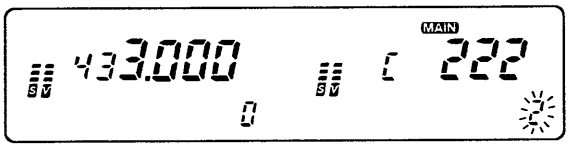


(SKIP)表示を点灯させると"待ち受け拒否"、消灯させると"待ち受け応答"になります。

・待ち受け拒否を設定した場合の表示

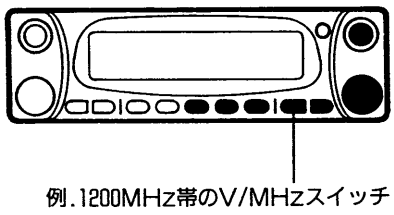


・待ち受け応答を設定した場合の表示

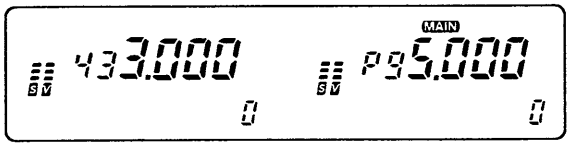


●ワイヤレスマイクで(SKIP)を設定する場合は、SETキーを押してください。

③SETまたはSPCH以外のスイッチを押します。



コードメモリー書き込み状態を解除し、ページャー機能運用モードに戻します。

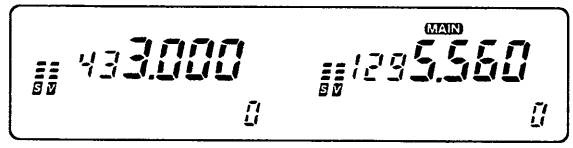


●ワイヤレスマイクでコードメモリー書き込み状態を解除する場合は、CLRキーを押してください。

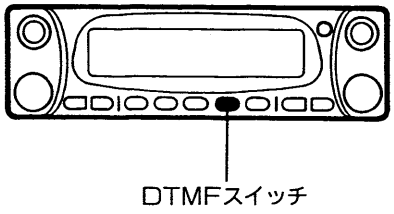
3.ページャー機能の使いかた

■自局から呼び出す場合

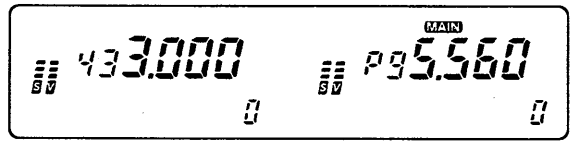
①あらかじめ交信相手と運用周波数を決め、その周波数にセットしておきます。



②DTMFスイッチを押します。

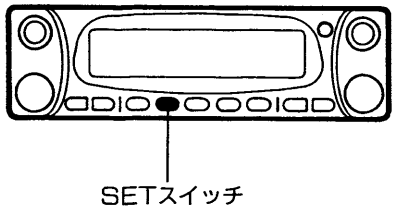


100MHz桁に“P”表示を点灯させます。
※ページャー機能運用モードになります。

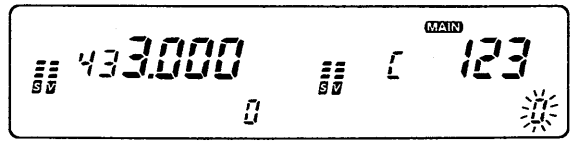


●ワイヤレスマイクでページャー機能を設定する場合は、FUNCキーを押し、次にHIGHキーを押してください。

③SETスイッチを押します。

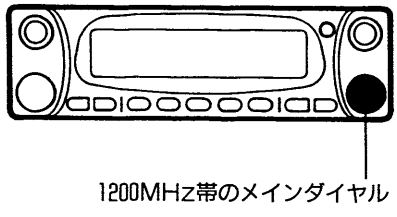


コードメモリー書き込み状態になります。

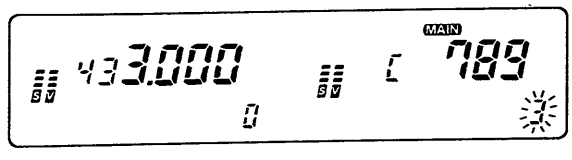


●ワイヤレスマイクでコードメモリー書き込み状態にする場合は、SETキーを押してください。

④1200MHz帯のメインダイヤルを回します。

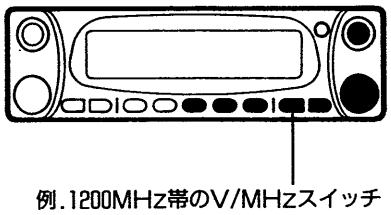


相手局の個別コードまたはグループコードを書き込んでいる、メモリー番号（C1～C5）を選択します。

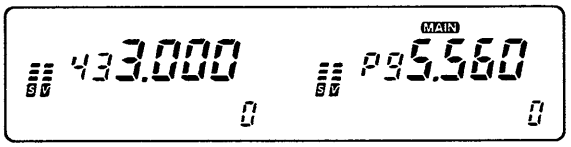


●ワイヤレスマイクでメモリー番号を選択する場合は、UP/DNスイッチを押してください。

⑤SETまたはSPCH以外のスイッチを押します。

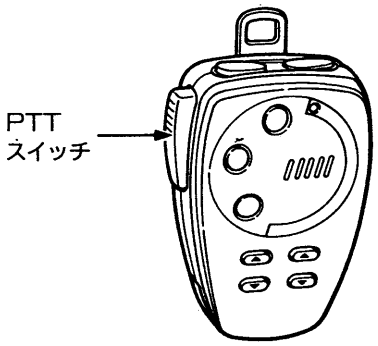


コードメモリー書き込み状態を解除し、ページャー機能運用モードに戻します。

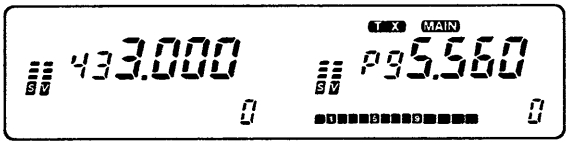


●ワイヤレスマイクでコードメモリー書き込み状態を解除する場合は、CLRキーを押してください。

⑥ワイヤレスマイクのPTTスイッチを押します。



送信状態となり、相手局と自局コードを表わすDTMF信号が自動的に送出されます。



■DTMF信号の構成

7 8 9 * 1 2 3

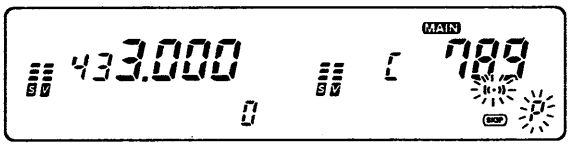
自局の個別コード（メモリー番号　C0）

相手局の個別コードまたはグループコード
（メモリー番号　C1～C5）

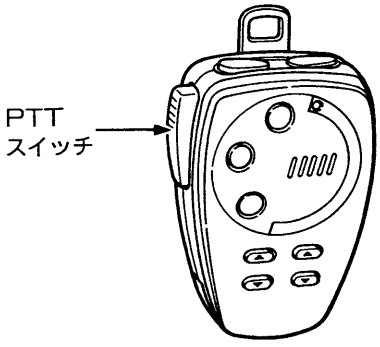
※コードスケルチ機能運用時は、相手局コードだけが送出されます。

⑦相手局とつながると応答があります。

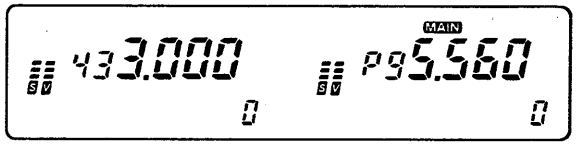
相手局のコードを表示します。



⑧ワイヤレスマイクのPTTスイッチを押します。

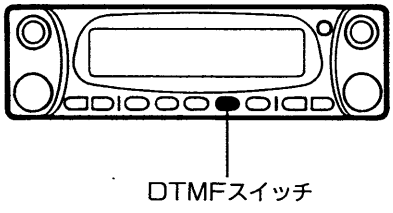


ページャー機能運用モードに戻り、周波数が表示されます。

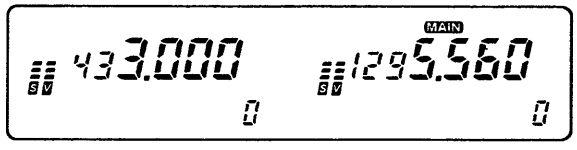


●ワイヤレスマイクで相手局のコード表示を解除する場合は、CLRキーを押してください。

⑨DTMFスイッチを数回押します。



通常の運用に戻します。



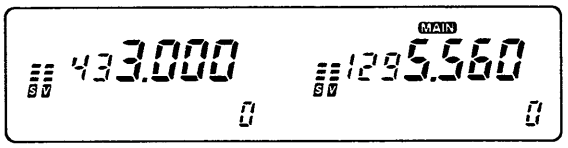
●ワイヤレスマイクで通常の運用モードに戻す場合は、CLRキーを押してください。

※ページャー機能運用状態のまま交信をすると、ワイヤレスマイクのPTTスイッチを押すごとに、DTMFコードを送出しますので、通常の運用モードにします。
このとき、相手局も同様に通常モードにするように決めておきます。

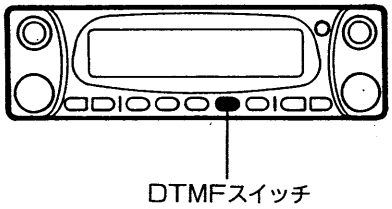
⑩通常の運用モードと同様に交信を行います。

■待ち受け受信をする場合

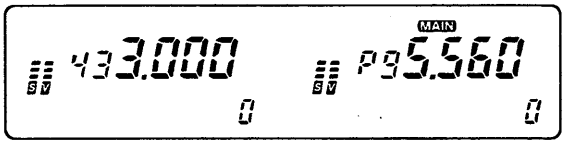
①あらかじめ交信相手局と運用周波数を決め、その周波数にセットしておきます。



②DTMFスイッチを押します。



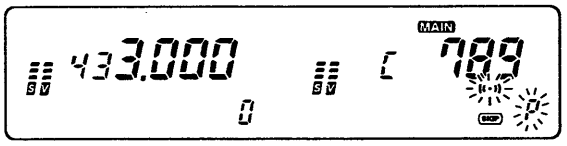
100MHz桁に“P”表示を点灯させます。
※ページャー機能運用モードになります。



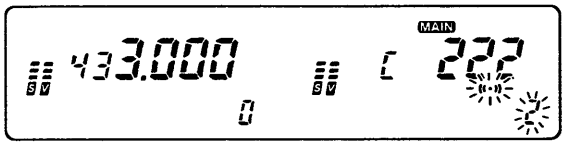
●ワイヤレスマイクでページャー機能を設定する場合は、FUNCキーを押し、次にHIGHキーを押してください。

③相手局から呼び出しを受けると、呼び出し音“ピロピロピロ”が3回鳴り、ディスプレイの表示が変化します。

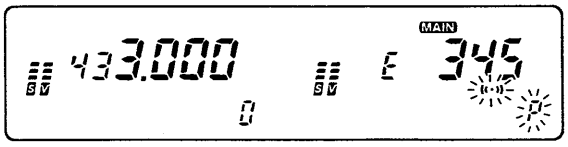
❶自局の個別コード“C0”で呼び出されたときは、受信した相手局の個別コードとメモリー番号“CP”を表示します。



❷グループコード“C1～C5”で呼び出されたときは、呼び出されたグループコードと、そのコードを書き込んでいるメモリー番号を表示します。

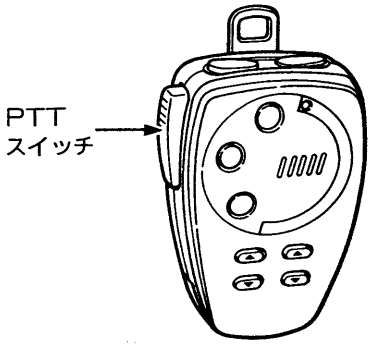


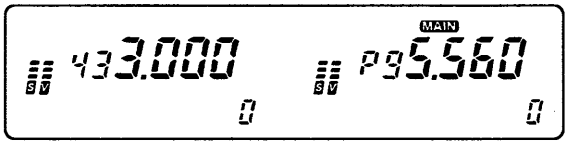
❸相手局の個別コードが混信などにより、完全な状態で受信できなかったときは、“E”(エラー表示)が表示されます。このため、相手局の個別コードは確認できません。
(コードは前回のコードを表示します。)



④ワイヤレスマイクのPTTスイッチを押して、応答します。

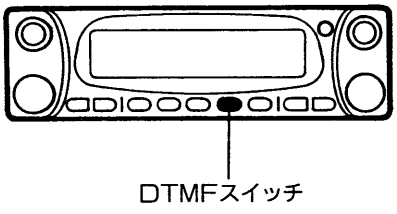
自局の個別コードを送出し、ページャー機能運用モードに戻り、周波数が表示されます。

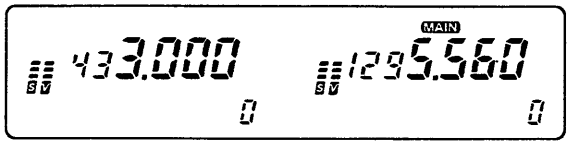




⑤DTMFスイッチを数回押します。

通常の運用モードに戻します。





●ワイヤレスマイクで通常の運用モードに戻す場合は、CLRキーを押してください。

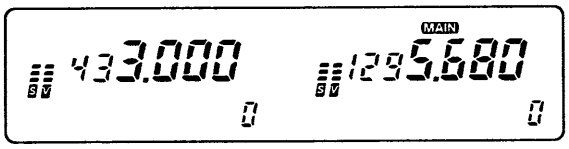
※ページャー機能運用状態のまま交信をすると、ワイヤレスマイクのPTTスイッチを押すごとにDTMF信号を送出しますので、通常の運用モードにします。
このとき、相手局も同様に通常モードにするように決めておきます。

⑥通常の運用モードと同様に交信を行います。

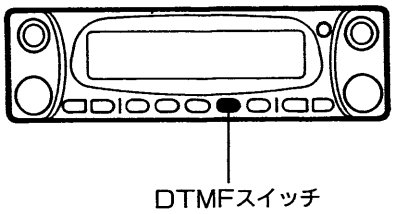
4.コードスケルチ機能の使いかた

コードスケルチ機能コードは、“C0～C5”のコードメモリー（ページャー機能と共用）を使用します。
コードスケルチ運用時は、3 桁のコードが送出され、トーンスケルチと同様の運用ができます。

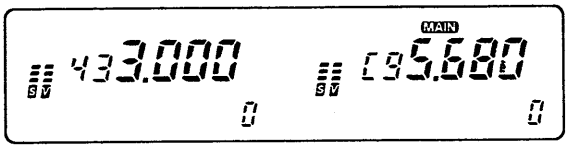
①あらかじめ交信相手局と運用周波数を決め、その周波数にセットしておきます。



②DTMFスイッチを押します。

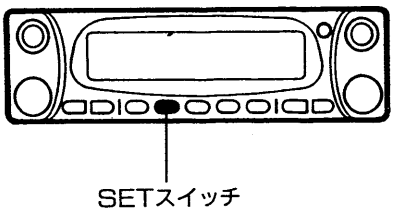


100MHz桁に“C”表示を点灯させます。
※コードスケルチ機能運用モードになります。

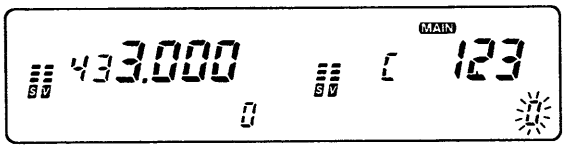


●ワイヤレスマイクでコードスケルチ機能を設定する場合は、FUNCキーを押し、次にMIDキーを押してください。

③SETスイッチを押します。

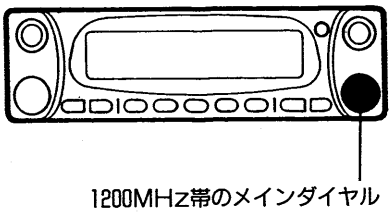


コードメモリー書き込み状態になります。

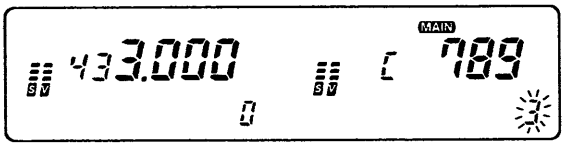


●ワイヤレスマイクでコードメモリー書き込み状態にする場合は、SETキーを押してください。

④1200MHz帯のメインダイヤルを回します。

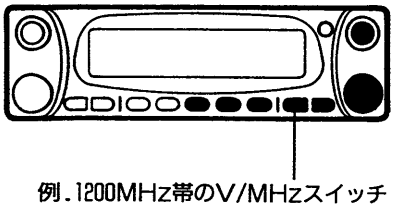


相手局の個別コードまたはグループコードを書き込んでいる、メモリー番号“C0～C5”を選択します。

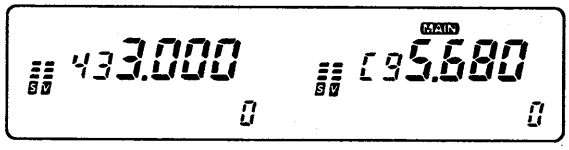


●ワイヤレスマイクでメモリー番号を選択する場合は、UP/DNスイッチを押してください。

⑤SETまたはSPCH以外のスイッチを押します。

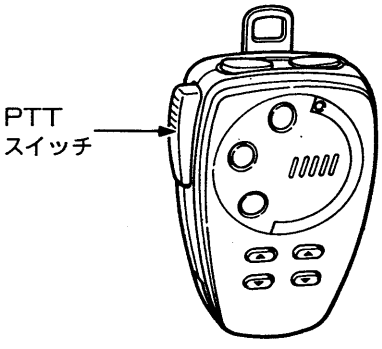


コードメモリー書き込み状態を解除し、コードスケルチ機能運用モードに戻します。

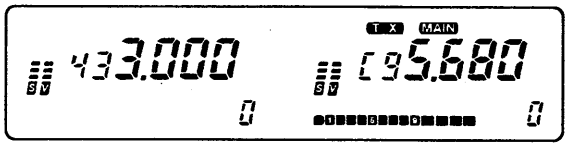


●ワイヤレスマイクでコードメモリー書き込み状態を解除する場合は、CLRキーを押してください。

⑥ワイヤレスマイクのPTTスイッチを押します。



送信状態となり、相手局またはグループのコードを表すDTMFコードが自動的に送出されます。



●ワイヤレスマイクで通常の運用モードに戻す場合は、CLRキーを押してください。

⑦相手局とコードが一致すれば、コードスケルチが開き、コードスケルチ機能による交信が可能になります。

■待ち受け受信するときは

個別コードまたはグループコード（C0～C5）のいずれかで呼び出しを受けると、コードスケルチが開き、コードスケルチ機能による交信が可能になります。

11−7 オートパワーオフ機能について

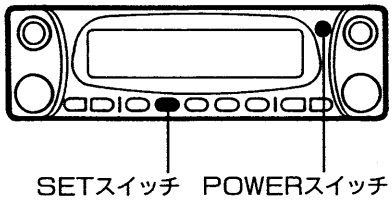
電源の切りわすれを防止する機能です。
運用が完了し、何も操作しない状態が、イニシャルセットモード（☞P67）で設定した時間になると、ビープ音が5回鳴り、本機の電源を切ります。

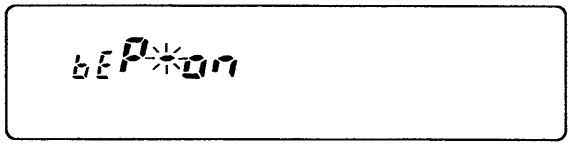
1.オートパワーオフ機能の設定

①POWERスイッチで電源を切ってください。

②SETスイッチを押しながら、POWERスイッチで電源を入れます。

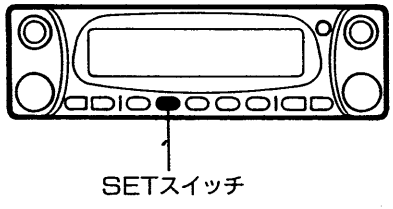
430MHz帯表示部がイニシャルセットモードの表示になります。

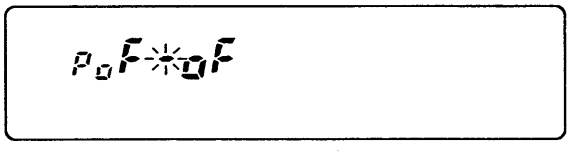




③SETスイッチを数回押します。

オートパワーオフの項目を選びます。

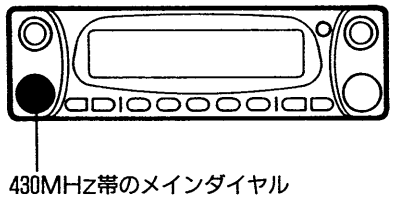


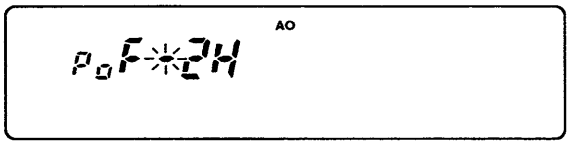


初期設定の"OFF"が表示されます。

④430MHz帯のメインダイヤルを回します。

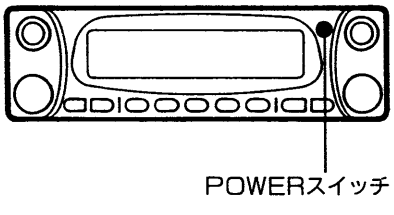
オートパワーオフの設定時間を選びます。
※30分/1時間/2時間の中から選びます。

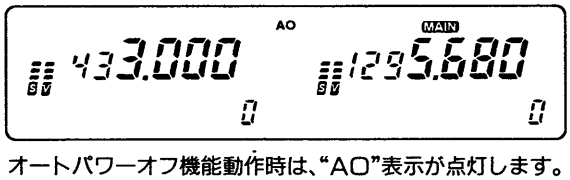




⑤POWERスイッチで電源を切り、再度電源を入れます。

イニシャルセットモードに入る前の表示に戻り、オートパワーオフ機能が動作します。





オートパワーオフ機能動作時は、"AO"表示が点灯します。

11−8 ロック機能について

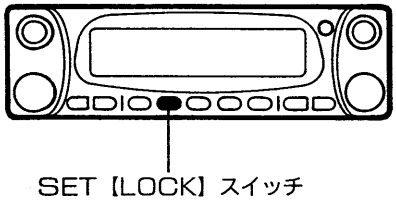
1.周波数ロック機能について

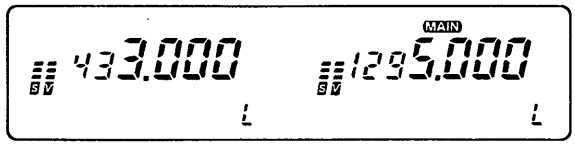
長時間同じ周波数で運用するときや、交信しているときに、まちがって周波数や機能が変化しないようにする機能です。

①SET【LOCK】スイッチを約1秒押します。

メモリー表示部に“L”が点灯します。
この状態で周波数がロックされ、各バンド共通のSPCH【MW】スイッチ、各バンド単独のSQLスイッチおよびVOLツマミ以外は無効となります。

②周波数ロック機能を解除するときは、もう一度SET【LOCK】スイッチを約1秒以上押してください。





2.ワイヤレスマイクのロック機能について

ワイヤレスマイクのロック機能は、LOCK(オールロック)、REAR LOCK(リアーロック)があります。

■オールロック機能について
PTTスイッチ以外の操作を無効にします。
①LOCKキーを押します。
②オールロック機能を解除するときは、もう一度LOCKキーを押してください。

■リアーロック機能について
後面パネルのキー操作を無効にします。(FUNCキーは有効です。)
①FUNCキーを押し、次にSQLキーを押します。
②リアーロック機能を解除するときは、もう一度FUNCキーを押し、次にSQLキーを押してください。
リアーロック機能状態からLOCKキーを押すと、オールロック機能状態になります。
LOCKキーを押すと、両機能を同時に解除します。

11−9 30秒タイマー機能について

この機能は、下記のような操作をしたあとに、30秒間何も操作しなかったときは、30秒タイマーが動作して、自動的に以前の表示に戻ります。

①1MHzステップの可変操作のとき（☞P33）
②SETモードに入ったとき（☞P59）
③DTMFメモリー/ページャー/コードスケルチのコードメモリーを設定したとき（☞P79，85）

11−10 ビープ音（操作音）について

スイッチ操作をしたときに、ビープ音で下記のようなことを知らせます。
ビープ音は、各バンドごとに音質を変えています。

①ピッ……1push（短く1回押す）スイッチの操作が正しく行われたとき
②ピーッ……1sec（約1秒ほど押す）スイッチの操作が正しく行われたとき
③プッ……まちがったスイッチ操作をしたとき、または無効のとき
　　同一バンド同時受信機能を“OFF”にしたとき
④ピッピピ……メモリーへの書き込みを完了したとき、またはメモリーチャンネルやコールチャンネルの内容をVFOモードに移し終わったとき
　　同一バンド同時受信機能を“ON”にしたとき
※ビープ音の“ON/OFF”はイニシャルセットモード（☞P67）で選択することができます。
　ただし、各バンドのVOL（音量）ツマミで調整した受信音に比例します。

11−11 外部スピーカー出力について

外部スピーカージャックは、各バンドごとに設けられていますが、SETモード（☞P59）により、SP-1とSP-2の出力を下記のように切り換えることができます。

SETモードで選択	SP-1のみに接続した場合	SP-2のみに接続した場合	SP-1とSP-2の両方に接続した場合
AFo−0（初期設定）	SP-1に接続した外部スピーカーから430/1200MHz帯（両バンド）の音声が聞こえます。 ※このとき、内部スピーカーは、動作しません。	SP-2に接続した外部スピーカーから1200MHz帯の音声が聞こえます。 内部スピーカーから430MHz帯の音声が聞こえます。	SP-1に接続した外部スピーカーから430MHz帯の音声が聞こえます。 SP-2に接続した外部スピーカーから1200MHz帯の音声が聞こえます。 ※このとき、内部スピーカーは動作しません。
AFo−1	SP-1に接続した外部スピーカーから430/1200MHz帯（両バンド）の音声が聞こえます。 ※このとき、内部スピーカーは、動作しません。	SP-2に接続した外部スピーカーから430MHz帯の音声が聞こえます。 内部スピーカーから1200MHz帯の音声が聞こえます。	SP-1に接続した外部スピーカーから1200MHz帯の音声が聞こえます。 SP-2に接続した外部スピーカーから430MHz帯の音声が聞こえます。 ※このとき、内部スピーカーは動作しません。

11−12 AFC機能について

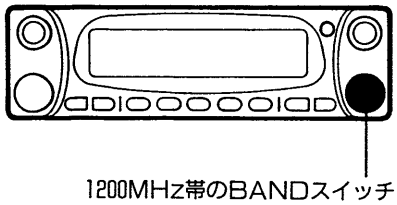
1200MHz帯では、交信中に周波数が徐々にズレることがあります。
このような場合にAFC機能を動作させると、相手局の送信周波数に自局の周波数を自動(オート)または手動(マニュアル)で同調させることができます。
AFC機能には下記のような機能があり、SETモード(☞P59)で選択しておきます。

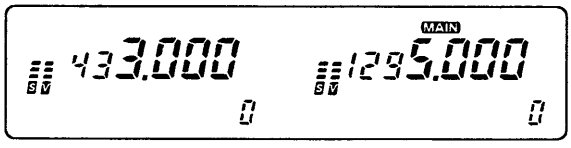
1.自動(オート)選択時の動作

■自動(オート)選択時の動作
- SETモードで"AFC- r"を選択した場合：相手局の送信周波数に自局の受信周波数のみを自動で同調させます。(RIT動作)
- SETモードで"AFC-tr"を選択した場合：相手局の送信周波数に自局の送受信周波数を自動で同調させます。(VXO動作)

①1200MHz帯のBANDスイッチを押します。

(MAIN)表示が点灯します。

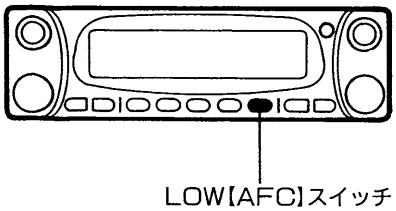


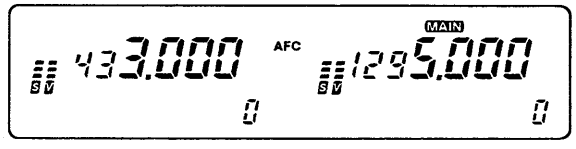


●ワイヤレスマイクで1200MHz帯を"MAIN"バンドにする場合は、BAND SELECTの(▲)スイッチを押してください。

②LOW【AFC】スイッチを約1秒以上押します。

"AFC"表示が点灯します。





●ワイヤレスマイクでAFC機能を設定する場合は、FUNCキーを押し、次にCALLキーを押してください。

■再度、同じ操作でAFC機能は"OFF"になります。

●ワイヤレスマイクでAFC機能を"OFF"にする場合はFUNCキーを押し、次にMRキーを押してください。

※AFC表示について
①相手局の送信周波数に対して、自局の受信周波数が高い場合は"◀"表示を点滅させ、自局の受信周波数が低い場合は"▶"の表示を点滅させています。
②同調がとれると、両方の矢印が消灯します。

受信周波数が高い場合に点灯 ── ◀ ▶ ── 受信周波数が低い場合に点灯

2.手動(マニュアル)選択時の動作

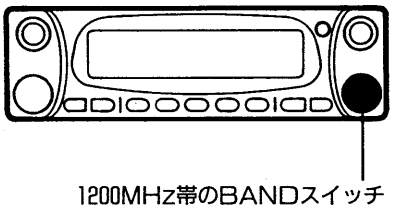
■手動(マニュアル)選択時の動作

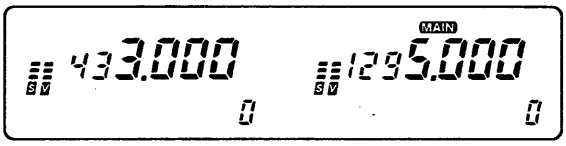
・SETモードで“___- r”を選択した場合：相手局の送信周波数に自局の受信周波数のみをメインダイヤルで同調させることができます。(RIT動作)

・SETモードで“___-tr”を選択した場合：相手局の送信周波数に自局の送受信周波数をメインダイヤルで同調させることができます。(VXO動作)

①1200MHz帯のBANDスイッチを押します。

(MAIN)表示が点灯します。

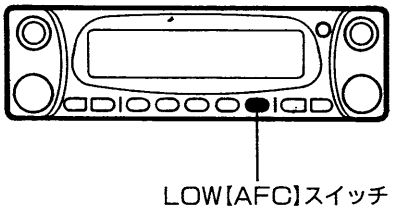


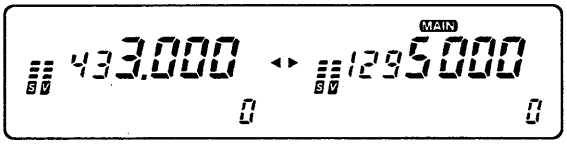


●ワイヤレスマイクで1200MHz帯を“MAIN”バンドにする場合は、BAND SELECTの(▲)スイッチを押してください。

②LOW【AFC】スイッチを約1秒以上押します。

“◀”または“▶”表示が点灯します。
※手動の場合は、“AFC”表示は点灯しません。
また、デシマルポイントも消灯します。





●ワイヤレスマイクでAFC機能を設定する場合は、FUNCキーを押し、次にCALLキーを押してください。

③メインダイヤルを回して、相手局の周波数に微調整します。

・メインダイヤルを時計方向に回すと“▶”表示が点灯し、逆に回すと“◀”表示が点灯します。
・AFC機能で周波数の可変できる幅は、約7.5kHzです。
・最大幅まで可変すると、ビープ音が鳴り“◀”または“▶”表示を点滅させて知らせます。

■AFC機能を“OFF”にするには
LOW【AFC】スイッチを約1秒以上押します。

●ワイヤレスマイクでAFC機能を“OFF”にする場合は、FUNCキーを押し、次にMRキーを押してください。

12−1 オプションユニットの取り付けかた

1.オプションユニットの種類

本機に組み込むオプションユニットは、次のものがあります。

ユニット	はたらき
UT-66 音声合成ユニット	表示周波数を音声（日本語または英語）で聞くことができます。 (☞P72)
UT-84 トーンスケルチユニット	39波のトーン周波数でトーンスケルチ機能、ポケットビープ機能の使用が可能になります。(☞P62)
EX-1513 赤外線ワイヤレス マイク受光ユニット	赤外線ワイヤレスマイクの受光ユニットです。 コントローラー部に内蔵されている赤外線ワイヤレス受光部で、うまく受光できない場合に使用します。

2.UT-66/UT-84の取り付けかた

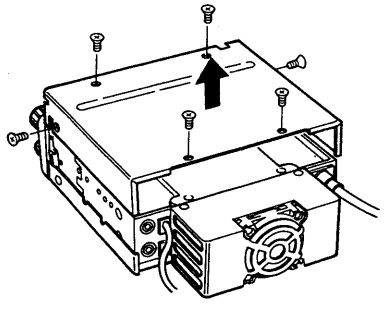
注.オプションユニットを取り付けるときは、必ず電源を切ってから行ってください。

■UT-66の取り付け

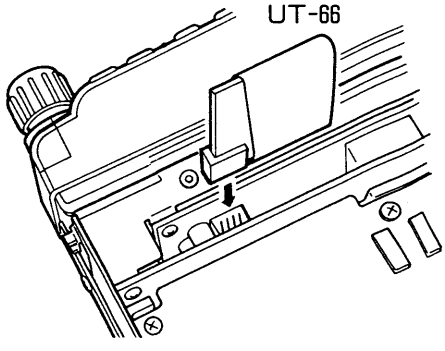
①6本のビスを外して、下カバーを開きます。

②取り付け図にしたがって、UT-66のオプションユニットを取り付けてください。

●下カバーの外しかた



●UT-66の取り付けかた

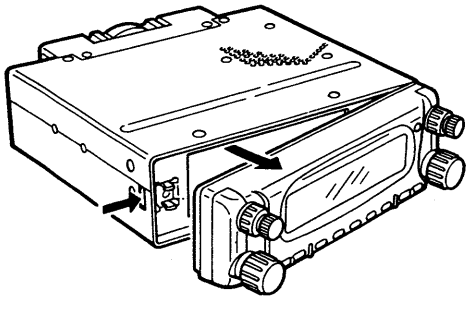


■UT-84の取り付け

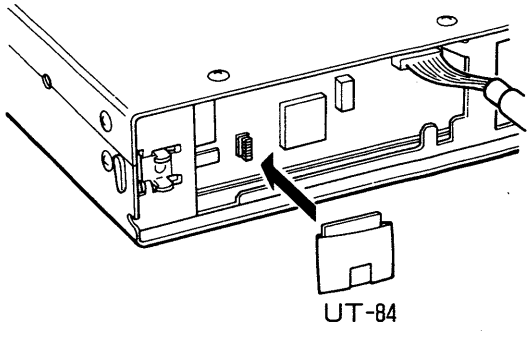
①本機左側のボタンを押し、コントローラー部を左側から手前に分離します。

②取り付け図にしたがって、UT-84のオプションユニットを取り付けてください。

●コントローラー部の外しかた



●UT-84の取り付けかた

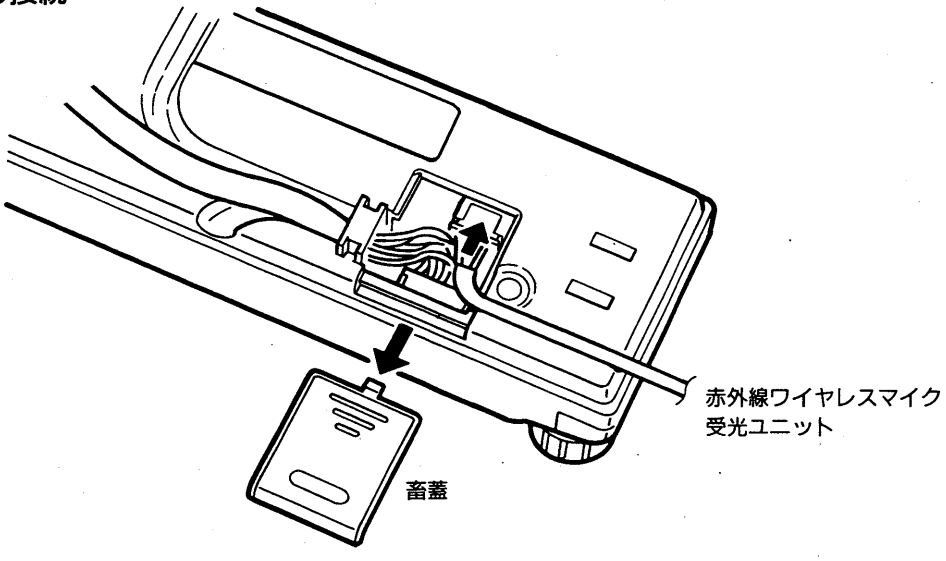


3.EX-1513の取り付けかた

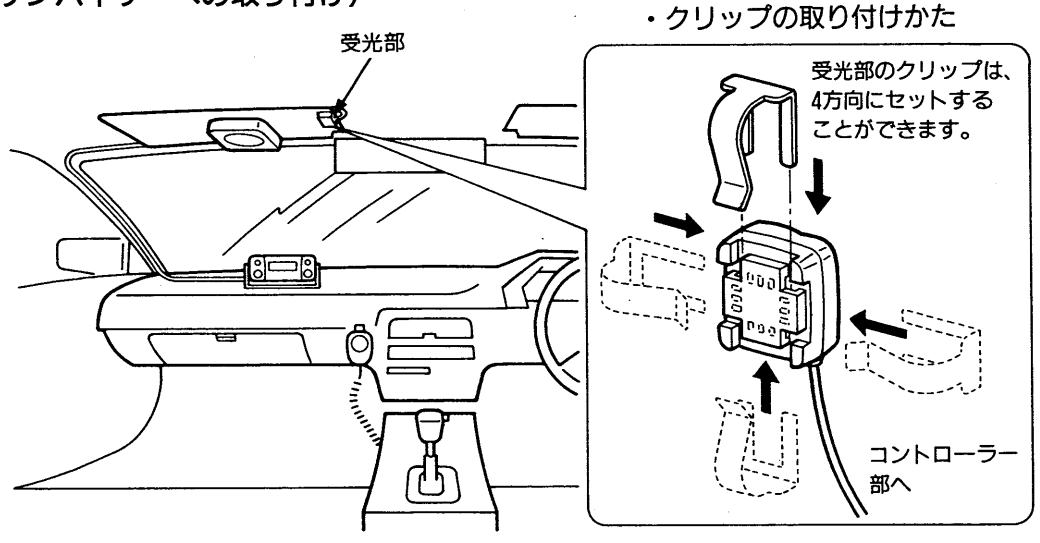
コントローラー部の取り付け位置によっては、ワイヤレスマイクからの赤外線をうまく受光できないことがあります。
このような場合に、オプションの赤外線ワイヤレスマイク受光ユニット（EX-1513）をコントロール部に接続することにより、受光範囲を広げることができます。

①『3-3　セパレートによる取り付けかた』(☞P16)にしたがって、コントローラー部を分離します。〔通常(一体型)で使用の場合〕
②コントローラー部の裏蓋を外し、赤外線ワイヤレスマイク受光ユニットのコネクターを接続します。
受光部はサンバイザーなどに、クリップで簡単に取り付けることができます。
③裏蓋を閉めて、コントローラー部を元どおり取り付けます。

●コントローラー部の接続



●受光部の取り付けかた
（例．サンバイザーへの取り付け）



12−2 トーンスケルチ/ポケットビープ機能について

A トーンスケルチ機能の動作

特定局（自局と同じトーン周波数を含んだ信号）の待ち受け受信中に呼び出しを受けると、スケルチが開いて通話内容が聞こえますので、快適な待ち受け受信ができます。

B ポケットビープ機能の動作

特定局（自局と同じトーン周波数を含んだ信号）の待ち受け受信中に呼び出しを受けると、30秒間ビープ音（“ピロピロピロ”の連続音）が鳴り続け、同時に“ ((•)) ”を点滅させて知らせますので、聞き逃すことがありません。
呼び出しを受けたら、30秒以内にワイヤレスマイクのPTTスイッチを押して通話するか、ワイヤレスマイクのCLRキーを押すと、ポケットビープ機能は解除され、トーンスケルチ機能になります。
また、30秒以内に何も操作しなかったときは、ビープ音は自動停止しますが、ディスプレイの“ ((•)) ”は点滅を続け、呼び出しを受けたことを知らせます。

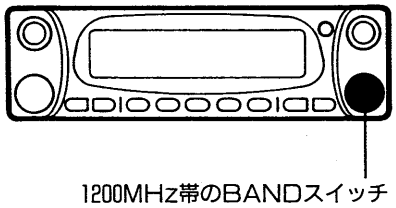
C トーンスケルチ/ポケットビープ機能の使いかた

1.SETモードでトーン周波数を設定する

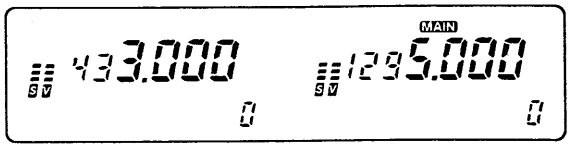
あらかじめ交信相手局とトーン周波数をきめて、『9. SETモードについて』（☞P59）にしたがって、トーン周波数を設定します。

2.トーンスケルチまたはポケットビープ機能を“ON”にする
（1200MHz帯に設定する場合）

①1200MHz帯のBANDスイッチを押します。

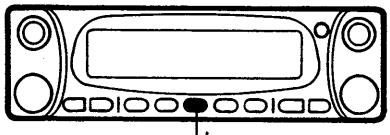


(MAIN)表示が点灯します。



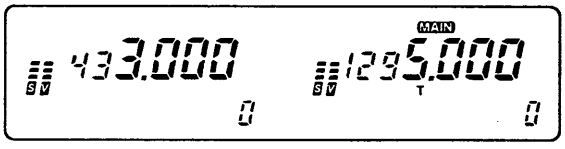
●ワイヤレスマイクで1200MHz帯を“MAIN”バンドにする場合は、BAND SELECTの（▲）スイッチを押してください。

②DUP【TONE】スイッチを約1秒以上押します。



DUP【TONE】スイッチ

"T" 表示が点灯し、トーンエンコーダーを運用できます。

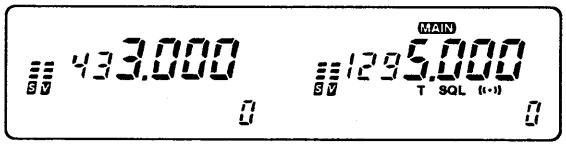


●ワイヤレスマイクでトーンエンコーダーを運用する場合は、FUNCキーを押し、次にDUP−キーを押してください。

③以下、DUP【TONE】スイッチを約1秒以上押すごとに、切り換わります。

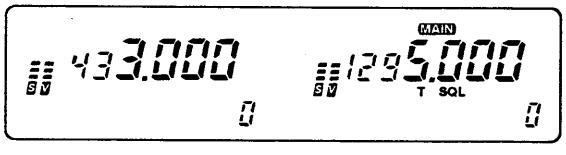
④交信するときは、ワイヤレスマイクのPTTスイッチを押し、相手局を呼び出します。
以後、通常の交信と同様に行います。

"T SQL (•)" 表示が点灯し、ポケットビープ機能を運用できます。



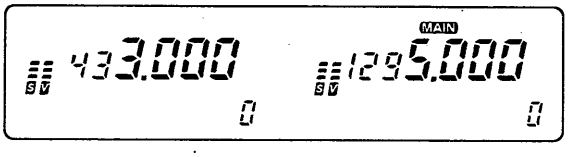
●ワイヤレスマイクでポケットビープ機能を運用する場合は、FUNCキーを押し、次にDUP+キーを押してください。

"T SQL" 表示が点灯し、トーンスケルチ機能を運用できます。



●ワイヤレスマイクでトーンスケルチ機能を運用する場合は、FUNCキーを押し、次にSIMPキーを押してください。

機能表示が消灯し、通常運用状態になります。



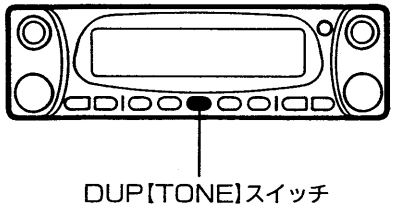
●ワイヤレスマイクで通常運用状態に戻す場合は、FUNCキーを押し、次にSPCHキーを押してください。

D トーンスキャンについて

トーンスキャンは、特定周波数で使われているトーン周波数を探すことができるスキャンです。このスキャンは、オプションのUT-84が必要です。

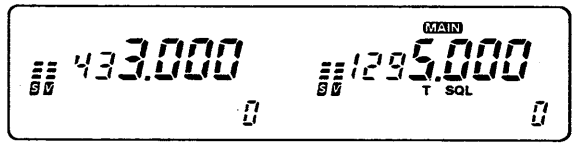
■トーンスキャンの操作（1200MHz帯の場合）

①DUP【TONE】スイッチを約1秒以上数回押します。



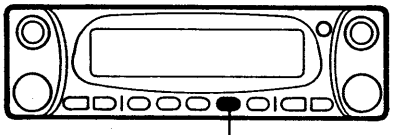
DUP【TONE】スイッチ

"T SQL"表示を点灯させ、トーンスケルチ運用モードにします。



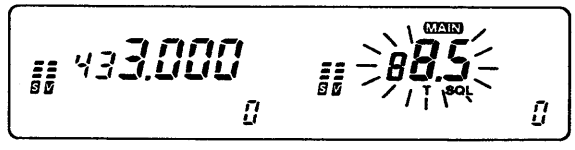
●ワイヤレスマイクでトーンスケルチ機能を運用する場合は、FUNCキーを押し、次にSIMPキーを押してください。

②DTMF【SCAN】スイッチを約1秒以上押します。



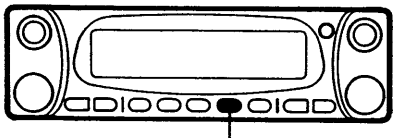
DTMF【SCAN】スイッチ

周波数表示部がトーン周波数表示に切り換わり、トーンスキャンがスタートします。



●ワイヤレスマイクからトーンスキャンのスタート操作はできません。

③DTMF【SCAN】スイッチを押すと、トーンスキャンは解除されます。



DTMF【SCAN】スイッチ

●ワイヤレスマイクでトーンスキャンを解除する場合は、CLRキーを押してください。

■トーンスキャンの動作

- トーン周波数が一致すると、スキャンが一時停止し、トーン周波数を表示します。
  なお、再スタートは信号を受信しなくなってから約2秒後にスタートします。
- 信号を受信していないときは、約15mSの高速でスキャンします。
- 信号を受信しているときは、400mSの低速になり、トーン周波数の検出を行います。

ご注意

※トーン周波数が一致しスキャンがストップすると、そのトーン周波数でSETモードのトーン周波数も同時に書き換えますのでご注意ください。（オートレピータ運用時など）

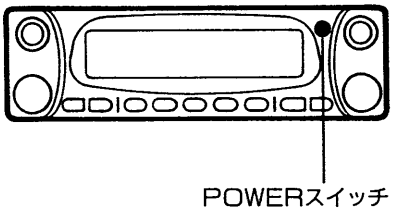
12−3 ユーザーファンクション機能について

オプションのマイク（HM-77/HM-78）を使用して、前面パネルのスイッチ機能を、マイクのUPスイッチで操作することができる特殊機能です。
POWERスイッチ、メインダイヤル、VOL（音量）ツマミ、SQL（スケルチ）ツマミを除くすべてに有効ですが、1機能だけしか選択することはできません。

この機能を運用中、マイクのDNスイッチは、スキャン動作を行うスイッチになります。スキャンはアップ方向で行いますから、ダウン方向にしたい場合は、メインダイヤルを反時計方向に回してください。

1.ユーザーファンクション機能の設定

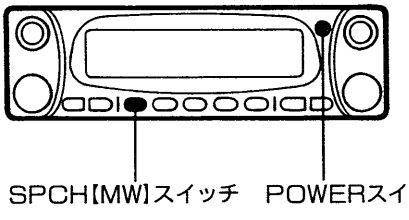
①POWERスイッチで電源を切ってください。



②マイクのUPスイッチと前面パネルの希望するスイッチを押しながら、POWERスイッチで電源を入れます。

例.SPCH【MW】スイッチ機能をマイクのUPスイッチに設定する場合

SPCH【MW】スイッチ と マイクのUPスイッチ 押しながら POWERスイッチ で電源を入れる



③以後、マイクのUPスイッチを押すと、SPCH【MW】キーと同じ動作を行います。
・SPCH【MW】キーの動作は（☞P5）をご覧ください。

2.ユーザーファンクション機能の解除

①POWERスイッチで電源を切ってください。
②オプションマイクのUPスイッチを押しながら、POWERスイッチで電源を入れます。

POWERスイッチ で電源を切る マイクのUPスイッチ 押しながら POWERスイッチ で電源を入れる

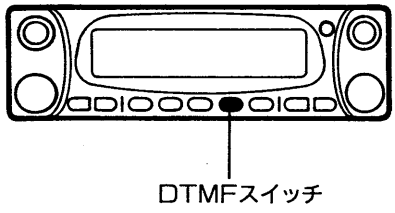
12−4 マイクリモート機能について

オプションのDTMFメモリー付きマイクロホン（HM-77）を接続することにより、マイクから本機をコントロールするマイクリモートができます。

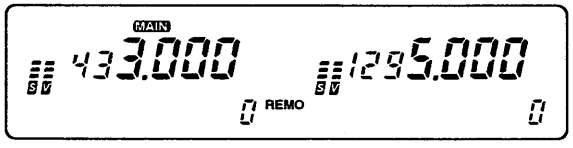
A マイクリモートの使い方

1.リモートモードにする

DTMFスイッチを数回押します。



"REMO" 表示を点灯させます。



■マイクリモートにしたときのスイッチ動作

①マイクのUPスイッチ：マイクリモートモードとリモートモードを切り換えます。

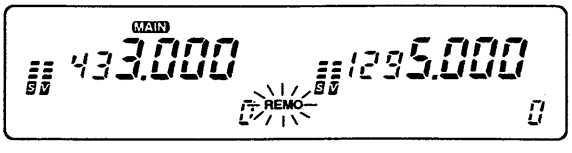
②マイクのDNスイッチ：アップスキャン動作を行うスイッチになります。
スキャン中にメインダイヤルを回すとスキャン方向を切り換えることができます。

※なお、上記以外のスイッチは、通常の状態と同じ動作になります。

2.マイクリモートモードにする

マイクのUPスイッチを押します。

"REMO"表示が点滅し、マイクリモートモードになります。



●マイクのUPスイッチ押すごとに、マイクリモートモードが "ON/OFF" します。

・"REMO"表示点灯：リモートモード状態

・"REMO"表示点滅：マイクリモートモード状態

■マイクリモートモードにしたときのスイッチ動作

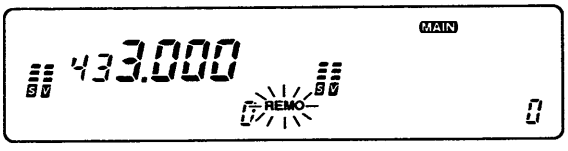
①マイクのDNスイッチとPTTスイッチの操作は無効となります。
他の操作スイッチは、動作します。

②本機前面パネルのDTMFスイッチ以外のスイッチ操作は無効となります。

3.リモートする（1200MHz帯に1295.120MHzを設定する場合）

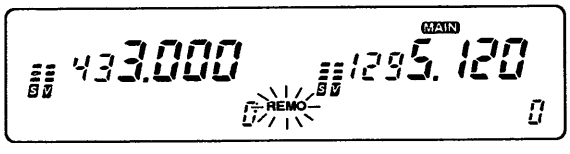
①マイクの(5)キーを押して、1200MHz帯を(MAIN)バンドにしたあと、(3)キーを押すと、VFOモードが設定されます。
次に(D)キーを押して、1200MHz帯を置数受け付け状態にします。

①1200MHz帯が(MAIN)バンドとなり、VFOモードを設定し、周波数表示部が消灯します。



②(1)(2)(9)(5)(1)(2)キーを押して、周波数を入力します。

②置数が表示され、周波数が設定されます。

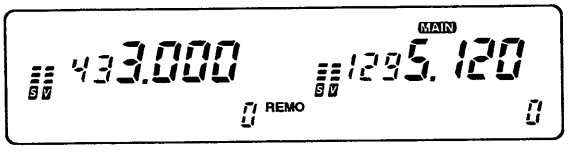


※DTMFコードのメモリーまたはコードの送出操作は、オプションマイクの取扱説明書をご覧ください。
※マイク後面パネルの各キーについては（☞P109）を参照してください。

4.マイクリモートを解除する

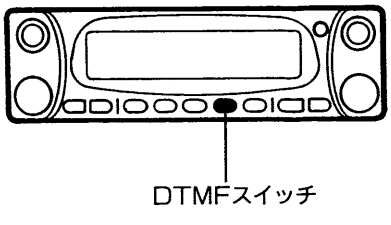
マイクのUPスイッチを押します。

“REMO”表示が点滅から点灯に切り換わり、リモートモードに戻ります。

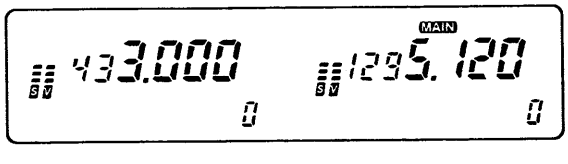


5.リモートモードを解除する

DTMFスイッチを押します。



“REMO”表示が消灯し、リモートモードを解除します。



B DTMFキーについて

DTMFキー	は　た　ら　き
(1) CALL	CALL-CH（コールチャンネル）を呼び出す。
(2) MR	MEMO（メモリー）モードにする。
(3) VFO	VFOモードにする。
(4) VHF	430MHz帯を“MAIN”バンドにする。
(5) UHF	1200MHz帯を“MAIN”バンドにする。
(6) HIGH	送信出力をHIGHパワーにする。
(7) V.MONI	キーを押すごとに、430MHz帯のモニター機能を“ON/OFF”する。 ※1
(8) U.MONI	キーを押すごとに、1200MHz帯のモニター機能を“ON/OFF”する。 ※1
(9) LOW	送信出力をLOWパワーにする。
(0) MUTE	キーを押すごとに、受信ミュート機能を“ON/OFF”する。 ※1
(#) UP (＊) DOWN	VFOモード　：周波数をアップ/ダウンする。 ※2 MEMOモード　：メモリーチャンネルをアップ/ダウンする。 ※キーを押し続けると、スキャン動作になります。 CALL-CHモード：ログメモリーチャンネルを呼び出す。 ※キーを押し続けても、スキャン動作にはなりません。
(A) CLR	入力中の置数（周波数やメモリーチャンネル）を取り消し、入力前の表示に戻す。
(C) SPEECH	オプションの音声合成ユニット（UT-66）を装着している場合、“MAIN”バンドの表示周波数を音声で知らせる。
(D) ENT	周波数やメモリーチャンネルの置数を入力するときに使用する。 ※3 ①VFOモードのときは、周波数設定ができる。 ・432.560MHzの設定 (D)(4)(3)(2)(5)(6)と押す ・1292.120MHzの設定 (D)(1)(2)(9)(2)(1)(2)と押す ②MEMOモードのときは、メモリーチャンネルが設定できる ・1チャンネルの設定 (D)(0)(1)と押す ・49チャンネルの設定 (D)(4)(9)と押す ※プログラムスキャン用メモリーチャンネルを設定することはできません。

※1：マイクリモート機能を解除すると、連動して解除されます。
※2：周波数のアップ/ダウンは、設定されたチューニングステップで動作します。
※3：バンド外の周波数や指定以上のメモリーチャンネルを設定した場合は、エラービープ音を鳴らして元の表示に戻ります。

13 保守について

13−1 リセットのしかた

本機の電源を投入したとき、または運用中にCPUの誤動作や静電気の外部要因で、ディスプレイの表示内容がおかしくなった場合は、いったん電源を切り、数秒後にもう一度電源を入れてください。
それでも異常があれば、次のようにリセット操作を行ってください。
なお、リセット操作には下記のような機能があります。

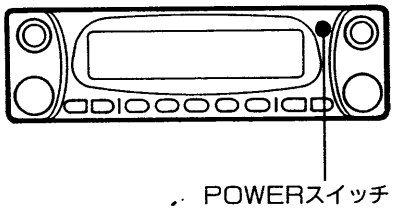
A：ALL（オール）メモリークリア機能
B：パーシャルリセット機能

A ALL(オール)メモリークリア機能

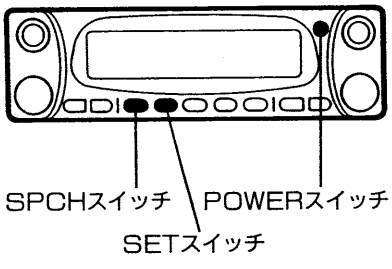
リセット操作を行った場合は、すべての操作モードが初期設定値に戻りますので、運用に必要な情報をセットしなおしてご使用ください。
なお、初期設定値は次のようにセットされています。（次ページ参照）

■ALL(オール)メモリークリアの操作

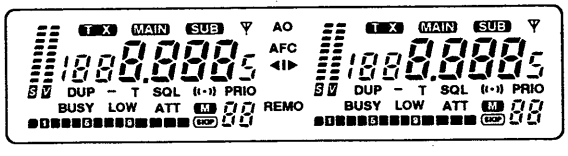
①POWERスイッチで電源を切ってください。



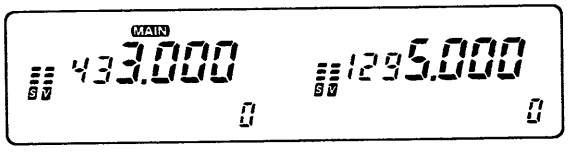
②SETスイッチとSPCHスイッチを同時に押しながら、POWERスイッチで電源を入れます。



SETスイッチとSPCHスイッチを押している間は、すべてのセグメントが点灯します。



SETスイッチとSPCHスイッチから指を離すと、出荷時と同じ表示に戻ります。



■初期設定値

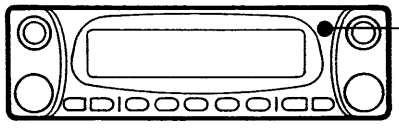
項　　目		430MHz帯	1200MHz帯
表示周波数		433.000MHz	1295.000MHz
操作モード		VFOモード	VFOモード
バンド表示		MAIN	ナシ
メモリーチャンネル表示と周波数		チャンネル0	チャンネル0
	0〜49	433.000MHz	1295.000MHz
プログラムスキャン用メモリーチャンネルの周波数	1A 1b	430.000MHz 440.000MHz	1260.000MHz 1300.000MHz
	2A 2b	430.000MHz 440.000MHz	1260.000MHz 1300.000MHZ
	3A 3b	430.000MHz 440.000MHz	1260.000MHz 1300.000MHz
コールチャンネルの周波数		433.000MHz	1295.000MHz
ログメモリーチャンネルの周波数		すべての内容が消去される	
送信出力		HIGH	HIGH
SETモードの内容		すべて初期設定値に戻る（☞P59）	
イニシャルセットモードの内容		すべて初期設定値に戻る（☞P67）	

B パーシャルリセット機能

メモリーチャンネル、プログラムスキャン用チャンネル、コールチャンネル、ログメモリーチャンネル、イニシャルセットモードの内容を保持し、VFOモード、SETモードの内容を初期設定状態に戻します。

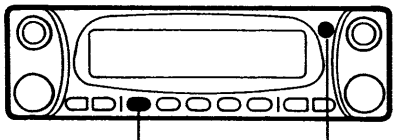
■パーシャルリセットの操作

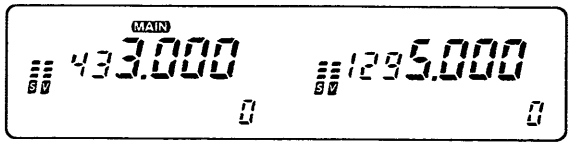
①POWERスイッチで電源を切ってください。



②SPCHスイッチを押しながらPOWERスイッチで電源を入れます。

初期設定状態の周波数で表示されます。



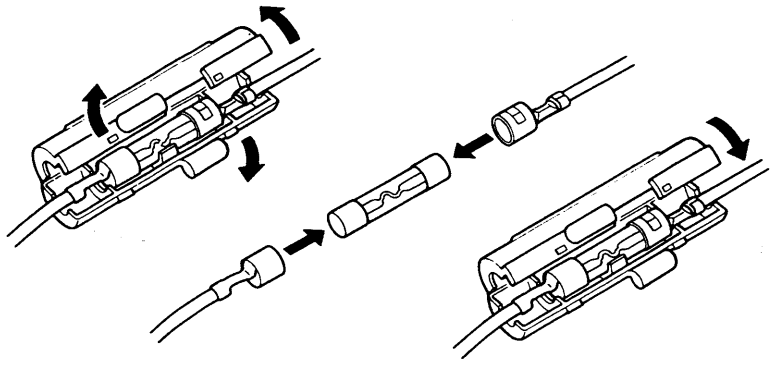


13−2 ヒューズの交換

ヒューズが切れ、本機が動作しなくなった場合は、原因を取り除いた上で、定格のヒューズと交換してください。

①DC電源コードのヒューズホルダーは下記の図を参照して、ホルダーを開けます。
②切れたヒューズを取り出し、新しいヒューズを元どおりに納めます。

●交換のしかた



●ヒューズの定格
IC-3700 ：10A
IC-3700M：15A
IC-3700D：20A

13−3 故障のときは

●保証書について
保証書は販売店で所定事項（お買い上げ日、販売店）を記入のうえお渡しいたしますので、記載内容をご確認いただき、大切に保管してください。

●修理を依頼されるとき
『トラブルシューティング』にしたがってもう一度調べていただき、それでも具合の悪いときは、次の処置をしてください。

●保証期間中は
お買い上げの販売店または弊社各営業所サービス係にご連絡ください。
保証規定にしたがって修理させていただきますので、保証書を添えてご依頼ください。

●保証期間後は
お買い上げの販売店または弊社各営業所サービス係にご連絡ください。
修理することにより、機能を維持できる製品については、ご希望により有料で修理させていただきます。

●アフターサービスについてわからないときは
お買い上げの販売店または弊社各営業所サービス係にご連絡ください。

トラブルシューティング 14

本機の品質には万全を期しています。下表にあげた状態は故障ではありませんので、修理に出す前にもう一度点検をしてください。
下表にしたがって処置してもトラブルが起きるときや、他の状態のときは、弊社営業所のサービス係まで、その状況を具体的にご連絡ください。

状　態	原　因	処　置	参照
●電源が入らない	◎DC電源コードの接続不良 ◎電源の逆接続 ◎ヒューズの断線	◉接続をやりなおす ◉正常に接続し、ヒューズを取り換える ◉原因を取り除き、ヒューズを取り換える	P19 P112 P112
●スピーカーから音が出ない	◎VOLツマミが反時計方向になっている ◎スケルチレベルが最大になっている ◎外部スピーカーの接続不良	◉VOLツマミを調整する ◉SQLツマミを調整する ◉接続を点検し、正常にする	P29 P29 P18
●感度が悪く、強い局しか聞こえない	◎同軸ケーブルの断線またはショート	◉同軸ケーブルを点検し、正常にする	P20
●SUBバンド側の受信ができない	◎SUBバンドオートミュート機能が動作している	◉SUBバンドオートミュート機能を“OFF”にする	P65
●電波が出ないか、電波が弱い	◎同軸ケーブルの断線またはショート ◎送信出力が“LOW-1”または“LOW-2”になっている	◉同軸ケーブルを点検し、正常にする ◉LOWスイッチを押して、HIGHパワーにする	P20 P34
●変調がかからない	◎マイクコネクターの接続不良	◉コネクターの接続ピンを点検する	P21
●MAINバンドで送信出力の切り換えができない	◎SUBバンドアクセス状態（(SUB)表示が点灯）になっている	◉BANDスイッチを約1秒以上押して、SUBバンドアクセス状態を解除する	P25
●周波数が設定できない	◎周波数ロック機能が“ON”になっている ◎MEMOまたはCALL-CHモードになっている	◉SET【LOCK】スイッチを約1秒以上押して、周波数ロック機能を解除する ◉V/MHzスイッチを押して、VFOモードにする	P97 P26
●1MHzステップの可変操作にならない	◎MEMOモードまたはCALL-CHモードになっている	◉V/MHzスイッチを押してVFOモードに戻し、再度V/MHzスイッチを押す	P26 P33
●ディスプレイが異常な表示になる	◎CPUが誤動作している	◉CPUのリセット操作を行う	P110

状　態	原　因	処　置	参照
●プログラムスキャンが動作しない	◎スケルチが開いている ◎MEMOまたはCALL-CHモードになっている ◎プログラムスキャン用メモリーチャンネル（1A,1b/2A,2b/3A,3b）に同じ周波数がメモリーされている	◉SQLツマミを回して、雑音の消える位置にセットする ◉V/MHzスイッチを押して、VFOモードにする ◉プログラムスキャン用メモリーチャンネル（1A,1b/2A,2b/3A,3b）に違う周波数をメモリーする	P29 P26 P47
●メモリー（スキップ）スキャンが動作しない	◎スケルチが開いている ◎VFOまたはCALL-CHモードになっている ◎SETモードのメモリーエリアスキャン範囲に同一のチャンネルが設定されている	◉SQLツマミを回して、雑音の消える位置にセットする ◉M/CALLスイッチを押して、MEMOモードにする ◉SETモードのメモリーエリアスキャン範囲に違うチャンネルを設定する	P29 P26 P64
●マイクのUP/DNスイッチが働かない	◎マイクのALL LOCK機能が動作している	◉マイクのALL LOCK機能を“OFF”にする	P97
●マイクの後面パネルよりダイレクト入力ができない	◎マイクのREAR LOCK機能が動作している	◉マイクのREAR LOCK機能を“OFF”にする	P97
●マイクのPTTスイッチで送信しても途中で受信に戻る	◎タイムアウトタイマー機能が動作している	◉タイムアウトタイマー機能を“OFF”にする	P69
●マイクのPTTスイッチを押すと、送信を保持する	◎ワンタッチPTT機能が動作している	◉ワンタッチPTT機能を“OFF”にする	P35
●マイクからワイヤレス操作ができない、または動作しないときがある	◎マイクの内蔵バッテリーの容量が消耗している ◎マイクの内蔵ニッカド電池の電源回路が“OFF”になっている（アドレススイッチ S4）	◉マイクケーブルを接続して、充電を行う ◉マイクのアドレススイッチのS4を“ON”にする	P23 P22
●マイクを本体に接続しているのに操作できない	◎本機とマイクのアドレスが違っている ◎マイクのALL LOCK機能が動作している	◉本機とマイクのアドレスを同一にする ◉マイクのALL LOCK機能を“OFF”にする	P22 P97
●マイクから各種機能の設定ができない	◎“MAIN”バンドまたは“SUB”バンドの設定がされていない	◉必ず“MAIN”バンドまたは“SUB”バンドの設定をする	P25

免許の申請について 15

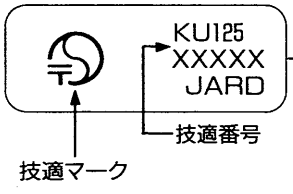
本機は技術基準適合証明を受けた「技適証明送受信機」ですから、免許申請書類のうち「無線局事項書及び工事設計書」は、下記の要領で記入してください。

21 希望する周波数の範囲、空中線電力、電波の型式					
周波数帯	空中線電力	電波の型式	周波数帯	空中線電力	電波の型式
430M	35注	F3)			)
1200M	10	F3)			)
		)			)
		)			)
		)			)
		)			)
		)			)
		)			)
		)			)
		)			)
		)			)
		)			)
		)			)
		)			)

注．IC-3700Mで申請するときは、25Wと記入してください。
IC-3700で申請するときは、10Wと記入してください。

本機の後面パネルに、技適証明マークと"K"から始まる技適証明番号が印刷されたシールを貼っています。
その番号を記入してください。

●IC-3700D



「技適証明送受信機」ですから、記入する必要はありません。

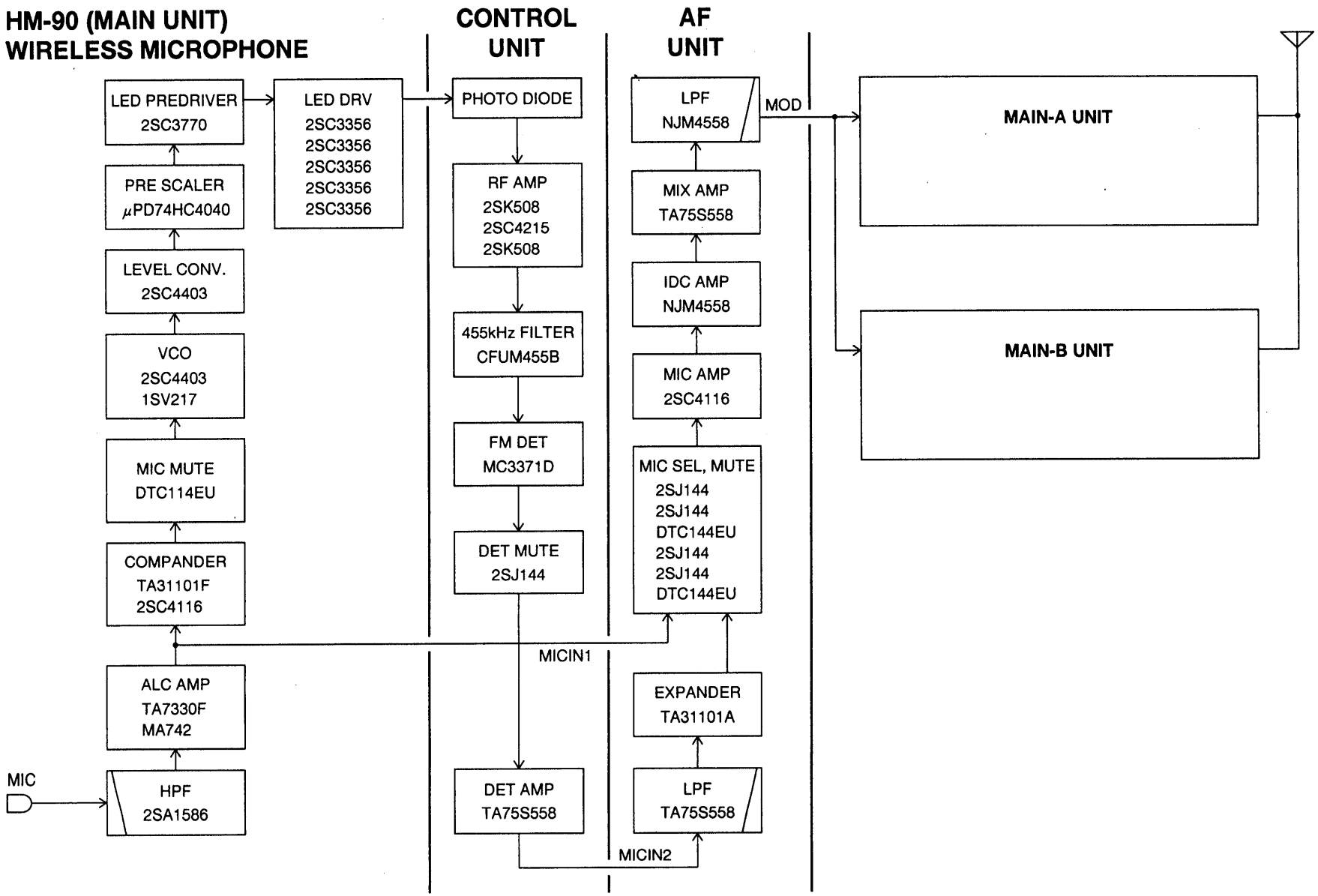
※付属装着(バケットなど)を付設した場合は非技適証明送受信機となりますので、右表の中から該当する事項を選んで記入してください。

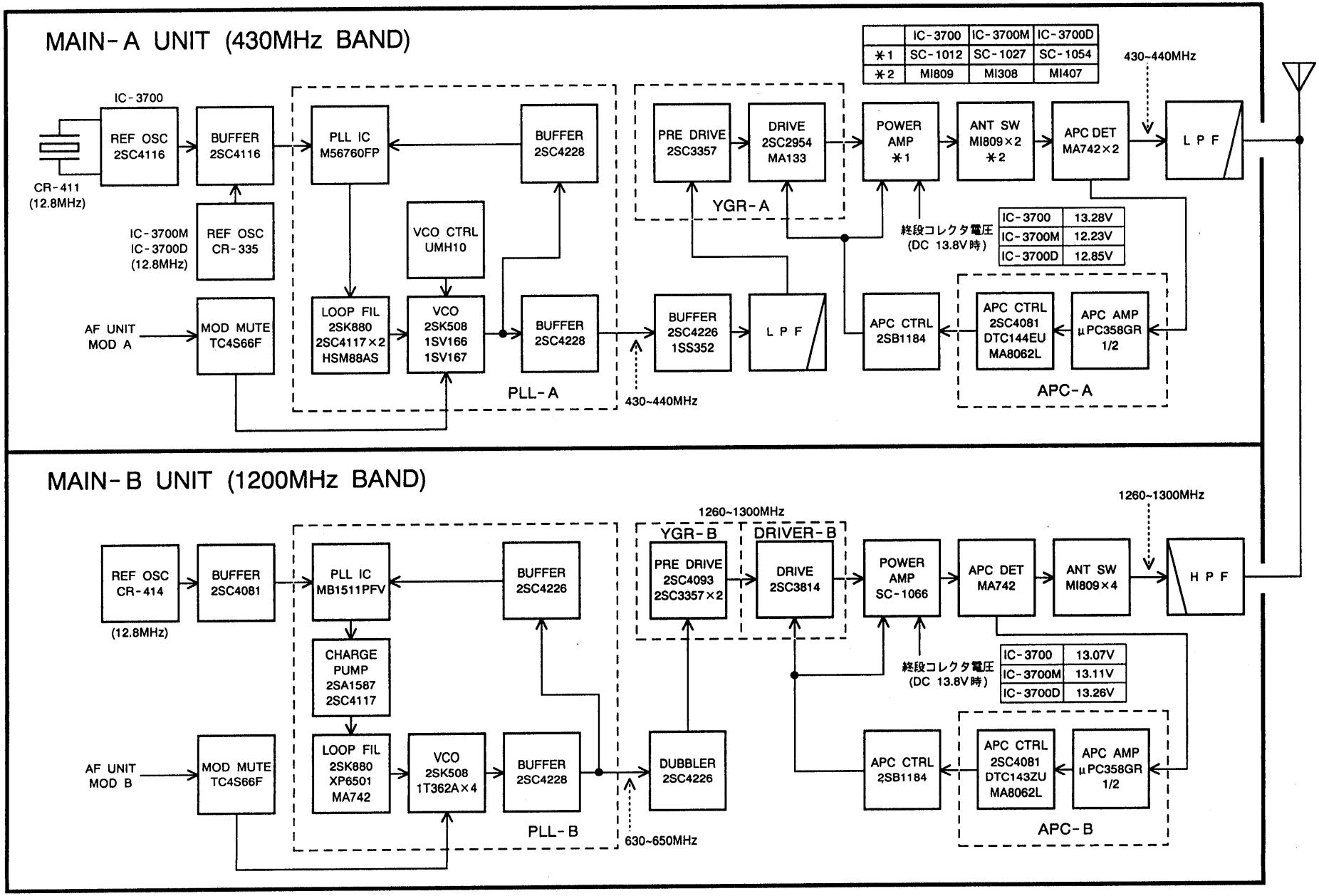
使用する空中線の型式を記入してください。

		・IC-3700D	・IC-3700M	・IC-3700	
22 工事設計		第1送信機	第2送信機	第3送信機	第4送信機
変更の種別		取替 増設 撤去 変更	取替 増設 撤去 変更	取替 増設 撤去 変更	取替 増設 撤去 変更
技術基準適合証明番号		KU125XXXXX	KU126XXXXX	KU127XXXXX	
発射可能な電波の型式、周波数の範囲		F3 { 430MHz帯 1200MHz帯	F3 { 430MHz帯 1200MHz帯	F3 { 430MHz帯 1200MHz帯	
変調の方式		リアクタンス変調	リアクタンス変調	リアクタンス変調	
定格出力		430MHz帯：35W 1200MHz帯：10W	430MHz帯：25W 1200MHz帯：10W	430MHz帯：10W 1200MHz帯：10W	
終段管	名称個数	430MHz帯：SC-1054×1 1200MHz帯：SC-1066×1	430MHz帯：SC-1027×1 1200MHz帯：SC-1066×1	430MHz帯：SC-1012×1 1200MHz帯：SC-1066×1	
	電　圧	430MHz帯：12.85V 1200MHz帯：13.26V	430MHz帯：12.23V 1200MHz帯：13.11V	430MHz帯：13.28V 1200MHz帯：13.07V	V
通信空中線の型式				周波数測定装置	A有(誤差　　) B無
その他の工事設計		電波法第3章に規定する条件に合致している。		添付図面	□ 送信機系統図

15 免許の申請について

■IC-3700/M/D 送信機系統図





	IC-3700	IC-3700M	IC-3700D
*1	SC-1012	SC-1027	SC-1054
*2	MI809	MI308	MI407

IC-3700	13.28V
IC-3700M	12.23V
IC-3700D	12.85V

IC-3700	13.07V
IC-3700M	13.11V
IC-3700D	13.26V

16 定格

1.一般仕様

・周　波　数　範　囲：430.000～440.000MHz
　　1260.000～1300.000MHz
・電　波　型　式：FM(F3)
・アンテナインピーダンス：50Ω 不平衡
・電　源　電　圧：DC13.8V ±15%
・消　費　電　流：受信最大出力時　1.8A以下
　　待ち受け時　　1.2A以下
　　送信時

		430MHz帯	1200MHz帯
IC-3700	HIGH	4.5A	6.5A
	LOW-2	3.0A	――
	LOW-1	2.2A	3.5A
IC-3700M	HIGH	8.5A	6.5A
	LOW-2	5.5A	――
	LOW-1	4.0A	3.5A
IC-3700D	HIGH	11.5A	6.5A
	LOW-2	6.0A	――
	LOW-1	5.0A	3.5A

・使　用　温　度　範　囲：－10℃～＋60℃（但し、HM-90充電時は0℃～＋40℃）
・周　波　数　安　定　度：430MHz帯 ±10ppm（－10℃～＋60℃）
　　1200MHz帯 ±3ppm（－10℃～＋60℃）
・外　形　寸　法：IC-3700　　140(W)×40(H)×159(D)mm 突起物を除く
　　IC-3700M/D　140(W)×40(H)×177(D)mm 突起物を除く
・重　量：IC-3700　　1.36kg
　　IC-3700M/D　1.50kg

2.送信部

・送　信　出　力：

		430MHz帯	1200MHz帯
IC-3700	HIGH	10W	10W
	LOW-2	3W	――
	LOW-1	0.5W	1W
IC-3700M	HIGH	25W	10W
	LOW-2	10W	――
	LOW-1	3W	1W
IC-3700D	HIGH	35W	10W
	LOW-2	10W	――
	LOW-1	5W	1W

・変　調　方　式：リアクタンス変調
・最大周波数偏移：±5.0kHz
・スプリアス発射強度：430MHz帯 −60dB以下
　　1200MHz帯 −50dB以下
・マイクロホンインピーダンス：600Ω

3.受信部
・受　信　方　式：ダブルスーパーヘテロダイン
・中間周波数：

	1st IF	2nd IF
430MHz帯	42.25MHz	455kHz
1200MHz帯	72.20MHz	455kHz

・受信感度：−16dBμ(0.16μV)以下 12dB SINAD(TYP.)
・スケルチ感度：−18dBμ(0.13μV)以下 Threshold
・選択度：15kHz以上/−6dB
　　30kHz以上/−60dB
・スプリアス妨害比：60dB以上
　　(1200MHz帯、IF/2のみ50dB以上)
・低周波出力：内部スピーカー 2.0W以上(8Ω負荷 10%歪率時)
・低周波負荷インピーダンス：8Ω

※測定値は、JAIA(日本アマチュア無線機器工業会)で定めた測定法によります。
※定格、外観、仕様などは、改良のため、予告なく変更することがあります。

■IC-3700シリーズの外観について
前面パネルの機種名表示は、本機のシリーズ名(IC-3700)が表示されていますが、個々の機種名(IC-3700/IC-3700M/IC-3700D)は、本機後面のシリアル番号プレートに表示しています。

IC-3700/M/Dのオプション

BC-96	HM-90用充電スタンド
EX-1513	赤外線ワイヤレスマイク受光ユニット(HM-90用)
HM-77	DTMFメモリー付きハンドマイクロホン
HM-78	アップ/ダウンスイッチ付きハンドマイクロホン
HM-90	ワイヤレスマイクロホン(補修用)
MB-17A	ワンタッチモービルブラケット
MB-58	コントロールブラケット
SP-10	外部スピーカー
SP-12	外部スピーカー
UT-66	音声合成ユニット
UT-84	トーンスケルチユニット
CP-13L	ノイズフィルター付シガレットライターケーブル(BC-96電源用)
OPC-288L	BC-96充電用電源コード
OPC-344	DC電源コード(3m/10A)(補修用)
OPC-345	DC電源コード(3m/15A)(補修用)
OPC-346	DC電源コード(3m/20A)(補修用)
OPC-347	DC電源コード(7m/20A)
OPC-438	コントローラー延長ケーブル(3.5m/カバー付き)
OPC-439	コントローラー延長ケーブル(7m/カバー付き)
OPC-440	マイク延長ケーブル(5m)
OPC-441	スピーカー延長ケーブル(5m)

高品質がテーマです。

アイコム株式会社

本　　社	547	大阪市平野区加美東6丁目9—16	
北海道営業所	060	札幌市中央区大通東9丁目14	TEL (011)251-3888
仙台営業所	982	仙台市若林区若林1丁目13—48	TEL (022)285-7785
東京営業所	130	東京都墨田区緑1丁目22—14	TEL (03)5600-0331
名古屋営業所	466	名古屋市昭和区長戸町2丁目16—3	TEL (052)842-2288
金沢出張所	921	金沢市高畠1丁目335	TEL (0762) 91-8881
大阪営業所	547	大阪市平野区加美南1丁目8—35	TEL (06)793-0331
広島営業所	733	広島市西区観音本町2丁目10—25	TEL (082)295-0331
四国営業所	760	高松市塩上町2丁目1—5	TEL (0878) 35-3723
九州営業所	815	福岡市南区塩原4丁目5—48	TEL (092)541-0211

●サービスについてのお問い合わせは各営業所サービス係宛にお願いします。

A-5309S-1J 1994 © Icom Inc.